

2020 栄光への軌跡

2020年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



一般入試

東北大学、埼玉大学、宮城教育大学、宮城大学

東北大学 経済学部
一般入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
増田中出身

仲間同士で切磋琢磨しながら 高め合えるのが特進の強みです

■得意な数学をできる限り伸ばして 入試に向けての武器にしました

特進での高校生活スタート時から、大学受験を念頭において日々の勉強に励みました。高校3年生の夏までに、主要3科目の基本事項を網羅し、夏以降に実践的な問題を解くことで学力に磨きをかけました。暗記物に関しては、机に向かってないときでも頭の中でアウトプットをすることで、記憶を定着させました。

生活面でも大学合格を第一に考えて学校生活を送り、それに伴った行動をしました。また、模試などでどんなにより成績を取ったとしても「3年前のことは繰り返さない」と心に決め、慢心せずに常に危機感を持って勉強に取り組みました。得意科目の数学は、時間のある高1、高2のときに出来る限り伸ばしました。これは結果的に受験の際に大きな武器となりました。

■受験勉強は早いうちから 始めるに越したことはありません

特別進学コースを選んでよかったと思うのは、近い目標を持った者同士で切磋琢磨しながら勉強できたこと。そして同じクラスの文系を目指す二人の友人と勉強の合間などにしたたわいのない会話は、受験期の精神的にも不安定な時期の私にとって大きな支えとなりました。

特進の生徒の場合、部活動をやってない生徒が大半で、受験生として生活面での大きな転機となるものはありません。ですから、現在勉強が習慣になっていない人は、できるだけ早いうちに受験を意識した生活にシフトしたほうが良いと思います。そうしないと、それまでの生活を引きずることになってしまいます。受験勉強は早いうちに始めるに越したことはない。後輩の皆さんも早いうちに勉強を始めて、合格を手に入れてください。

東北大学 経済学部に
一般入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
仙台第二中出身

朝から晩まで自習室で勉強した日々は 高校生活の大切な思い出です

■東北大学は高校での学習の到達点！

脇目も振らず頑張りました

私にとって東北大学に合格することは高校での勉強の到達点だと考え、目標に据えて頑張ってきました。また仙台育英の先生方や他の社会で活躍されている方で、東北大学の卒業された方々の多くが質実剛健で、責務を見事にこなしている姿を見て、憧れを感じました。

受験勉強で心がけたことは、数学の公式はすぐに導出できるようにすること。公式の証明の方法などは意外にも他の問題に対しても応用が利くことが多い。とにかく同じ問題集を5回ほど繰り返すことが重要だと思います。

英語は、単語を毎日1時間半かけて脳に詰め込みました。英文解釈の基盤として英文法の理解があるので、これもやっておくと楽になります。英語長文は多読と音読で乗り切れます。

国語は、1・2年生は時間があるので教科書の文章を精読しておくといいと思います。現代文には意外にも正当な読解法、解答法が存在します。これを大学の過去問を繰り返し解くことで、自然にできるようにしました。古文漢文は学校の授業を基本にして、単語、文法はひたすら自習して解釈のコツを掴むようにしました。

■クラスメートがひたむきに

頑張る姿に勇気づけられました

高校生活で得られたのは、多くの志の高い仲間と競い合えたことです。特にクラスメートがひたむきに勉強に取り組む姿には大いに勇気づけられました。

さらに、高校受験で失敗した苦い記憶から、背水の陣を敷いて朝から晩まで勉強に取り組みました。張り詰めてばかりでも気力が持たないので、勉強中に好きな音楽を聞くなどして心を落ち着かせました。

3年間、朝から晩まで学校の自習室に残って勉強する日々を繰り返したためか、今でも薄暗い電灯を見る度にそのときの記憶が蘇ります。受験勉強に行き詰まったときでも、友達との語らいで温かい気持ちで胸が満たされ、気持ちが楽になりました。勉強漬けだった高校生活も私にとっては大切な思い出です。

東北大学は基礎学力さえあれば合格できますが、教科書レベルだけで基礎はつきません。そのギャップを埋めるためにみなさん頑張って下さい。埋め立て作業という工事の土台は、この特別進学コースの授業であることに違いありません。

東北大学 工学部 電気情報・物理工学科に
一般入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
長町中出身

学習環境は十分整っている！ あとはやる気次第です

■予習をどんどん進めて

授業は復習の時間に充てるのが合格のカギ

医療機器開発の元となる医工学に興味があります。日本で最初の医工学研究科が東北大学に出来たことを知り、この大学で医工学を研究してみたいと思い、工学部電気情報物理工学科を目指しました。

高校1、2年のときの自分自身で決めた学習テーマは「基礎の徹底」。特進では勉強時間を多く取れたので、高校での勉強は、前倒ししてどんどん進めて行きました。そうすることで、受験の時期になってから問題演習に充てる時間が十分に取ることができました。自分で予習を進め、学校で復習というサイクルを3年間通せたことが合格へのアプローチになったと思います。

■一度きりの学園生活、

思い切り楽しんでください

高校は学年が進むにつれて学年行事が少なくなっていく、模試が増えて勉強中心の生活にシフトしていきます。ですから、日々の学校生活もそうですが、スプリングチャレンジや文化祭などのイベントはしっかり楽しみましょう！一度きりの学園生活ですから後悔のないよう送ってください！

私は3年間やってきた基礎の徹底のおかげで合格を勝ち取れたと言っても過言ではありません。特進の皆さんは他の高校生に比べ勉強時間を長く確保できます。これを活かして、前倒し勉強を進めれば周りとは大きな差を付けられます。宮城野校舎の自習室は綺麗で、周りの先生やクラスメイトは親切な人ばかりなので、学習環境は十分に整っています。皆さんのやる気次第で大学は大きく変わります。勉強はコツコツやっていけば、必ず最後は素晴らしい財産になります。これから辛くなることもあると思いますが、負けないで第一志望大学合格を目指して頑張ってください！

東北大学 農学部に
一般入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
富沢中出身

誰にも負けない得意科目を 持っている受験に有利です

■志望大学は早めに決めて 勉強計画を立てましょう

東北大学農学部を志望大学に定めたのはセンター試験の後でした。それまでは理学部を目指していましたが、大学で何を学びたいかを真剣に考えた末、農学部を目指そうと決めました。しかし、農学部は理学部よりも苦手な英語の配点が高い為、二次試験はギリギリの戦いとなりました。後輩の皆さんは、私のように対策が遅れないように、志望大学は出来るだけ早く決めて、勉強計画を立てて欲しいと思います。

私が結果的に合格できたのは、得意教科を1つだけ持っていたおかげだと思います。受験勉強を重ねていく中で、得意教科を作ることは難しいかもしれませんが、それは1つ持っているだけでかなり有利に働くということを受験を通して実感しました。

■得意な化学を完璧にすることに 全力を注ぎました

1, 2年生のうちには定期テストには本気で取り組んでいましたが、受験勉強としては英語の単語と文法ばかり勉強していました。僕は部活はしていなかったので、ゆっくりと単語、文法を覚えていきました。しかし、数学の勉強は1年生のうちから始めるべきだったと反省しています。3年生の時は最短で点数に繋がりそうな暗記教科を多めに勉強するとともに、得意な化学を完璧にすることに力を注いでいました。

自分の受験勉強を振り返ってみると、結果はともあれ反省点が山ほどあります。それは私が受験を意識し始めたのが遅かったからだと思います。後輩の皆さんには、受験をなるべく早くから意識して、後悔のない受験勉強をして欲しいと思います。

埼玉大学 経済学部
一般入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
多賀城中出身

学校の学習スペースを 最大限に活用しました

■睡眠時間が足りないと

集中できず効率が悪くなってしまふ

3年生の夏の時点で志望大学が絞りきれっていませんでした。そこで様々な大学を紹介する説明会に出かけました。もともと経済学部に興味があり、都心からも近く就職をする際も有利かなと思ひ、埼玉大学を志望大学に決めました。

志望大学合格に向けてただがむしゃらに勉強しても効率が悪いと思つたので、模試に合わせて勉強をしました。前回の模試でできなかった分野なども考へて、"次の模試までにはこの科目のこの分野は完成させておこう"などと決めておくようにしました。そうすることで自分の苦手な部分や、やらなければいけないことが明確になるので成績もあがっていきました。そして、しっかりと睡眠はとるよう意識していました。自分の中では6時間を下回ると、授業や勉強に全く集中ができず、途中で眠くなつてしまつたので、やはり寝ることは大切なのだと感じました。

■模試の判定を気にしすぎず

やる気を出して勉強を続けましよう

無事合格できたのは、仙台育英の学習環境と周りの友達のおかげだと思つています。2年生の10月頃「朝勉強しないか」と友達に誘われたので、そこから朝早く学校に来て勉強し始めました。放課後は宮城野校舎の学習室オークルームで勉強しました。ずっと同じ場所でやるのは流石に気が滅入ってしまうので、朝はミーティングルームやGPホール上の学習スペースで勉強しました。放課後の勉強でお腹が空いた時は友達と購買に行くなどして、気分をリフレッシュして集中して勉強できました。センターが終わつた後も集中力を切らさず最後まで学校に来て勉強しました。

模試の判定をあまり気にしないで欲しいと思ひます。判定が良かったとしても慢心せず、判定が悪かったとしてもやる気を出して勉強し続けて欲しい。勉強をしても成績が中々上がらない時もあるかと思ひますが、継続することで力も付いてきます。危機感を覚へて自分を追い込むことができるのは現役生の強みだと思ひるので、頑張ってください。

宮城教育大学 教育学部 特別支援教育教員養成課程 聴覚・言語障害教育コースに
一般入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
白石東中出身

センター試験の結果に悩みましたが 周りのお陰で前を向くことができました

■同じ大学を目指す友人と 支え合い努力を続けました

私が受験勉強を始めたのは、3年生になってからでした。1, 2年生の頃は定期テストで良い点数を取れるように勉強する程度でした。勉強は、学校のある日は友人と一緒にするようにしていました。先輩方から友人と勉強した方が良いと仰っていたこともありますが、同じ大学を目指す友人と一緒にいることで、その大学についての情報を共有することができ、また、お互いを支え合いながら前に進んでいけたと思っています。休日は家で勉強していました。家にいる時は勉強する気がなくなってしまうがちだったので、そのような時は自分が大学生としてどのようなことをしているのかを想像することでやる気を出していました。センター試験が近づいて来たら、センター試験本番のように二日間で時間を計って過去問を解いていました。そして、センター試験本番では、目標としていた点数に届かず、実力不足を感じ、もっと早く勉強を始めていれば良かったのではないかと、もっと自分に適した勉強法があったのではないかと様々なことを考えてしまいました。

■二次試験ではベストを尽くし 後悔はありませんでした

二次試験に向けてすぐに気持ちを切り替えなければならないのに、私は気持ちを切り替えるのに受験大学を決定するまで時間がかかってしまいました。その間は、いつも一緒に勉強していた友人やクラスの友人にとっても支えられました。先生方と何度も話し合い、また、友人や家族、先生方が私にかけて下さった言葉の一つ一つが励みになり、前を向いて二次試験の勉強をすることができました。二次試験終了後は、もっとこうすれば良かったのではないかと、センター試験後のような思いはなく、やり切ったという思いだったので、合格した時には、センター試験後の後悔は吹き飛び、うれしさと先生方や友人、家族に対する感謝が込み上げてきました。

これから受験を控える皆さんには、後悔することのないように、高校生活を送ってほしいと思っています。頑張ってください。応援しています。

宮城教育大学 教育学部 特別支援教育教員養成課程 聴覚・言語障害教育コースに
一般入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
宮城教育大学附属中出身

辛いのは受験生みんな同じ！ 逃げたくなる時こそ勉強しよう

■モチベーションを上げるまで

ノートに勉強時間や内容を記録しました

小学生の頃から教師を目指しており、教育大学に行きたいと考えていました。公募制推薦を受けた際、初等教育について調べていくうちに小学生の教師の魅力を感じました。また、身近に障害を持った人がいたことから障害についてや障害教育を学びたいと考えるようになり、両方の免許が取得できるこの学科を選びました。

高校1、2年の頃は勉強方法が確立せず、成績があまりよくありませんでした。2年の冬から一緒に勉強する仲間と環境が整い、朝や昼休みの時間にGPホール上の学習スペースや執務室前で勉強をしていました。成績が悪く、勉強の質も量も上げなければいけなかったため、夜は遅くまでやり、朝は早起きする、という生活をしていました。

勉強内容は参考書とテキストを使い、その日や週に決めた内容をひたすらに繰り返していました。自分のモチベーションが上がりやすくなるまではノートに勉強時間や内容を記録していた時期もありました。

■諦めずに最後まで努力すれば、 どんな形でも力になるはずです

受験生は「覚悟・忍耐・習慣」が重要だと思います。とにかく「絶対に合格してやる」という気持ちで粘り強く頑張りました。成績が悪く判定が悪かった時も、センター試験で失敗して思うような成績が取れなかった時も決して諦めず、逆転合格するつもりで勉強に臨んでいました。ゲーム・テレビなどのさまざまな娯楽を絶ち、友人と会うことも控えて、とにかく勉強に励んでいました。辛いことや上手くいかないことがあっても、決して諦めずに最後まで努力すれば、たとえ合格しなかったとしても、納得がいくものになると思います。中途半端に勉強していると、後で後悔すると思います。

受験勉強は質も量も圧倒的に増やさなければいけません。「眠い、集中できない」などは自分の意思次第で変えられると思います。勉強はランニングと同じで、毎日してる人にとって苦ではないと思います。長時間勉強もするようになると思いますが、一度でも自分ができる最大限の長時間勉強を経験していれば、10時間と言われても耐えられると思います。

モチベーションが上がる動画を見たり、先生に言葉を頂いたり、違う教科をしたりと、モチベーションややる気を変える方法は調べれば山ほどあります。辛いのは受験生みんな同じなので、勉強から逃げたくなる時こそ無理矢理でも勉強するといいと思います。勉強を頑張るすべての受験生が合格できることを願っています。

宮城大学 事業構想学群に
一般入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
上杉山中出身

目標が異なる友達同士で互いを尊重し 周囲に感謝して受験に臨みましょう

■先生方の親身なご指導で 自信が付いていきました

1年生の夏に宮城大学のオープンキャンパスに行き、すぐに第一志望に決めました。事業構想は文理融合の学群で、事業プランニング、地域創生、価値創造デザインの3つの学類があり、2年で学類配属が決まります。私はもともと経営学に興味があって志望していましたが、やりたいことはいつ変わるかわかりません。様々な分野を学ぶことができるという魅力にとっても惹かれました。

しかし、3年生の春に模試の成績が一気に落ちました。焦りを感じ、学校の放課後講習を全て申し込み、先輩から参考書をいただいて勉強方法を聞いたり相談にのってもらったりしました。また、夏休み中は2年生からの模試を全て解き直し、模試は学校の進度に関係なく全範囲から出題されるので、学習動画で教科書の習っていない範囲を予習しました。その後の模試では志望者内の1位を取ることができました。

私は3年間塾に通わずに公立大学に合格するという目標があったので、先生方に最後の最後まで助けて頂きました。受験する大学の過去問を分析し、類似問題を出して下さり、遅い時間まで親身になって指導して下さいました。先生方と話しているだけで焦りや不安よりも自信がついていきました。各教科の先生方に本当に感謝しています。

■受験に挑めるのは保護者が ついていてくれるからです

また、受験を迎える上で大事なことはお互いを尊重することと、周りへの感謝をすることです。やりたいことも進む道も人それぞれです。みんな自分の志望大学に誇りを持って努力しています。お互いの進む道を応援し、助け合える友達を持つことがとても大切です。私はクラスの英語が得意な友達、数学が得意な友達それぞれに質問し、分かるまで教えてもらいました。また点数を競い合ったり、悩みを相談し合ったりする中で受験を乗り越えることができました。

大学に行くことができるのは当たり前のことではありません。目指すことができるのは保護者がいてくれるからです。受験ができるという感謝を忘れないことが大事なことだと思います。

宮城大学 事業構想学群に
一般入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
中野中出身

不得意教科の克服には早くから取り組み 得意教科の勉強も並行して続けましょう

■受験を見据えた勉強をせず

3年になって苦労しました

大学進学を志した時期…2年生の2月くらいまでは定期テストで点を取るためだけの勉強をしていました。なので、定期テストではクラスで上位を取っていましたが、模試になると成績がかなり下がっていました。模試の結果を見てこのままではいけないと思い受験に向けての勉強を始めました。それまでも定期テスト以外にも勉強はしていましたが考えてみると身の入っていない勉強をしていたと思います。明確な目的を持ってやらないと意味のない時間を過ごしてしまうので注意して下さい。

勉強について…3年生になってからは理科や社会も勉強し始めました。私は理系だったので理科を主に頑張りました。今まではあまり勉強していなかった分とても辛い思いをしました。夏休みは朝の10時から夜の6時半まで毎日欠かさず近所の図書館に行っていました。一日中ずっと生物をやった日も何度もあります。ですが、その辛い思いが受験に受かった要因なのではないかと思います。不得意教科を克服するには量をこなすしかありません。ですが、一日中不得意教科だけをやるというのも長続きしません。早いうちから取り組まないと間に合いません。自分は数学が苦手で夏休みがあるなら間に合うと考えていましたが、夏休みは主に理科、秋になっても理科が思ったより伸びず理科をやり、古典などもやらないといけなかったので数学を重点的にやる時間はありませんでした。その結果、数学は本番でもかなり足を引っ張りました。

■勉強は忘れるものと割り切り

繰り返し取り組みました

スランプについて…私は3年の夏のマーク模試で英語が160点で偏差値も高く出たのですっかり油断してしまい、英語の勉強時間を他の教科に回せると思い英語を授業以外でやらないことになってしまいました。その結果次の模試ではなんと60点もさがってしまいました。そこから英語を焦りながらやりました。精神的に一番辛い思いをしました。模試などを受けた時は悪かった教科はもちろん、良かった教科にも気をつけて勉強した方が良いと感じました。

お勧めの勉強法…一日やって完璧に理解できたもの以外はだいたい忘れます。忘れるものだと割り切って繰り返すことが大事だと思います。精神的にも楽になります。繰り返すことは全教科使えるので何回でも繰り返すことが重要です。

受ける大学には同じ学力層の人達が集まります。気持ちの面で合否が変わるといっても過言ではありません。自分に自信を持って受験勉強を頑張ってください。

2020 栄光への軌跡

2020年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



指定校推薦

立教大学、中央大学、東京理科大学、東洋大学、学習院大学、
同志社大学、立命館大学、東北学院大学、東北工業大学、
東北文化学園大学、東北医科薬科大学、宮城学院女子大学、
仙台白百合女子大学、石巻専修大学、仙台大学…

立教大学 コミュニティ福祉学部 スポーツウエルネス学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
広瀬中出身

1年次から勉強にしっかり励むことは 充実した高校生活にもつながります

■生徒会の先輩方から多くの 進路情報を得ました

私は指定校推薦で大学に合格するにあたって重要なことは3つあると思います。

1つ目は定期テストです。中学校でも評定に関わってくるから大事だと言われてきましたがそれは高校も同じです。指定校推薦を受ける際に各大学に満たさなければならない条件があります。部活の成績や求められる人物像など多岐にわたりますが、その中で最も重要で日常的に我々に関わってくるものが評定です。大学により求められる評定は異なりますが上位の大学では4.0は必要になります。高校1年生の勉強からしっかり取り組むことが大切になります。

2つ目は生徒会などの校内活動です。私は生徒会執行部に所属していました。このことはアピールポイントになるだけでなく自分の見聞を広げることにもつながります。私は部活動に所属していなかったので先輩方とのつながりはなかったのですが、生徒会の先輩方と話しをすることによって進路についてたくさんの情報を得ることができました。

■出願前に迷うことのないよう 事前に情報収集しましょう

3つ目は大学についてより多くの情報を集めることです。仙台育英にはたくさんの指定校推薦枠の大学があります。校内模試が終わり、いざ出願するぞという時に両親からこの大学もよいのではないかと提案を受けました。私は出願する大学のことしか考えていなかったのが直前になってとても悩みました。指定校推薦の出願システムは少し複雑なので事前に大学の情報をより多く集めることが大事だと思います。

高校1年生から、しっかり勉強に取り組むことが進路だけでなく高校生活の充実にもつながります。頑張ってください。

中央大学 商学部 商業・貿易学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
五橋中出身

仙台育英で出会った全ての人達の支えで 合格できたと確信しています

■部活動の顧問の先生や部員の 皆が協力してくれました

私は入学当初から一般入試で大学受験をするつもりでしたが、3年生の春に高校生活で取り組んできた部活動や海外研修での経験を生かして受験ができる指定校推薦を目指すことに決めました。

校内選考に大きく関わる校内模試前は、部活動を休むことも多くありましたが、自分の将来を応援してくださった顧問の先生や部員のみんなの理解があったおかげで勉強に専念することができました。また指定校推薦では高校生活の中でやってきた多くの活動が強みとなりました。部活動や海外研修、資格取得やボランティアなど様々な活動に積極的に取り組んできたことを生かすことができ、自分の自信にも繋がったと思っています。

■何かに夢中になり有意義な 高校生活を送ってください！

私が自らの高校生活を振り返って断言できることは、挑戦と継続は人を大きく成長させるということです。迷っても踏み出す勇気があれば受験や就職もあきらめずに取り組み続けることができると思います。自分のクラスには部活動に所属している人が少なかったため入部することにも戸惑いがありました。しかし放課後講習や日々の授業で先生に質問したり、朝は早く来て学校の自習スペースで勉強するなどして、両立することができました。軟式野球部で出会った部員や先生、保護者の方の存在は自分にとって大きな支えや原動力となり、マネージャーとしての経験は自分の将来を決めるうえでも大切な経験となりました。私は多くのことに挑戦し、それを継続するために積み重ねた努力とそれを支えてくれたこの学校で出会った全ての方のおかげで合格することができたと思っています。自分に厳しく、出会いに感謝を忘れずそれぞれの道に進んでほしいと思います。そして勉強だけ！部活だけ！ではなく自分が夢中になれることを見つけてみることで高校生活は楽しく、そして将来の夢も自然と見つかってくると思います。有意義な高校生活になりますように…。

東京理科大学 基礎工学部 生物工学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
上杉山中出身

校内外の多くの人と交流できる機会に 自ら率先して参加しましょう

■部活動や課外活動に参加し

充実した3年間になりました

推薦入試を終え、私は身に染みて感じていることがあります。それは、時間に余裕のある1,2年生のうちに様々なことに挑戦するべきだということです。自分にとって重要ではないと思ったとしても後に挑戦してよかったと思うことが多々ありました。

私は、元々一般入試の受験を考えていました。入学当初、公立高校の受験に失敗し、努力することに疑問を感じる自分がいました。評定は関係ないから最低限赤点を取らなければいい、課外活動にも参加する必要がないと思っていましたが、それはただ逃げ道を作っているだけにすぎませんでした。そんな考えが一瞬にして無くなったのは、周りの人の影響です。自分より頭のいいクラスメートがたくさんおり、自分もくよくよしてはいられないと感じました。そして生徒会執行部やteam若獅子にも所属し、多くの人と交流することで高校生活を充実させたいと思うようになりました。また、理系に進みたいと考えていたため、サイエンス・コ・ラボにもよく参加しました。結果的にこれらの経験は受験にとっても役立つことになりました。しかし、たとえ私が推薦入試を利用しなかったとしても、挑戦してよかったと心から思ったと思います。特に特別進学コースの人は、部活動をしていない人が大半なため自分から率先して行動していくことがより大切になります。3年間は想像以上にあっという間です。後輩の皆さんにはぜひ、推薦入試を考えていなくても様々なことに挑戦してほしいです。高校生活がより充実したものになると思います。

■一日の学習ノルマの設定で

集中力が向上しました

指定校推薦での合格を目指すにあたって、評定と校内模試はとても重要です。私は、定期考査や模試に合わせて目標を立て勉強していました。初めは、なかなか計画通りに進めることができず計画倒れになってしまうことが多くありました。そこで一日のノルマを設定し終わるまで寝られないと決めました。すると、集中力も上がり、だらだらと勉強することが無くなりました。結果に一喜一憂しがちでしたが、今振り返ると危機感が頑張る糧になっていたと思います。

そして何より合格できたのは多くの人のおかげからだと思います。志望理由書の添削を数え切れないほど行ってくださった素晴らしい文才の持ち主である栗本先生、面接練習を行ってくださった正人先生、戸田先生。ほかにも感謝すべき先生方や友人がたくさんいます。本当にありがとうございました。

東京理科大学 経営学部 経営学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
宮城野中出身

先のことに気を取られることなく 眼前の目標達成に全力を尽くしましょう

■志望大学合格はあくまでも 目標の一つでした

私は遠い将来の夢よりも、短期的な目標を大切に生活してきました。毎年の初めに、その年の目標を立てることにしています。そうすると、自ずとその目標を達成するための、さらに細かい目標が立つからです。だから私にとって志望大学合格は栄光や夢ではなく、一つの目標にすぎません。しかし、この目標は簡単に成し遂げられた訳ではなく、細かい目標をいくつも達成することで成し遂げることができました。

まず最初に、校内選考を通過することが課題でした。そのために内申書を良くすること、英検などの資格取得に努めました。定期考査で高得点を取ることや授業態度に気を使いました。英検は担任の先生の助言でダブル受験するなどして、確実に取得できるようにしました。こうした努力のおかげで校内選考を通過することができました。

■入念な練習が自信になり 面接を乗り切りました

次は大学側から課される書類や面接などの準備です。書類はOKをもらうこと、面接は不安要素を全て取り除くことを目標に取り掛かりました。本番では練習で扱わなかったような質問もされましたが、何度も練習したという自信が自分を落ち着かせ、意見をしっかりと答えることができました。何度も練習につきあってくださった先生方のおかげで悔いを残さず終えることができました。

このように目標を達成するためには、さらに細かい目標の達成という準備が大切だと、改めて高校生活で実感しました。だから今、志望大学合格という目標しか立てられていない人は、細かい目標を立てることをしてみてください。そうすると自ずと達成までの道筋が見えると思います。先のことに気を取られず、目の前の目標に情熱とプライドを向けてください。絶対に叶えるという強い意志と謙虚さがあなたの目標一つひとつを達成へと導いてくれます。そして私は、志望大学合格の先にある栄光へ向けて邁進していきます。

東洋大学 文学部 哲学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
中山中出身

「未来における後悔」を減らすために 一日一日を大切に過ごしましょう

■模擬講義が哲学科志望の 契機になりました

大学へ行って学問に打ち込みたいと本気で思ったのは高校3年の春でした。それまでは志望大学や学部を「何となく」といった漠然とした楽観的なイメージだけで選択しており、そこには決意や熱意といったものは殆どありませんでした。怠惰であった私を大きく変える契機となったのは、大学のオープンキャンパスでした。偶然参加した哲学科の模擬授業にとっても心が惹かれ、大学で哲学を学びたいと直感的にそう思いました。加えて私自身も高校で学習した倫理が得意であったこと、そして両親が哲学科への進学を同意してくれたことで私自身の進路を決定しました。

■射撃部では思い出せない程 多くの経験ができました

私は在学中ライフル射撃部に所属していました。毎日練習するのは勿論ですが、その他にも大会のために遠征があり、部活と勉強の両立に苦労しました。1年生の時には勉強に手が回らず、苦手な英語は模試で学年最下位をとった事もありました。流石にこのままではいけないと思い、1年生の終わり頃から英語に着手しました。朝は早めに登校し、ホームルームが始まるまでの間と昼休みに図書室をほぼ毎日利用しました。2年の冬に英検2級に合格し毎日の努力が結果として現れたのはとてもうれしかったです。

部活動は私にとって高校生活で最もはつらつとした時間でした。実に多くのことを経験させてもらいました。県大会、インターハイ、ジュニアオリンピック等、1から10まで思い出すのに苦労する位の経験です。入賞する事こそ叶いはしませんでした。それでも勉強だけしていたら決して出場することがなかった全国大会を含め数多くの舞台に立てたこと、それが今の私の糧となりました。支えてくれた顧問の先生、学友、部員、もちろん、両親には感謝の念しかありません。

後悔しない人生を歩むのはとても難しい事だと私は考えます。だからこそ重要なことは一生懸命毎日を過ごす積み重ねであると思います。現在における後悔は常に過去によるものである故に不可避ではありますが、未来における後悔は今から変える事が可能です。高校生活では何を目標とし何をするのかは自由です。満足して卒業できるような学校生活を送ってもらいたいと思っています。

東洋大学 経済学部 〈イブニングコース〉 経済学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
利府中出身

進学して更に勉強に励むことにより 知識が増え職業の選択肢も広がります

■勉強がいかに大切かを 心底実感しています

もし、高校在学中にこの大学合格体験記を読んだのなら今すぐ勉強を始めてほしいと思います。自分よりも先を生きている人達は私達に向かって口々に「勉強だけはしておけ」と言います。正直色々な人に言われ過ぎて逆に説得力がなくなり、あまりこの言葉を信じてきませんでした。しかし、高校卒業を目前に控える私でさえ「勉強だけはしておけ」をこの体験記を読んでいる皆さんに伝えたいと思いました。社会に出れば学歴なんて関係ないとする人もいるかもしれませんが、学歴があれば将来就く仕事の選択肢は広がります。将来使わないと思っていた知識を理解することで理解力が身につきます。このように考えると勉強することは意外と意味のあることだと感じるのではないのでしょうか。

■校内模試で上手くいかず 進路を変更しました

さて、もう少し踏み込んで具体的に何を頑張れば良いのかを書きたいと思います。大きく分けて3つあります。一つ目は授業態度とノートを取ること、二つ目は定期テスト、三つ目は校内模試です。意外と普通のことだと思うかもしれませんが、私は基本的にこの三つが大切だと感じています。授業態度を良くしてノートを取り、テスト前に見返して短期集中すればテストで100点を取ることもオール5を取ることもできます。しかし大学に推薦で入学しようとしている人は特に校内模試を頑張ってもらいたいです。実はこれが一番伝えたかったことで、校内模試を大コケした私は指定校推薦をもらえたものの学部変更を余儀なくされました。そのくらい効力のあるテストなので気を抜かずに頑張ってください。

最後になりますが、高校3年間は振り返ってみればあっという間に過ぎ去ります。楽しい事も悲しい事も辛い事も全て青春だと割り切って高校生活を楽しんでください。

東洋大学 社会学部 〈イブニングコース〉 社会学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 情報科学コース卒
拓桃支援学校出身

ボランティア活動に参加したことが 進路に大きな影響をもたらしました

■推薦枠を得るため1年次から 積極的に行動していました

私は入学当初から指定校推薦での大学進学を考えていました。指定校推薦での受験を選んだ理由は、合格率が非常に高いことです。指定校推薦は自分の志望する大学に大きく近づくことができます。指定校推薦を受けるためには、校内選考を突破しなければいけません。校内選考は3年生までの評定平均や出席日数、3年生での第1回校内模擬試験での順位が大きく反映されます。そのため、1年次から評定や欠席日数を意識したり、第1回校内模擬試験に向けての勉強にも取り組んできました。プラスして校内選考では取得した資格、部活動、学校での活動などの記録も考慮されるので、クラスで室長を務めたり、多くの資格にチャレンジしたり、部活動でも積極的に活動しました。しかし、3年間校内選考に向けてたくさんのことに挑戦してきた私でしたが、3年生になって志望していた大学の学部学科が指定校推薦の枠からなくなってしまったり、必要資格が変わり受験できず間近になって進路を変えなくてはならないこともあり、苦勞しましたが、無事、校内選考も突破することができ、3年間でやってきたことが報われたと思います。

■ボランティア活動を通して 多くを学ぶことができました

部活動はインターアクト部に所属し、たくさんのボランティア活動に取り組んできました。盲導犬や光のページェントなどの募金活動、地域の祭りスタッフ、地域マラソンでのスタッフ、障害者施設を訪れ障害を持った高齢者の方とオセロなどのボードゲームをし、触れ合ったりワトトという団体を通してウガンダの難民の子供達と一緒に活動したりと、たくさんのボランティア活動に参加しました。インターアクト部での活動一つ一つは自分にとって良い経験になったと実感しているし、ボランティアをしている中で学んだことや感じたこともたくさんありました。ボランティア活動を通して他の高校の友達もできました。高校3年間を振り返ってみても、ボランティア活動をしていた時間は進路や進学を考える上ではとても充実していたと思います。

東洋大学 食環境科学部 健康栄養学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
茨城 東海南中出身

先生方から信頼を得られるように 3年間地道に努力を積み重ねましょう

■アスリートを陰から支える 管理栄養士になりたい

私は高校3年生になるまで自分のやりたい夢がなく、どこの大学に進学するのか決まっていませんでした。しかし、部活動で食事の栄養バランスの重要性や運動直後に必要な栄養について学ぶ講義があり、そのことをきっかけに栄養について興味を持ち始めました。そしてアスリートのサポートができるような管理栄養士になりたいという夢ができました。夢を実現させるために東洋大学食環境科学部健康栄養学科に進学したいと考えました。

私は親元を離れ、高校では寮生活を送ってきました。部活はもちろんのこと勉強にも力を入れてきました。1年生の頃から無遅刻・無欠席を徹底し、定期考査での高得点、授業態度、ノートの提出を含め、評定オール5を取ること、部活動への取り組みが評価され、指定校推薦をもらうことができました。また、3年生になってからすぐに校内模試があります。フレックスコースでは主に基礎を学ぶので校内模試ではとても不利ですが、過去問等を先生にもらい対策を練り上位に入ることが大事だと思います。

■受験科目が面接だけなのは かえって不安がありました

いろんな大学や学部、学科によって試験内容は異なりますが、私の場合面接だけでした。ある意味、面接だけで嬉しい半分もありましたが、反対に、面接だけで合否が決まってしまうという焦りや不安がとても大きかったです。そのため、面接練習を入念にやりました。たくさんの先生方や友達にも手伝ってもらい、本番の時に自信を持って発言できるように、いろんなことをイメージしながらやることはとても大事だと思いました。その結果、練習通りに応答することができ、無事に合格することができました。

指定校推薦をもらうには、3年間の積み重ねと先生方からの信頼がとても重要です。自分自身に甘くならないように合格後も気を緩めることなく、大学入学後の授業についていけるように高校卒業まで成績を落とさずに一生懸命頑張ってください。

日本大学 国際関係学部 国際総合政策学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
松島中出身

挑戦の機会に恵まれた仙台育英での 様々な経験が合格を手助けしてくれます

■果敢に挑戦した留学が 進路決定につながりました

私の高校3年間はとても充実した3年間でした。しかし、充実させるために特別なことはしていません。私は勉強だけでなく、何事にも恐れずに“挑戦し、経験を積む”ということをしてきました。

では、何に挑戦したのか。私は特に今までに経験しなかったことを積極的に行いました。それをするのは自分が知らなかった世界を知ることができ、視野が広がることや自分の進路の幅を広げることにもつながるからです。私はボランティアに参加したり、生徒会執行部、よさこい同好会に所属するなど様々なことに挑戦しました。高校2年生の時には留学する機会があり、アメリカに3週間留学しました。実際に私はこの留学がきっかけで英語を使って国際情勢を学びたいと思い国際関係の学部に進学しました。

■受験では高校での経験から 得たことが重要になります

しかし、私は挑戦する一方でたくさん失敗もしました。勉強と部活動などの時間のかけ方を誤り、成績が伸びない時もありました。また、国際関係の学部で特に重要な受験資格である英検も2回落ちました。ちなみに国際関係の学部に進学したい人は英検2級以上を取得していると有利です。さらに、指定校推薦で一番考慮される6月の実力テストも思うように点数が伸びず、とても苦しみました。今となっては後悔しかありません。しかし、このように合格体験記を書けているのは勉強だけでなく、様々なことに挑戦したおかげだと思います。部活動をはじめとしたボランティアや留学などを経験したことは他の人にはない自分の強みだと私は考えています。

最後になりますが、高校は入ってからが勝負です。自分が進学した場所で何をしたのか、何を得たのかが重要になります。この仙台育英は多くのチャンスを与えてくれる学校です。自主的に行動すればその分またはそれ以上の恩恵が得られます。なので、小さな事でもいいので挑戦してみてください。それがあなたを合格に導く手助けをしてくれます。

日本大学 国際関係学部 国際総合政策学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
北海道 上ノ国中出身

推薦基準を満たすよう日々の勉強を 積み重ねることが進路実現への近道です

■進路決定までの時間の中で 成長できたと感じました

まず初めに、私は仙台育英という高校に入学できた事をとても嬉しく思います。先生も生徒もとても優秀な人ばかりで刺激を受けました。皆さんへの感謝の気持ちを込めて、合格体験記を書こうと思います。

県内・県外と色々な大学を調べ、自分の進みたい道を探していましたが、そんなに都合良く見つからず大変でした。毎日少しずつ調べて日本大学に辿り着くまでには、結構時間がかかりました。ですが、調べるのに費やした時間は無駄ではなく、自分に合った大学はあるのだなあ実感することができ、自分自身の成長にまた一歩近づいたと思っています。

■毎日少しでも勉強時間を 設けることが大切です

私は、1年生の時から指定校推薦での大学進学を実現させたいと思っており、今まで様々な活動に打ち込んできました。学習面で最も心掛けていた事は、第一に評定を上げる事でした。それぞれの大学によって評定基準が違います。基準よりも下だった場合は、推薦を希望することすら不可能なので、日々の勉強をきちんと行わなくてはなりません。一回の気持ちの緩みが、目標の障害となる場合が出てくるからです。

毎日の積み重ねが、きっと自分の目標への近道となるでしょう。部活動をやっている人は部活動だけで過ごすような毎日にせず、生活の中に多少でも勉強する時間を取り入れる事が大切です。同じ事を何度も聞かされていると思いますが、本当にその通りなのです。私の文章が、これから大学進学を希望する後輩達にとって役に立つものであってほしいと思います。最後になりますが、私の進学に協力していただいた先生方、本当にありがとうございました。大学進学後も勉強に励みたいと思います。

日本大学 生産工学部 建築工学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
沖野中出身

1年次からきちんと勉強することの 大切さを合格できて実感しています

■途中で挫けそうになっても
毎日勉強を怠りませんでした

私が大学進学を目指したきっかけは、子供の頃、一軒家へ引っ越す時によく行った住宅情報店で家の設計図や家を建てる風景を見て、建築関連の勉強をしたいと思い、大学進学を目指しました。

私は、指定校推薦を取るために校内模試では少しでも良い結果を残そうと思い、去年などの校内模試の過去問を何度もしました。また、指定校推薦を取るのに評定平均値も必要だったので期末考査でも勉強を怠らず頑張ってきました。その結果、私は日本大学の指定校推薦を勝ち取ることができました。結局は、校内模試の時だけでなく日々の勉強が大事であったと思います。

勉強時間は基本的に平日が4時間、休日が8時間はやっていました。途中で何度もくじけそうになりましたが、諦めることなくやってこれました。

私がおすすめする勉強方法は、模試などの過去問を解いた時に間違えた問題をノートに書く勉強方法です。まず最初にノートの中心に線を引き、左側の方に問題を書き、右側の方には赤ペンで解説を書いて、何度でも復習することができます。この勉強方法によって自分の苦手なところを克服でき模試でも点数を上げることができました。

■小論文や面接の練習に
積極的に取り組みました

指定校推薦の枠を取れた後は、5教科の勉強をするよりも小論文の勉強をする方が増えました。私は小論文が苦手だったので塾の講師や担任の先生に何度も見てもらい書き直したりしていました。他にも、面接練習では入る時や退出する時の礼儀作法や言葉遣いも意識しなければいけませんでした。

自分自身、受験に成功した一番の要因は小論文や面接の練習に積極的に取り組んできたことだと思います。

この3年間で踏まえて、高校3年生から勉強するのではなく、1年生の頃から定期的に勉強するべきだと思います。

専修大学 法学部 政治学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
広瀬中出身

指定校推薦は「逃げ」ではありません！ 自信を持って挑戦しましょう

■クラス落ちで危機感を覚え 朝自習に取り組みました

私は高校に入学したばかりの時は全く勉強する気がなく、1年生の時はテスト期間以外は全くと言って良いほど勉強をしませんでした。そして2年生への進級時にはクラス落ちを経験しました。2年生の夏休み頃ようやく危機感を感じて勉強に力を入れ始めました。毎朝オークルームへ行って1時間半自習をするようになりました。最初の頃や冬は朝起きるのが辛かったですが、意外とすぐに慣れるのでおすすめです。ただひたすらに勉強するのではなく、目標を持って取り組み、勉強する習慣を身につけることが大事だと私は考えます。

私は指定校推薦の利用を3年生の5月頃決めました。指定校は「逃げ」と揶揄されることがありますが、そのようなことは全くないので、自信をもって決断してください。指定校推薦の資格を得るためには、校内模試で好成績を残すことが必須です。校内模試の過去問は学校から配布されるので、それは絶対に解くべきだと私は考えます。

指定校推薦の出願校を決定するにあたり、大学のホームページやパンフレットだけではなく、実際に雰囲気味わうためにオープンキャンパスに参加しました。オープンキャンパスに参加すると勉強のモチベーションが上がるのでおすすめです。大学のガイダンスをただ聞くだけではなく、在校生の相談ブースのような場所で、在校生の方と直接会話することで様々な疑問や不安が解消されました。

■興味や関心のある分野を深く 学べる進学先を選びましょう

私が最も重要だと考えるのは、自分の志望学部・学科で学習する内容について、どれだけ興味、関心があるかということです。自分の興味のないことを学ぶのに大学へ進学するのは無駄でしかありません。自分の興味のある分野の学習が可能で、なおかつ将来の目標の達成に近づくことができる大学を選択することが大切です。また、大学入学後に学習したいことや将来の目標を明確にすることによって、自己推薦文や志望理由書が書きやすくなります。

高校生活を勉強だけで終わらせるのは勿体ないので、程よく息抜きしつつ、目標達成に向かって頑張ってください。

学習院大学 文学部 哲学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
将監中出身

悩んだ時には仙台育英の先生方や 家族、友達が必ず力になってくれます

■不安に襲われても周りからの
励ましに心底救われました

私は、入学した時から大学で学びたいことは決まっていました。高校では志望大学の選択肢が広がるようハイレベルな大学を目指して勉強に取り組みました。しかし、3年になってからも最終的にどの大学に、どのような受験方法でチャレンジしようかいろいろと悩んでいました。そこで担任の先生と面談や相談をさせていただき、学習院大学文学部の受験を決め、指定校推薦に挑戦しました。まだ自分が合格したという実感はありませんし、信じられません。

推薦をいただいた大学の合格が決まるまで、自分でも驚くくらいの不安と焦りに襲われることもありました。そんなときには、友達の言葉や先生方の励ましが本当に救いになりました。心から感謝しています。また、志望理由書を作成するにあたり、自分を見つめ直すことで大学で学びたいことや自分の欠点を具体的に、今まで以上にはっきりと見つけることができました。これらを補うためにも残りの高校生活も気を引き締めて過ごしていきたいと思います。

いつも笑顔で応援してくださった先生方、家族、そして友達。おかげで私は挫けずに頑張れました。本当にありがとうございました。また、後輩の皆さんも何か悩みや困ったことがあったらぜひ仙台育英の先生方に相談してみてください。必ず力になってくれますよ！

獨協大学 法学部 法律学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
秀光中等教育学校出身

普段から謙虚な気持ちで周りの人に 感謝しながら高校生活を送りましょう

■授業で興味を持った法律を 深く学ぶために進学しました

私は、法律や法学について政治・経済の授業をしていく中で興味が湧いてきて学びたいと思い大学進学を決めました。学校生活では、定期テストで80点以上を全教科取るように1年次から授業をしっかり受けたり、空いた時間で勉強しました。3年生になり指定校推薦で行けるように6月の校内模試に向けて、空いた時間や寝る時間を削って勉強しました。その結果、思ったよりも順位が高く推薦の枠をいただき、大学の指定校の入試も無事合格することができました。

高校生活で一番頑張ったことは部活です。私は、硬式野球部に所属していました。3年間の中で色々なことが起きて、部活も自分自身も人として変わることができました。部活の中で一番頑張ったことは部員同士団結を深めることです。部活が始まる前に学年でミーティングを重ね、話し合い日々重ねる毎に絆が深まっていったと思います。

■先生方に支えていただいた おかげで合格できました！

大学の指定校推薦入試では、多くの先生方に協力していただきました。入試では、小論文と面接があったので、国語の先生に問題を出してもらい、何度も何度も添削してもらいました。そのおかげで入試の際にすらすら問題を解くことができました。面接練習では、基本からまず教えていただき、どんな質問でも答えられるように、文字に起こしてみたりなどをしました。そこでも、先生方に夜遅くまで残っていただき本当にお世話になりました。おかげさまで合格することができました。

このように、自分の力だけでなく色々な人のおかげで今の自分があると思います。普段の生活で迷惑をかけずに、謙虚に色々な人に感謝しながら生活することを最後に後輩に伝えたいと思います。

日本女子大学 人間社会学部 文化学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 外国語コース卒
小牛田中出身

悔いの残らないよう 1年次から全力で 目標達成に向け取り組みましょう

■第二外国語の学習は 外国語コースの強みです

1年生の頃から指定校推薦での大学受験を視野に入れていました。そのため、定期考査や検定の取得には力を入れて学習しました。まず、定期考査では4か5の評定を取れるよう日頃から授業を真剣に受けて苦手教科を作らないようにしました。また、試験本番だけでなく提出物や課題は必ず期限内に行って提出するように心がけていました。検定の取得においては、実用英語技能検定やTOEICでより高い級、高い点を取ることができるよう日々学習に励みました。さらに、第二外国語として選択していた韓国語のTOPIKの検定も取得しました。外国語コースの強みの一つである第二外国語の検定を取得することで、他のコースとの差をつけることができるのではないかと考えました。このような普段の考査や検定も大事ですが、やはり一番大切なのは6月に行われる校内模試だと思います。校内模試は1点や2点の差で順位が大きく変動します。その年にもよりますが、実際に私は2点差のあった友達と順位が10違いました。なるべく高い順位が取れるように対策は早めに始めることをおすすめします。私は校内模試の過去問を解いたり、英検2級の単語帳を読み返したりして対策をしました。

■先生方との練習のおかげで 面接で実力を発揮できました

大学への内定をいただいてからは苦手だった小論文の練習に力を入れたほか、受験の一週間前からはほぼ毎日面接練習をしました。しかし、面接練習といってもただ面接の練習を繰り返すだけでなく、受け答えの内容には特にこだわりました。自分の考えや大学での理想がきちんと伝わる一番適当な言葉を探し、印象に残せるような面接になるように努力しました。先生方との練習を何回も重ねたこともあり、本番では緊張しながらも自分の実力が発揮できたと感じています。

1年生からの積み重ねが指定校推薦での大学合格という結果につながったと考えています。受験はとても大変で苦しいと思いますが、悔いの残らぬよう全力で取り組み、目標を達成できるよう頑張ってください。

武蔵大学 経済学部 経済学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
福島 会津若松第三中出身

将来像から逆算して志望大を選び 理想の大学に巡り合うことができました

■大学では野球に打ち込みつつ 経済学を深く学びたいです

私は、大学進学を前提として高校生活を送る中で、2年生の秋、9月頃から進路の方向性を決め始めました。最初に考える時に戸惑ったのは、どのレベルの大学に行けば良いのかということです。一律に大学といっても全国かなりの校数があり、そこから一つずつ見ていくのは骨が折れるような作業です。そこで、最初に考えなくてはいけないのが、どこに行きたいかより、何を学びたいか、将来どのようにになりたいかという将来像から逆算することが大切だと感じました。私自身、3年間硬式野球部で活動してきて、大学でも野球を続けるとともに、経済学や地域づくりに携わる仕事に就きたいという考えから、武蔵大学経済学部経済学科を選択しました。

私の所属しているフレックスコースでは、部活動と勉強の両立がしやすいコースという特色があり、私は高校3年間野球をしてきたことから、野球を中心に進学することを考えました。私の選択した武蔵大学経済学部経済学科は首都大学野球リーグでの強豪校でありながら、私の学びたい経済学やプレゼンテーション能力を養うゼミ活動ができ、金融系、社会学、公務員など学べる幅が広く、私に合っていると考えました。そのため大学では、野球ばかりに打ち込むのではなく、勉強や資格取得に向けて頑張りたいと考えています。

■大学でも目的意識を持ち 自分を高めていきます

結果として武蔵大学には、野球部での指定校推薦で合格することができましたが、そうなるまでに、日々の練習や学習の積み重ねの充実があったからこそその結果だと思います。毎日自分を高めるためにどうすれば良いのかを考えながら練習してきて、結果を出すためのメンタル作り、大舞台で活躍するための準備力などを怠らずやってきたからこそ、甲子園や様々な大会で結果を残すことができたのだと思います。また、野球を続けていくなか、同時進行で進路について自分自身としっかり向き合っていてこれだからこそ、良い大学と巡り合うことができたと思います。自分自身で選んだ進路で目的意識をしっかりと持ち、大学でも頑張っていきたいです。

明治学院大学 経済学部 経済学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
南吉成中出身

友人と切磋琢磨し励まし合いながら 辛いことも乗り越えることができました

■友人に恵まれたことも

合格できた理由の一つです

指定校推薦を受けるには、3年間の過ごし方がとても重要になってくると思います。私は高校に入学した当初から指定校推薦を利用しての大学受験を視野に入れて日々生活をしていました。その為、定期テストにしっかり計画的にコツコツ取り組む事、英検などの資格を取得すること、また、生活面では欠席などをしないように日々心がけていました。

中でも大切なのが3年生の6月に行われる校内模試です。この成績によって、校内選考が通るか通らないか決定されてしまうからです。そのため私は、朝7時には学校に来て校内模試の過去問やセンター試験の過去問をひたすら解き、わからない所はしっかり復習し自分の納得がいくまで、不安が無くなるまで勉強をしました。その結果、第一志望の大学に合格することができました。

そしてもう一つ志望大学に合格出来た理由があります。それは、近くで自分と同じように頑張る友達やいつも優しく支えてくれる先輩や先生がいたことです。校内模試の前、気持ちが落ちることもたくさんありましたが、第一志望に合格するために勉強を頑張る友達の姿を見たり、友達と励まし合う事で辛い事も乗り越えることができました。そのような友達に恵まれたことも合格へと繋がった事の一つだと思います。

指定校推薦を利用しての大学受験を考えている後輩のみなさんは、出来るだけ早い段階からコツコツ積み上げる勉強を行い、友達と切磋琢磨し合いながらお互いを高め、合格を勝ちとってください。

玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
東北学院中出身

部活動に励みながらしっかり勉強できる このコースに入学して本当に良かった！

■授業をしっかり受けていれば
良い評定を得ることができます。

指定校推薦では3年間の学業成績と校内模試の結果が反映されるのですが、特に私は校内模試に力を入れて勉強をしました。勉強の内容は校内模試の半年前に2年前や3年前の問題をもらうことができるので、それを使って予習と復習を行いました。国語はやればやるほど理解することができるので、しっかりと時間をかけてやることができました。数学は毎年同じような問題があるので、そういった所をポイントにおさえてやることができました。そして英語は自分の得意な所の文法を何度もやり40点を目標にやることができました。結果は自分の中では満足できる内容だったので良かったと思います。そして3年間の学業ではしっかりと授業を受けるだけでフレックスコースでは点数を取ることができるので、しっかり3年間授業を受けることができました。

■生徒から信頼されるような
教師になるのが夢です

私が大学進学を目指した理由は教師になるためです。きっかけは親が教師であるため小さい頃から教師について考えることが多くありました。そのため、大学へ行き教師のあり方などを深く学び吸収して生徒から信頼されるような教師になりたいと思っています。私が進む玉川大学は教育力に力を入れているため、自分に適していると思い玉川大学に決めました。

高校生活では入学時に文武両道を掲げ日々勉強と部活動に励んできました。勉強では部活動で時間が削られている中でしっかりと3年間妥協することなく取り組むことができました。部活動では3年間で色々な出来事がありましたが、全員で協力してやり切ることができました。フレックスコースは部活動に力を入れていてもしっかり勉強もすることができるので、高校で仙台育英のフレックスコースを選んでよかったと思います。しかし、応用的な内容まで十分にはできないので、大学進学をする人は予習と復習をしっかりとやっておく必要があると思います。

東京経済大学 経済学部 国際経済学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
矢本第一中出身

将来社会に貢献できる人材になれるよう できることを増やしていきたい

■社会に出る時を見据えて 勉強に更に力を入れました

中学生の頃の夢はプロサッカー選手として活躍し、海外に行き、パロンドールを受賞することでした。しかし、高校生になり、自分の夢について改めて考えることが増えました。これから成人を迎え社会に出て行き、自分の力で生きていくことに対して、現実的に向き合ったのです。そして自分に何が出来るのか考えた結果、サッカー以外に残るものはありませんでした。そこで私は、サッカーはもちろんのこと、勉強に力を入れることを決意しました。指定校推薦で大学に進学するために、1年生の頃から評定を意識し、日々の学校生活を送りました。一つ一つの授業は積極的に参加し、授業以外では通学中、電車の移動時間を利用し予習や復習に励みました。テストでは各教科80点以上を目標にし、テストの3週間前には、予想問題を友達と出し合いテスト対策をしていました。

■サッカー部で切磋琢磨し 忍耐力が身に付きました

学校以外の勉強では英検の資格取得に努めました。近年の国際化に対して、英語を話せるか話せないかではかなり大きな差があると思い、空き時間を利用して勉強し資格取得ができました。

部活動では、サッカー部に所属し、170人以上いる部員の中で試合に出るために仲間と切磋琢磨しました。限られた場所と時間の中で日々競争という厳しい環境で自分をどうアピールするか考え練習に励みました。この経験で忍耐力が身につきました。

指定校推薦では、評定の他に6月の校内模試がとても重要で、そのために2年の頃から準備していました。指定校推薦の枠には限りがあるので、他のライバルに負けないようにと夜遅くまで勉強することも多々ありました。その努力もあり点数はかなり良いものでした。先輩からのアドバイスや自分で調べてみて東京経済大学に決め、合格が決まり安心しています。

将来的には、世界経済の中心に自分が立ち、日本だけでなく世界全体の発展に関わってみたいと思っています。

大東文化大学 社会学部 社会学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 技能開発コース卒
岩切中出身

受験勉強が辛い時は合格後の大学生活を 想像してモチベーションを高めました

■規則正しい生活により 授業に集中できました

私が大東文化大学社会学部社会学科に合格するために一生懸命取り組んだことは指定校推薦での受験資格を得ることです。受験資格を得るために努力したことは二つあります。

一つ目は日頃の生活を見直すことです。指定校推薦は学校長の推薦で受験します。私は学校長の推薦をもらうことのできる生活をしているのかと考えました。当たり前の生活を見直し、あらためて、今後続けることが一番大事だと思いました。私は授業をしっかり受けるために、早寝早起きをする、朝ご飯は毎日食べるなど当たり前の生活を徹底しました。その結果、授業中眠くなることもなく、授業の内容を早く理解できるようになりました。今も続けているので、大学に入学してからも続けたいと思います。

■校内模試に向けて重点的に 基礎固めに励みました

二つ目は校内模試の対策です。指定校推薦で受験したいと考えた時、担任の先生から校内模試の過去問をもらいました。これをたくさん解けば模試で良い点を取れると思っていました。しかし過去問題を解くことはできませんでした。とても難しい問題で今まで習ったことだけでは解けませんでした。そこで私は、基礎的なところをしっかりと勉強することにしました。国語では現代文だけではなく古文と漢文の基礎の勉強、数学ではI Aをしっかりと勉強しました。英語は文法・単語を覚えること、また、英検にもチャレンジしました。その結果、模試では基礎問題をスラスラ解けました。

とにかく今必要だと思ったことをしっかりする。これが一番大事だと思います。私は、何回も、もう勉強をやめたい、大学進学は諦めようと思いました。しかし、大学進学後の将来を想像するととてもわくわくした気持ちになり諦めずに頑張れました。今ではあの時頑張った良かったと心から思っています。

国士舘大学 21 世紀アジア学部 21 世紀アジア学科に
指定校推薦で合格

令和 2 年 3 月 フレックスコース卒
秀光中等教育学校出身

時間は戻ってこないことを頭に入れて 学びたいことや夢を考えておきましょう

■先生方に質問に行くと

丁寧に教えて下さいます

指定校推薦の受験資格を得るために取り組んだことは、テストの平均点を上げるために勉強の量を増やし、やり方など工夫を多くしたことです。授業態度なども何度も見直し他人のお手本になれるように心がけていました。このようなことを毎日継続することによって、テストの点数が上がったり平常点を上げることができました。指定校推薦で一番大切なものは学園内で行われる校内模試です。その試験の順位などが多く影響されます。私は過去の問題に何度も取り組みました。色々な先生のところへ足を運び質問なども聞きにいきました。このように、多くの努力があり受験資格を得ることができました。これは自分だけでなく、たくさんの先生方のおかげでもあります。忙しい中にもかかわらず丁寧に指導していただきました。たくさんの方のおかげだと思っています。

■志望理由を明確にすることは

入学後の生活にも必要です

大学の入試では内容は面接のみでした。面接を行うために、たくさんのことを細かく分けて大学の魅力を引き出しました。自分がなぜこの大学に行きたいのかを明確にすることもとても大切です。この大学を選んだ理由が明確でないといけませんし、大学に入学できても曖昧になってしまいます。なので、大学の特徴や良いところ自分との相性などもとても大切になります。そのようなことを上手にまとめることが大切だと思います。また、考えがあったとしても、その場でしゃべることができなければ意味がありません。なので、面接練習も複数の人と何度も取り組むべきだと思います。これらのことを含めて一番大切なことは、自分自身の夢を明確にすることです。夢も決まらず曖昧のまま決めてしまうと後悔します。大学に入ってから遅いです。時間は戻ってきません。なので、そのようなことも含めて、良い選択ができたと思います。

桜美林大学 リベラルアーツ学群に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
岩手 山田中出身

1、2年生の頃から受験を見据えて 過ごすことで進路選択の幅が広がります

■先輩の話に魅力を感じて 同じ大学を目指しました

私が桜美林大学リベラルアーツ学群へ進学を目指した理由は、一つ上の先輩に桜美林大学リベラルアーツ学群へ進学した方がおり、その先輩へ大学の話を伺った際に部活動だけになることなく、文武両道をしっかり行うことができるし、勉強面でも一つの物事だけを学ぶのではなく幅広い分野の知識を学ぶ事ができるということに、とても魅力を感じ志望しました。フレックスコースでは他のコースに比べ部活動へ集中できるのが特徴で、多くの時間を部活動へ割くことができました。しかし、部活動ばかりでは指定校推薦などへの際に、学習評価などの面で他のコースに負けてしまうということを先生に教えていただき、1年生の頃から3年後の進路を良いものにするために、自分の中では80点以上というのを目標にして、テスト前の勉強では苦手な教科を中心に、朝や夜の時間を利用して勉強を行いました。テストばかりでなく普段の授業での平常点も評定へ十分影響するので一回一回の授業での態度や毎回の提出物を期限までに出すことを意識的に取り組みました。

■資格を持っていることは 必ず将来にプラスになります

1年生や2年生の頃はとても後の事に感じてしまい、気持ちの面で折れてしまいそうな時もありますが、今、楽をしてしまったら3年生の時の進路選択で選択肢が限られてしまいます。なので、一つでも上の評定を取り、限りなくオール5へ近い評定を取れば選択肢が10個も20個も増え、大学生活はもちろんのこと少しでも良い大学を選択することで、その先の将来も良い方向へ進むことができます。私自身の後悔としては資格の検定を一つでも取得すれば良かったと今になって感じています。持っていることに損をすることは一つもなく将来にはプラスのことばかりなので悩んでいるならばチャレンジしても良いのではないかと感じています。

最後に、1年生、2年生の時はやはり大まかな目標しかないため、すぐに諦めてしまいます。しかし、今の頑張り
で将来がより良いものになると思い、頑張ってください応援しています。

立正大学 文学部 社会学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
白石東中出身

先生方や友人、部活動の仲間に支えられ 過ごした高校生活は人生の財産です

■ 3年間の努力は強みになると 家族に励まされ受験しました

私は、剣道が強くなりたく、インターハイを目指すようなところで剣道がしたいという一心で仙台育英へ進学しました。入学当初は先輩方との稽古についていだけで精一杯なうえ、1年生としての仕事、長距離の電車通学、帰って寝るだけの生活でした。そんな時、初めての三者面談で卒業後の進路について聞かれたとき、漠然と考えていた「大学進学」と答えました。そこで先生から、指定校推薦という受験があること、それを目指すには日々の生活が大事なことで、成績をもっと上げることが大切とアドバイスを頂きました。それから私は、指定校推薦で大学に行くことをもう一つの目標にしました。家庭学習の時間が十分に取れないため、授業をしっかり聞いて理解することに努め定期テストは短期集中で頑張りました。通学中の電車の中も読書の時間にしました。提出物の期限を守るなど生活態度にも注意をしました。3年の最後の大会でレギュラー入りできず引退が決まりました。同時期に行われた校内模試の結果も最悪でした。指定校なんてもらえない自分に誇れるところなんてないと諦めかけていました。だが、努力を継続してきたことが強みだと家族に励まされ、ダメ元で挑戦しようと意識が変わりました。

■ 将来は地元で公務員として 地域行政に携わりたいです

私は、将来公務員になって地元に戻り地域行政に携わりたいと考えています。なので、社会学だけでなく史学や哲学も学ぶことができる立正大学文学部社会学科を目標にしました。自己推薦文を何度も添削して頂き、校内選考を通ったと聞いた時は、まさか自分が、夢かとさえ思いました。試験本番の面接では練習で想定していた質問とは違って焦りましたが、最後まで考えて答えられたのは指導して下さった先生方のおかげです。疲れ果てて坊主頭で電車で眠っている姿は人から見たらかっこ悪かったと思います。でも、先生方、クラスの友達、剣道部の仲間に支えられて過ごしたこの3年間は、これからの大学生活を支える財産だと思い、今は達成感でいっぱいです。

工学院大学 情報学部 総合学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 情報科学コース卒
角田中出身

友達と高校生活を楽しむことが 学習のモチベーションにもなります

■高校で学んだ情報の知識が 役立つ仕事に就きたい

中学生の頃に情報学に興味を持ち、仙台育英の情報科学コースで専門知識を学んで、私は情報関係の仕事に就きたいと思いました。そのために情報学の学べる大学に行きたいと考え、情報学部のある大学をいろいろと調べた結果、工学院大学を目指すことを決めました。大学の提示していた条件を私は満たしていて、早期の合格をしたかったためです。元々1年生の頃から少し大学進学を見据えて良い成績を取れるように勉強をしてきました。授業で習った箇所の復習を定期的に行い、定期テストの前にはテスト範囲の内容の問題を繰り返し解き、内容を理解していくことでテストで高得点を取ることができました。そういった学習を3年間続けて行き、テストでの高得点を維持してきました。更にテスト後の各教科の提出物も期限を守り、欠かさずに提出することで良い成績を取ることができたと私は思います。

■軽音楽部では仲間と楽しく 充実した活動を送りました

大学進学を有利に進めるために資格取得も頑張ってきました。情報科学コースでは3年間で情報処理検定の取得に向けた学習を行うことができ、学校で情報処理検定試験を受けることができます。私は情報処理検定を取得するために勉強を重ね、過去問を繰り返し解くことで理解を深めることによって、わずか3回の受験で情報処理検定の3級から1級の全てを取得することができました。私は最終的に情報学について学ぶことができる大学に進むことを決めたので、情報処理検定の取得はとても役立ったと私は思います。

部活は軽音楽部に所属していました。軽音楽部では仲間と共に1つの曲に対し練習を重ね完成させることによって、仲間や努力の大切さについて知りました。私が高校生活を3年間楽しく過ごして来られたのは友達がいたからだと思います。勉強も大切ですが、休日などに友達と遊ぶことも大切だと私は思います。高校に入学したらまず最初に友達を作ることを頑張ってみると良いと思います。仲の良い友達が出来たら高校生活も楽しくなります。後輩の皆さんが将来楽しい高校生活を送れることを願っています。

女子栄養大学 栄養学部 実践栄養学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
仙台第一中出身

やる気が出ない時があっても メリハリをつけて頑張りましょう

■入学時からの積み重ねで

評定の善し悪しは決まります

私は1, 2年生の際にどの大学へ進学したいか具体的に決めることができませんでした。そのため、3年生になってから志望大学を決め始め、指定校推薦を考えるようになりました。推薦では3年間の評定や活動等が重要になってくるのですが、私の場合、今までの評定や3年次の校内模試の成績等が良かったこともあり、推薦をいただくことができました。この経験から、定期考査や小テストで高得点を狙うこと、提出物の期限を守ることに気を付けて生活することをおすすめします。1, 2年の時に「推薦を考えていないから評定なんてどうでも良いや」とだらけて過ごしてしまうと3年生になった際に、推薦枠に行きたい大学があったとしても出願できなくなってしまいます。評定の善し悪しは1, 2年生からの積み重ねなので、将来の自分の受験方法を増やし、志望大学合格に繋げるためにも、楽をし過ぎないでコツコツと頑張ってみてください。

■写真部の活動で高校生活が

とても充実しました

先に言ったように、成績に加え、3年間を通してどのような活動をしてきたのかということも重要になるので、ボランティア活動や部活動、資格取得に取り組むことをおすすめします。私は写真部に所属していたことで、学年やコース、クラスの垣根を越えて様々な人と交友関係を深め、他の部員と共に育英祭や校内展示等に積極的に取り組みました。成績だけでなく、検定や体験授業等を受けることで自分の自信につながり、他の生徒よりもアピールすることができると思います。

高校生活を過ごしていくうちに、友人と喋ることや遊ぶこと、自分の趣味に没頭してしまい、勉強が億劫になってしまうことがあると思います。それでも、少しずつ英単語や公式を覚え、ワークを解いて勉強することで、良い結果を残すことができると思います。なにより、高校生活を楽しむことも大事なので、勉強と遊びのメリハリをつけて充実した生活を過ごしてください。

高千穂大学 商学部 商学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
福島 会津若松第二中出身

専門的に学びたいことを見つけてから 進学を決断し志望大を探しましょう

■ FPに興味を持ち経済を 深く学びたいと思いました

私が大学で経済や商業について学びたいと思ったきっかけは、父の勤務先の会社が突然倒産してしまいました。その時に父の相談を受けた人が「保険」「収入と支出の内容分析」など幅広い知識がある「ファイナンシャルプランナー」の資格を持っていました。その際に経済などに無知であった私が、経済を学びたいと思い大学進学を決めたきっかけです。私は指定校推薦入試という入試で大学に合格することができました。指定校推薦は3年生の時にやる校内模試の結果が良ければ良いほど自分の行きたい大学に近づけるシステムだったので、良い点数が取れるように授業はもちろん空き時間があれば英語の単語や数学の公式など勉強をし覚えていました。とても大変で止めようと思う時もありましたが、自分の父の相談をしてくれて導いて下さったファイナンシャルプランナーになり、困っている人を助け導く存在になりたいという夢、将来があったので諦めずに毎日取り組むことができました。しかし校内模試の勉強だけしていても意味がありません。大学には、評定設定があり、その評定がなければ受験を受けることすらできません。そのためにも日々の授業で先生の話の聞いたり、定期考査の点数を1点でも多く取らなければなりません。私は硬式野球部に所属していて、毎日の練習は夜遅くまで続き寮に帰っても疲れて寝てしまう毎日でした。なので毎日の授業で分からないところを分かるようになるまで授業で取り組み、テスト1週間前になると学校に1時間早く来てテスト勉強などをして評定を上げるために努力していました。

■ 高校生活は社会に出るために 必要かつ大切な時間です

大学に行けばやりたいことができるはずだという気持ちであれば行かない方が良いでしょう。大学は専門的に学ぶ場所なので学びたいものがないのに行ってしまうと、自分に合わなくなり大学を辞めることになってしまうので、やりたいことを見つけてから大学進学をしてほしいと思います。

高校生活は勉強や部活など両立しなければならず大変だと思います。でも社会に出るためにはとても大切な3年間だと思います。勉強しているのに点数が取れないことや部活で頑張ったのに結果が出ないことなど色々あると思いますが、その3年間を乗り越えれば自分が想像している将来に近づくとおもいます。何事も諦めずに頑張ってください。

東京富士大学 経営学部 経営学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
宮城教育大学附属中出身

どの大学も優秀な人材を求めているので 資格取得で実力をアピールしましょう

■出席日数と評定平均値は とりわけ大事です

まず始めに指定校推薦を獲得するためには多くの条件が存在します。条件の中でもとりわけ大事になってくるのが「出席日数」と「評定」です。出席日数は3年間を通して休んだ日が一定数を越えてしまうと、その時点で評定関係なく指定校を貰う権利を取り上げられてしまいます。部活動などに所属している生徒は公認欠席などで休むことが多くあると思いますが、公認欠席は欠席にカウントされないので安心してください。

次に評定について話したいと思います。評定は各々が志望するであろう大学にとって様々です。平均評定4以上のところもあれば3のところもあります。一方で稀に評定自体がいない大学も存在します。多くの大学は3.5から4で指定されているのが一般的だと私は認知しています。

次に本題となる東京富士大学への指定校推薦について説明しようと思います。東京富士大学の入試には他と比べ、テストや小論文といったものがなく面接のみの内容となります。しかし面接だからといって油断してはいけません。東京富士大学の面接では面接官二人からかなり突っ込んだ質問もされます。他にも深い内容などを聞かれるので自分の夢を明確に思い描き大学で主に何を学び将来にどうつながるのかを前もって考えておく方が良いと思います。大学の校風などをネットワークや口コミ、ホームページなどで事前調査することも忘れないとなお良いです。オープンキャンパスについては必ず聞かれるので休暇を見つけて訪ねると、自分の目でキャンパス内を把握することで受験するにあたり最大の強みになると思います。

■英検を取っていたので 特待枠を獲得できました

主な私の体験記は以上となりますが少し補足を加えようと思います。

東京富士大学に限らず、どこの大学も能力のある優秀な人材を求めています。英検や漢検、数検などといった資格を一つでも多く持つことで他の人よりかなり合格率が上がると思います。私自身、英検準二級を持っていた甲斐があり特待枠のBを得ることができました。資格を持っている人はかなり少ないので狙い目です。

この文章が少しでもあなたの合格への手助けとなれば幸いです。

東京電機大学 未来科学部 建築学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 情報科学コース卒
タイ出身

面接と小論文は何度も練習を重ねるほど 本番で緊張せずに力を尽くせます

■仙台育英の豊富な進路学習を 活用して進路を決めました

私が大学進学を目指した理由は、私の将来の夢のためと思ったからです。きっかけはジョブミーティングや大学紹介などの学校行事を見て、色々な大学の色々な分野のランキングや大学群などを見て私に合う所を探して見つけました。また、私が指定校推薦を選んだ理由は、その大学に必ず入りたいと思い、そこから校内模試、部活、学校生活や定期テストに力を入れました。私にとって特に大切だと思えた事は、1、2年生の定期テストや学校生活と校内模試です。なので、毎日の行いと先生方の助けなどのおかげで指定校推薦で合格できました。

■面接は質問への対応力と 慣れが大切だと思いました

私は部活で陸上競技部に所属しており、3年間部活動を続けました。また、情報処理検定2級までの資格を取得しました。資格などのおかげで面接や自己推薦書などの自己アピールの所で活用したりする事が出来たので、バイト、部活、ボランティアや資格などの経験をおすすめします。また、部活などの事を中途半端に辞める事などは事情がない限り勿体ないと思います。また、私は塾などの特別な勉強はしていませんが、授業や対策プリントなどを覚えて忘れないようにしただけです。私は元々国語が苦手です特に作文や小論文が苦手でしたが、小論文をいっぱい書いてある程度書けるようになりました。そのためにも一文の量、漢字、文の形態や語尾などを意識して意識して書く事が出来ました。また、私が合格した大学では、小論文が課題文型であり、課題文型は自分の意見と問題の答え方が難しいが、慣れで克服することが出来ました。私にとって面接は慣れとどれほど質問を想定出来るかだと思います。そのためにも私はネットで「よく出る面接の質問」などで検索したり、先生と面接練習などをして質問のバリエーションを増やして、色々な場面を想定して行いました。また、面接も慣れだと思い、練習を何度も重ねるべきだと思います。また、私は練習すればするほど緊張しないと思います。なので、高校で色々な経験をして早めに大学を決めて、出来るだけ多く練習するべきだと私は思います。

日本文化大学 法学部 法学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 情報科学コース卒
東京 調布神代中出身

やる気がある時は勉強がはかどって 高得点につながります

■警察官を志望しているので
この大学を目指しました

私は日本文化大学を志望し合格しました。目指した理由は将来警察官を目指していたためです。私は指定校推薦で志望する大学を受験しました。指定校推薦はセンターなどのような筆記試験ではなく高校での定期テストの点数や普段の生活がとても重要になってきます。そこで定期テストでの点数を取るために私が実践していること、心がけていることがあります。一つ目は何度も解くことです。初めに対策プリントを1回やり分らない所は直ぐに答えを見ていき分らない所をなくしていくことで効率良く理解することができます。次に苦手な所を重点的に練習問題を解いていくことで、苦手な所もなくなり点数も上がっていきます。ちなみに暗記系の社会や英語は単語などをとにかくノートに書くことが一番の勉強法だと私は考えています。一つの教科だったら対策プリントは問題を見たら考えずに直ぐに答えが出るまで繰り返し、ノートは2、3枚埋め尽くすまで単語を書けば低い点数を取る方が難しいはずですが、テスト一週間前で問題集をノートで解く際に答えだけではなく問いの部分まで書くのは、あまり意味がないと思います。テストが近いならば先述した通りに効率良く覚えていったほうが良いと思います。

■学習はメリハリを付けて
行くと効率が上がります

その他のアドバイスとしては、やる気のない時は思い切って休むこと。やる気もないのに勉強などしても全く頭に入らず、はかどりもせずフラストレーションが溜まるだけです。だからこそやる気のない時はやらず、やる気のある時に短期集中でやるのが勉強嫌いにならずに点数を取ることが出来ると思います。無理をせず自分の出せる力を過信せずに勉強していけば必ず良い結果を出せます。

最後に、高校生活における定期テストは今後の進路選択においてとても重要です。だからこそやる気のある時に効率良く勉強をして、しっかりと安定した点数を取っていき進路選択の幅を広げて行って欲しいです。

神奈川大学 経営学部 国際経営学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
矢本第一中出身

周りから遅れをとらないよう高校生活も 受験勉強も全力で取り組みましょう

■将来の可能性を広げるため 進学を目指すことにしました

私は指定校推薦で神奈川大学経営学部国際経営学科に合格することができました。

私自身、初めは大学進学を志望しておらず、公務員として就職することを目標にしていました。ですが、高校でたくさん知識や、周りの友人の進路を取り入れるようになった際、自分も将来の夢に向けて知識や可能性をより深めたいと考えるようになり、大学進学を目指すようになりました。なので、進学で迷っている人でもゆっくり自分の将来について答えを出して大丈夫だと思います。しかし、私はこの進路選択をするに当たって成績をキープしておくことの大切さを実感しました。とくに指定校推薦を利用する人は早い者勝ちでもありますが、その他にも成績が重要となってきます。自分の成績を上げることによって選べる大学の幅も広がり、推薦も受けやすいと思ったからです。もちろんテストの点数だけでなく、校内模試にも力を入れました。定期テストではクラス順位しか分かりませんが、校内模試では全コース内での自分の順位を知ることができるため、本当の自分の力、そして、推薦を受けることができるかどうかの基準もある程度知ることができるからです。

■漢検や英検を取得せず 進路を変更せざるを得ませんでした

今、私が受験を終えて、しておけばよかったと思うことは漢検や英検です。私が初めに志望していた大学の指定校の条件に検定の級指定というのがあり、結果受けることができず、あきらめることになったからです。なので、これから大学受験を考えている後輩の人は検定を取っておくといいと思います。

高校生活は、私自身ほんとうに一瞬だと感じました。ということは、受験の準備も余裕を持ちすぎているとすぐに周りから遅れをとり、後悔をすると思います。なので、後輩のみなさんは、高校生活も受験勉強も全力で取り組んで悔いのない3年間にしてください。

神奈川大学 経営学部 国際経営学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
北海道 琴似中出身

受験対策はきちんと行ってきた人と そうでない人では後々大きな差が出ます

■外資系企業への就職に必要な 能力を大学で伸ばしたい

将来、外資系企業に勤めるのが目標です。それに必要な語学力やコミュニケーション能力を養うため大学進学を決めました。

2年生の後半までは、具体的な大学までは決めていませんでした。仙台育英には指定校推薦が数多くあることを知り少しずつ調べ始めました。校内模試の結果で指定校推薦が決まることも知り、過去問を解くことから対策をしました。順位が決まってから、推薦が通る可能性のある大学を絞りインターネットで情報を集めました。その中で神奈川大学が、経営学部の国際経営学科で英語、経営学が学べて自分の将来の夢に最も合っている大学ということを知り、指定校推薦の枠があったので志望することに決めました。志望大学決定後から学校生活や勉強をより努力をし、「推薦を受ける資格のある生徒」を目指しました。

■寮生活と勉強、部活動の 両立をやり遂げました

仙台育英では人間として自立できた3年間でした。親元を離れ、寮生活をすることで自分でやることで自立できたと思います。寮生活をしながらサッカーと勉強の両立をするのは難しいと感じたこともありました。部活をしてご飯を食べて寮に帰ると午後8時、そこから洗濯などをするので勉強をする時間はスキマ時間しかありません。日常のスキマ時間を利用することにより、成績を維持することができました。神奈川大学に入学後、夢である外資系企業に勤めるために、英語の習得も目指しています。指定校推薦で学校の代表として進学するので、責任と自覚を持って学んでいきたいです。

大学のことを考えていない人はいっぱいいると思います。でも、少しでもインターネットで充実した情報収集をするべきです。3年の夏に対策した人と、していない人の差が大きく出ます。私は先輩などから大学の事を聞いて、大学について少しずつ知っていきました。大学進学は大きな人生の選択の一つなので、自分の志望する大学に進学できるよう頑張っておきたいです。

神奈川大学 外国語学部 英語英文学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 外国語コース卒
山形 山形第二中出身

資格や検定の取得は推薦に有利なうえに 校内模試の対策にとっても有効です

■皆があまり取得していない 資格を強みにしました

高校1年生の時から神奈川大学進学を志望していました。最初は公募制推薦で受験しようと考えていましたが、運が良い事に仙台育英には私が進学したいと考えていた学部の指定校の枠があったので指定校推薦を使うことに決めました。指定校を得るためには校内模試で良い点数を取ることだけでなく資格や部活動、生活態度など総合的に評価されるので私はそれらに気をつけて生活しました。まず資格です。外国語コースの生徒として英検を取ることは必須であると考えたため、高校1年生の冬に実用英語技能検定準2級、2年生の冬に2級を取得しました。特に2級の受験日が部活動の合宿日と重なっていたので同じ部活動のみんなが寝た後に一人で起きて勉強をしたり、私は家から学校まで電車で片道2時間半かかるので通学途中に単語帳を読んだりして勉強をしていました。また、高校3年生の春に国連英検C級も取得しました。実用英語技能検定はほとんどの人が持っているので、他の人が持っていないような資格を取得して他の人と差をつけようと考えたからです。国連英検の試験日もまた、部活動の遠征と重複していたので移動時間や練習試合の後のホテルではずっと過去問題を解きました。その結果C級を取得できました。英検は語彙力が必須だと思います。単語を読めても意味が分からなければ問題を解けないので単語帳でしっかり勉強していて良かったと思います。国連英検は単語帳がなく、過去問題も公式のものが一冊しかなのでその対策本をくり返し解くことやインターネットで英語の新聞を調べて自分の力で読むことをしました。英検対策が結果的に校内模試の対策になりました。

■剣道部で状況を判断する力を 磨くことができました

私は剣道部に所属し、2年次からは女子の副キャプテンを務めてきました。剣道部は土日や長期休みのほとんどが遠征で、休みの日にまとまった時間勉強することが難しく勉強との両立が大変でした。しかし部活動があるから勉強ができないと妥協せず文武両道を目指して頑張りました。剣道は体力と精神力が必要です。また、個人競技ではありませんが団体戦ではチームの流れを考えて試合をしなければならないので周りを見る力と先を見通す力も必要なので部活動以外の時もそれらを意識して生活をしました。先生や保護者の方、先輩方に対しての礼儀を大切にしていくなかで周りを見る力をつけることができました。体力も、自分が努力すれば努力しただけ力がつくので私は筋力トレーニングを毎朝続けました。入学当初はレギュラーに入れませんでした。2年生からレギュラーに入ることができました。

校内模試も大切ですが、資格取得も部活動も頑張った良かったなと思います。頑張ったことを活かして指定校をもらえたので、大学入学後も怠けずに何事も努力しようと思いました。

神奈川県 外国語学部 スペイン語学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 外国語コース卒
田尻中出身

様々な資格・検定の取得で高校での 学びの成果をアピールしました

■ IB の論文作成で英語以外の 言語に関心を持ちました

私は2年間、国際バカロレアプログラム（IB）を受講していました。IBでは教科ごとに課題論文（IA）と自分の好きなテーマで描くことができる自由論文（EE）が課されていました。論文を書く際には多くの文献を使用しますが、文献は大きく分けて一次資料と二次資料の二つからなります。一次資料はテーマとなる時代、出来事の当事者が書いた日記や、その時代に発行された本などが含まれます。対して、二次資料はそれらを対比、評価したものやそれらに対する意見をまとめたものをさします。私はEEと歴史のIAを通して、一次資料の重要性に気づくことができました。そのため、一次資料の保存に関わり歴史研究に貢献できる職に就きたいと考えるようになりました。また、EEで選択したテーマを研究する際、日本語の資料のみでは得られる情報が限られていたため、英語の資料も使用しました。その際、自身が話せる言語を増やすことで得られる情報も増え、研究に役立つことを実感しました。このことから、大学で英語以外の言語も習得したいと思いました。私が進学する神奈川県では、TOEICやスペイン語検定などの検定料を負担してくれる制度があります。また、学科問わず履修できる学芸員課程やエアライン講座といった様々な講座を行っています。そのため、資料保全と言語習得という二つのことを両立して学ぶことが可能であると考え、この大学への進学を決めました。

■ 積極的なボランティア活動が 面接で役に立ちました

神奈川県には指定校推薦という形で受験しました。面接の際、自分をアピールするのに取得していた資格やボランティアの経験が役に立ちました。私はインターアクト部と茶道部に所属していました。インターアクト部では盲導犬のための募金活動などに参加しました。また、IBの教科の一つにボランティアなどの課外活動を自主的に行うCASという科目がありました。CASでは自らボランティア活動を計画し行っていました。このようなボランティア活動が面接の際に、高校生活で打ち込んだこととしてアピールすることができました。資格は英検、スペイン語検定、TOEICの語学検定に加え、時事能力検定を取得していました。また、茶道部での学びを活かし茶道検定を取得しました。これらの資格により、入試の際に自分の高校生活での学びの成果を示すことができました。

関東学院大学 経済学部 経済学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
神奈川 常葉中出身

先ず自分で考え答えを探すという姿勢を 部活動で身に付け学習にも生かしました

■他の生徒の模範となる行動を

普段から心がけていました

私は高校2年の時から指定校推薦を利用しての大学受験を視野に入れて日々生活をしてきました。指定校推薦の受験資格を得るためには様々な条件を満たし校内選考を通る必要があります。校内選考を通るため、学習面では日々の授業をしっかりと受け発言を多くし課題は期日までに必ず提出するように心がけて生活しました。また、できるだけ高い評定をいただくために、定期テストの勉強は約2週間前から計画的に行うようにしてきました。そのお陰で受験できる大学の幅が広がりました。生活面では、無遅刻無欠席を心がけ、先生方への挨拶は自分から積極的に良い表情でしてきました。さらに学校内で落ちているゴミを見つけたら自分からすすんで拾い他の生徒の模範となるような行動をするよう心がけてきました。部活動では大会で良い成績を取めるために、自分がチームにどう貢献していくか、チームがどのようにしたら強くなるのかを常に考えながら行動してきました。そのうえで、すぐに答えを聞くのではなく自分で考えて答えを探していくという考え方を身に付けることができたと思います。この能力は野球だけでなく勉強の面においても生かされ、効率良く学習することができるようになりました。

■3年次に行われる校内模試が

何より一番大切です

そして何より一番大切なのは3年次に行われる校内模試です。この校内模試の成績が校内選考を通る上で一番大事となってきます。私は良い成績を取めるために、先生から過去問をいただいて何度も解き直し、問題に慣れるよう勉強しました。その結果目標の順位を上回る成績を取めることができ、私の志望していた大学の合格に繋がりました。

指定校推薦を利用して受験をすると考えている人は、学校生活をしっかりとし、校内模試に向けて個人で勉強していくことが大事だと思います。自分の進路実現のために頑張ってください。

東洋英和女学院大学 国際社会学部 国際コミュニケーション学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 外国語コース卒
吉田中出身

将来の夢をできるだけ早く見つけて 今からできることを準備しましょう

■教員に必要なことは何か

幅広く調べました

私が大学に行こうと思ったのは、将来の夢が決まった時でした。夢が決まった時、自分でその職業についてたくさん調べました。私の夢は教員になることです。教員になるためにはどのような資格が必要なのか、学歴はどの程度必要なのか、小学校、中学校、高校の教員ではそれぞれ何が違うのかなど調べました。最終的に私がたどりついた答えは、大学に行って教員免許を取ることでした。また、それと同時に英語の学習に特に力を入れて行うということでした。その頃から勉強に対する意識も変わっていました。将来の夢を早い時期から持っている人は、ある程度のことを調べておくことで勉強へのモチベーションとなると思うので良いと思います。また、調べておくことによって自分がどのような資格を取得しておくべきのかなど今からできることを見つけることもできます。なので少しずつでも調べることをお勧めします。

■面接試験だけで判断される

プレッシャーがありました

私は大学へは指定校推薦で合格しました。試験内容は面接のみでした。小論文など文章力や学力を見ることがなかったからこそ、当日はとても緊張しました。面接は今回が初めてではありませんでした。英検や高校受験、塾の体験入学の時などありました。だからと言って面接試験に自信があるわけではありません。先生と練習した時から不安でいっぱいでも家でも常に面接試験の勉強をしていました。面接試験のみだったため、その一つに集中して勉強できることはとても良かったのですが、大学側の審査内容が一つしかないというプレッシャーも多くありました。ですが当日はそれまでやってきたからこそ緊張もすぐ和らぎ自分のことをしっかり言うことができました。なので面接がある人はできるだけ多く練習すると良いと思います。

受験時期は大学によって異なってきます。そのため、辛いことが自分にあるかもしれません。受験時期が異なれば合格発表も異なります。ですが、自分がその大学を受験したこと、受験まで自分自身がやってきたことに自信をもって頑張ってください。

東京工芸大学 芸術学部 マンガ学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 外国語コース卒
中国出身

志望大合格に向け自律を心掛けながら 楽しく充実した毎日を過ごしましょう

■中国で日本の漫画を知り 深く学ぼうと思いました

私は中国からの留学生です。昨年の10月に日本へ留学しました。

小学生の時から絵を描く勉強を始めました。中国で、先生は私に日本のマンガの歴史と面白さを紹介してくださいましたから、私は日本の芸術を学びたいです。昨年の10月に仙台育英に進学しました。高校で教科の勉強をしながら、日本語も勉強しましたから、日本語能力試験N2に合格しました。私は先輩の紹介によって、東京工芸大学を知りました。8月から大学のことを準備し始めました。私は指定校推薦の方式で東京工芸大学に進学したいと思いました。だから、私は自己推薦書といろいろな書面資料を準備しました。この間に、私も東京工芸大学のオープンキャンパスに参加しました。校舎を見たり、先生の紹介を聞いたりしました。自己推薦書を繰り返し書き直したので、最後完璧に完成しました。担任の先生のおかげで、私は大学の全部の準備も、よくできました。10月から面接の練習を始めました。まず、面接の例文を書いて暗記しなければなりません。そして、クラスの友達と担任先生と練習をしました。経験を積むことができると思いました。もっと上手になります。試験当日はとても緊張して待ち時間も長いですが、でも最後まで大学の面接を受け可否結果を待っていました。自分の努力のおかげで、大学に合格しました。本当に嬉しかった!! 自分の努力だけではなくて、担任先生と他の先生と学校のおかげで、私は東京工芸大学に進学することができます。

■高校生活が充実していたので 卒業を迎えて悲しいです

高校で勉強した間に、私は孔子課堂の新年会で、中国の昔の伝統民間ゲームの看板を描いたり、高校のオープンスクールでパネル展示の活動も参加したりしました。私の高校生活はとても充実していたと思います。今もうすぐ卒業します。本当に悲しいです。高校時代の生活が楽しくて、とても充実した毎日だと思います。だから、楽しくて悲しいです。

1年生と2年生の後輩たち、今の高校生活を日々大切に過ごしましょう。3年生になったら、大学の準備をしっかりしなければなりませんよ。英検と数検も重要だと思います。そして、頑張りましょう。自分の希望の大学に進学するためには、自律がとても大切です。疲れても、楽しく充実した高校生活を過ごしましょう。

城西大学 経営学部 マネジメント総合学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
岩沼西中出身

部活動で深めたスポーツへの関心を 将来の仕事に生かしたいと考えました

■スポーツと経営の両方を 専門的に学びたい

私が大学進学を目指した理由は、将来、スポーツトレーナーになりたいと思ったからです。私が進学する城西大学経営学部にはスポーツに関する分野もあります。私は当初、複数の大学を考えていました。ですが、城西大学の資料を見たときに、経営学部には経営のことだけではなくスポーツなどさまざまなことも学べると書いていたので、スポーツはもちろん観光やメディアなどの経営も学びたいと思いました。そこから私は指定校推薦で受験したかったため、単位を落とさないように普段の授業に真面目に取り組み定期テストで赤点を取らないように努力しました。推薦内定したときはホッとして、入試に向けて面接練習などを頑張りました。

■マネージャーを務め状況を 判断する力が磨かれました

私はサッカー部で先々のことを予測して行動することを学びました。150人以上を超える部員がいる中で私だけマネージャーだったため困難なことも多々ありました。入部当初は何も分かりませんでした。先輩方が優しく教えてくれたため仕事の内容把握し楽しく仕事をすることができました。部室が汚かったり、チームの荷物の管理が徹底できない時が多々ありコーチから怒られてしまうことが初めの頃はありましたが、しっかりと反省して周囲をよく見るようになりました。1年生の冬に全国高校サッカー選手権大会の遠征に参加した際は洗濯やその他業務でグラウンド以外での仕事を行いました。このときに周りをよく見て行動することの重要性を感じました。また、審判の資格を持っているため紅白戦や練習試合、県のリーグ戦は審判を務めたりとマネージャー以外の仕事にも挑戦しました。私はマネージャーを務めたことによってサッカーというスポーツを様々な角度から見て経験することができました。自分自身の忍耐力も鍛えられたと思います。

後輩の皆さんも大学を決める際には自分が将来、何をやりたいかを決め、それに合った大学を決めるべきです。そしてオープンキャンパスには今のうちに行くと大学の印象を知ることができます。皆さんが志望大学に合格できることを応援しています。

文教大学 経営学部 経営学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
多賀城第二中出身

先生方の的確なアドバイスのおかげで 本番の面接をミスなく乗り切りました

■進路に迷ったら先生方に 早めに相談しましょう

1年次から指定校推薦での進学を考えていました。指定校推薦は評定が足りないと志望する大学の推薦がもらえなくなるので、定期考査や課題の提出は徹底しました。志望大学を決める時は、早めに希望する大学を数校絞り、実際にオープンキャンパスに行き説明を聞いて、自分の学びたい事や将来やりたい事の参考にしました。大学選びは、今後の人生に関わる事なので、妥協せず真剣に選んだ方がいいと思います。そして推薦をもらえた際には、早めに面接練習をやった方がいいと思います。担任の先生や教科担任の先生などに面接練習をお願いしました。その結果、的確なアドバイスのおかげで本番の面接では殆どミスなしで終えることができました。進路関係で迷っていることがあったら、空きの時間に先生に早めに相談した方がいいと思います。

■3年間を無駄にせず何事も 一生懸命取り組みましょう

自分の高校生活の3年間を振り返ってみると友人に恵まれていたと感じています。定期テストの時も教え合ったり励まし合ったりしてテストの際は助けてもらいました。修学旅行やスプリングチャレンジなどいい思い出がたくさんできましたし、自分でもいい3年間を感じています。高校生活は人生の中で3年間しかない貴重な時間です。その3年間を無駄にせず友人や勉強、部活に一生懸命に取り組んでほしいと思います。

最後に、今進路に悩んでいる人は、目の前の事に全力で取り組みましょう。そして3年時にある校内模試の勉強や資格取得をしてると指定校推薦で有利に推薦をもらえることができます。今勉強すれば、幸せな大学生活を送ることができます。がんばってください。

日本薬科大学 薬学部 薬学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
五城中出身

友達や家族に対しては勿論のこと 努力し続けた自分にも感謝しています

■薬学に対する視野が 広がる大学だと思いました

私は一般入試で大学に行こうと考えていたので、指定校推薦を使うことは頭にありませんでした。しかし、夏の三者面談でこれまでの評定や校内模試の結果から、出せる大学はあると言われ、そこで初めて考えることになりました。

私は指定校推薦枠のある大学のオープンキャンパスにいくつか行きました。その中でこの大学を選んだ理由は、他の大学にない特殊な分野を学べるため、薬学に関する視野を広げることが出来ると思ったことと、学生の方と話をしたり、薬剤師の活躍について聞き、自分のやりたいことが以前より明確になったことです。当時目指していた大学よりもここに入りたいと思い、指定校推薦を出す決めました。

■強い気持ちで頑張ることは 本当に大変でした

この時、私は2つのことを思いました。まず一つは、自分が受験できる全ての方法を調べたり、最悪の場合どうするのかということをもっと早くから考えておくべきだったということです。私は3年の初めは頑張ればどうにかなるだろうくらいにしか考えていませんでした。しかし、長い受験期間を強い気持ちを持って「頑張る」ということが一番大変なことだろうと今は思います。長期的な目標を立て、目標を持ち行動することが大切だと思いました。

もう一つは、今まで評定を下げないために定期テストや日々の提出物を投げ出さずに努力した自分への感謝です。それと同時に、その時頑張れたのは放課後学校に残ったり、カフェで遅くまで一緒に勉強してくれた友達がいたことや、テスト期間でも毎日必ずお弁当を作ってくれた家族の支えがあったからだと感じました。

私は高校生活の中でたくさんの人に支えられて自分がいることを実感し、感謝し生活しようと改めて思うことができました。この3年間の経験や得た知識、仲間は人生の中で大切な財産になると思います。より良い3年間を過ごせるよう頑張ってください。

江戸川大学 社会学部 経営社会学科ファッション・音楽ビジネスコースに
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
五城中出身

他のクラスの人達とも積極的に交流し 自分の考えやアイデアが広がりました

■ 4年間かけて深く学ぶことで 視野を広げていきたいです

まず初めに私が大学進学を目指した理由は専門学校よりも幅広くさまざまな視点から専門分野を学ぶことができ、4年間かけて学ぶことができるからです。

受験方法は指定校推薦を選びました。指定を受けるにはまず指定されている評定にする。もしくは超えていないといけないため、受験前の最後のテストと模試はいつもより勉強時間を増やしました。暗記教科は就寝する前と朝にやり分らない問題は積極的に友達か先生方に聞いて分からない所をなくしました。

成績だけではなく、普段の生活態度や行事や活動に参加した実績も関わってくるので、私は合唱コンクールの実行委員をしました。そのおかげで一つのものを作り上げる楽しさと達成感を得ることができました。授業は集中して取り組む、提出物は期限までに出すという当たり前のことはしていました。

個人的に意識して行っていたことは、クラスの人とは勿論、クラス外の生徒とも積極的に話すようにしました。それによって色々な考えや意見の人と出会うことができるので、自分の考えやアイデアが増え進路もいい意味で迷うことができました。

■常に進路を頭の片隅において 高校生活を過ごしていました

私が江戸川大学を決めた理由は、講師の先生方の実績やどのような実習があるか詳しく調べました。さらにオープンキャンパスや文化祭へ参加した大学の雰囲気をつかみました。そこで自分に合っているなど感じ選びました。前々から自分のなりたい理想像を大まかでもいいので考えておくことで行きたい大学を決めやすいと思います。

仙台育英での3年間は将来の事や進路を頭の片隅に置きながら行事や授業に取り組むことで焦ることなく進路も決められ、自分に余裕もでき主体性や実践力、柔軟性をもつことができました。過ごしてみて分かりましたが3年間は長いようでとても短いです。今のうちからでも遅くないので後悔のないよう高校生活を過ごせるように頑張ってください。

城西国際大学 薬学部 医療薬学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
稲井中出身

早くから大学調べや先生方に相談し 納得できる進路先を選べました

■シャトルバスの利用時間を 活用して勉強しました

幼い頃から医療関係の職に就きたいと考え大学を目指していました。中学生の時、指定校推薦がたくさんあることに魅力を感じ仙台育英に入学しました。高校入学後、早い時期から進路について先生に相談をし、薬に携われる職業に就くため薬科大学への進学を目指そうと決めました。そのために自主学習・資格取得に力を入れました。私はシャトルバスで登下校をしているため、バスの中や放課後のバスの待ち時間などの空き時間を使い、大学進学に向けて必要な科目を参考書や問題集で学習しました。苦手なところや分からないところは進んで担当の先生に声をかけ質問をし、すぐ理解できるよう努力しました。

指定校推薦の推薦をしていただくために、普段の授業をしっかり受けること、遅刻・欠席をしないこと、提出物の期限を守ることといった基本をしっかり行うよう心がけました。このようなことをすることにより定期考査や平常点で高得点をとることができ、結果的に良い評定を残すことができました。また、数学検定やニュース検定、情報処理検定など様々な資格を取得しました。これは、大学入試の際のアピール材料ともなり、高校生活で一番努力しました。

■多くの支えのおかげで 充実した3年間でした

私は大学進学するために早い段階から様々な大学のオープンキャンパスに足を運び、大学を比較することによって自分の目標を達成するための一番良い大学を選ぶことができました。このように私が将来の目標にあった大学を選択することができたのは、いつも相談に乗ってくださった担任の先生を始め添削指導や面接練習をしていただいた進路担当の先生方のご支援のおかげです。初めは面接の受け答えができず不安な気持ちもありましたが、多くの先生方と練習を重ねることで不安を取り除くことができ、本番で落ち着いて試験を受けることができました。

仙台育英での3年間はたくさんの方々を支えてもらいながらとても充実した高校生活を送ることができました。この3年間で得た経験を生かして大学でも充実した生活を過ごして行きたいです。

神田外語大学 外国語学部 イベロアメリカ言語学科スペイン語専攻に
指定校推薦で合格

令和2年3月 外国語コース卒
矢本第一中出身

気持ちにゆとりができるので 早めに準備に取り掛かりましょう

■ IB の授業で学んだことを 自己アピールしました

私は1年生のときから神田外語大学でスペイン語を学びたいと考えていました。そのため英語検定を積極的に受けて、指定校推薦の応募条件をクリアできるように準備をしていました。また、私は2年間IBの授業を受けていたので、それが私の一番のアピールポイントだと思い、IBでどのような授業を受けて何を学んだのかを言葉にできるようにしていました。指定校推薦が取れたあとは、志望理由書を早めに書き終え、面接の準備をしました。大学に提出しなければならない書類の準備もできるだけ早く終わらせました。もしも書類に不備があっても時間に余裕があれば何とかできるので、準備を早めに終わらせておくのは大切だと思います。私の大学の入試内容は、英語リスニング、小論文、日本語面接だったので、英語リスニングは大学のホームページに載っていた過去問題を解いていました。小論文もホームページに過去問題が載っていて毎年同じようなことがテーマになっていたのも、本を読んだり自分で大切だと思ったことを調べたりしました。面接は事前に一字一句暗記するよりも、言う内容を考えるだけのほうが私は良かったので、特に重要なことだけをメモしました。

■ 本番の面接では練習通りに 話すことができました

試験本番では、リスニングも小論文も例年と似た問題が出題されたので、それほど難しくなかったです。面接は私が一番最後で、4時間程ずっと座って待っていたので、緊張よりも早く終わらせたいという気持ちのほうが強かったです。いざ面接が始まったときは緊張しましたが、練習通りに自己アピールや将来の目標を具体的に話すことができましたので、練習しておいて良かったです。

このように、自分の心に余裕を持つという意味でも早く準備に取りかかり、面接がある人はくり返し練習することが大切だと思います。がんばってください。

淑徳大学 総合福祉学部 教育福祉学科健康教育コースに
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
佐沼中出身

仙台育英では仲間と楽しい思い出を作り 寮生活を通して自立できました

■新しい土地で養護教諭を 目指そうと考えました

私は将来教員になりたいと考えていて、2年生までは県内の教員免許を取得できる大学へ進学しようと思っていました。しかし、3年生の春に姉が千葉県に就職すると聞いて、私も新しい土地で色々な挑戦がしたいと考え、千葉県の大学を探し始めました。同じ時期に、教員の中でも養護教諭になりたいと決意し、養護教諭の免許が取得でき、かつ、自分が行きたいと思える大学に指定校推薦の枠があったのでチャレンジしようと思いました。そこから私は、先生がclassiにアップしてくださった校内模試の過去問を解き、時間配分を調整したり、問題の傾向に慣れることに心がけました。幸い私は、遅刻や欠席がほとんど無く、定期テストも頑張っていたおかげで評定平均値も良かったので校内推薦を得ることができました。指定校推薦を考えている人は、校内模試対策を早め早めにおきましょう。

■寮生以外も利用できる チューター学習はお勧めです

また、私は3年間寮で生活をしていました。寮生になって、自分でしなければいけないことが増えたり、今までよりもさらに自分の行動に責任を持つようになりました。そのため自立することができたと思います。また、家族のありがたみを深く感じることができました。さらに、寮生にはチューター学習という制度があり、18時20分から20時20分まで学習する時間が設けられています。したがって、私はほぼ毎日放課後は学校に残って勉強する習慣を身に付け、熱心に励みました。分からないところは、一緒に勉強をしていた友人に聞いたり、大学生のチューターさんに聞いて解決しました。特に、チューターさんには高校時代の勉強法や大学生活のことなどたくさん話を聞いて、とてもためになりました。チューター学習は、寮生以外にも誰でも利用できるのでぜひ活用してみてください。

最後に、私は仙台育英で有意義な3年間を過ごすことができました。それは、たくさんの仲間と楽しい時間を過ごすことができたからだと思います。後輩の皆さんにも、勉強も大切ですが、今いる仲間と楽しい思い出をたくさん作ってほしいと思います。そしてもちろん目標としている進路を達成してほしいと思います。一日一日を大切に頑張ってください。応援しています。

帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科トレーナー・スポーツコースに
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
中野中出身

勉強や部活動、入試等どんなことも 諦めずに努力すれば道は開けます

■自主練習に励んだ結果

試合の出場機会が増えました

私が指定校推薦を取るために努力したことは勉強と部活です。初めにテストでの点数を上げるための試験勉強に取り組んできたことです。私は最初のテストに臨んだ際に点数が思った以上に伸びずにいましたが、このままでは指定校推薦が取れないと思い、家に帰宅してからも試験対策をしてきました。ただテスト勉強するのではなくいろいろ考えながら取り組んできました。その結果、大幅に点数も上がり自分に自信もつきました。次に部活動などで努力してきたことは、自分はサッカー部に所属していました。苦しい時期も多くあり部活動で初めは試合など出られず悩んでいましたが、全体練習が終わった後も自主練習に励んできたことによって、少しずつ試合に出場する機会も増えました。このように勉強や部活動も諦めずに取り組んでほしいと思います。

■推薦合格後は自覚を持ち

さらに勉学に励みましょう

次に、私が受験に成功した一番の要因は、面接練習に力を入れたことです。面接練習の際も初めはなかなか上手くいかず緊張ばかりしてしまい話したいことが話せずになりました。しかし、先生と何回も練習していくうちに緊張もなくなり、はっきりと自分の話したいことが話せるようになりました。実際に指定校推薦を取ることができ、本番ではこれまでたくさん練習をした成果が発揮でき、すらすらと言えることができました。これから生活していく中で何事も諦めず努力していけば良いと思います。私にとって大学とは、将来の職業に生かしていくような勉強するというイメージがあります。大学は高校とは違い勉強も難しくなり自分で考えなければなりません。その中でこれから大学の勉強についていけるよう今から少しずつ対策をしていってほしいと思います。大学を決める際は自分が学校の代表で選ばれたという自覚を持ち、これから勉学に励んでほしいと思います。大学が決まったとしても気を抜かずに生活してほしいと思います。

亀田医療大学 看護学部 看護学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
若柳中出身

毎日休まず登校していたことも 指定校推薦で有利になりました

■先生の勧めでこの大学の 推薦受験を決意しました

大学合格のために心がけたことは出席日数です。私は勉強があまり得意なほうではなかったのでその分学校を休まず行こうと意識していました。進学は1年生の頃から考えていて、看護師になりたいというのは幼い頃からの夢だったので看護学部を目指そうと思いました。私は元々違う大学を志望していましたが、こういう大学もあると先生に勧めていただき親とも相談して亀田医療大学を志望大学にすることに決めました。最初は志望大学を変更することに迷いもありました。ですが、先生方や友人たちから話を聞くと、私にはこの大学が合っているとわれ、私自身も4年間この大学で頑張りたいと思うようになっていました。私は校内模試の結果があまり良くなかったため指定校推薦を取れるか不安でしたが、1年生の頃から意識していた出席日数のおかげで取ることができました。

■看護師という夢に向かい 大学でも頑張っていきます

それ以来、受験に向けて面接や小論文などの練習に打ち込みました。家に帰宅しても親と面接練習したり過去の問題を見て何回も小論文の練習をしました。先生方の適切なサポートのおかげで自信を持って受験し無事合格することができました。

後輩の皆さんに伝えたいことは、勉強ももちろん大事ですがきちんと学校に毎日行くことも大切だと思います。学校にきちんと来ていれば授業に遅れることもないし奨励賞を頂くこともできます。指定校推薦を取れないかもしれないと諦めている人も挑戦してみてください。

私は春から夢である看護師になるため4年間励みます。辛いこともあるかもしれませんが私なりに頑張っていきたいと思っています。

同志社大学 政策学部 政策学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
八乙女中出身

置かれた環境で真剣に努力を続ければ 道は開けることを受験で実感しました

■推薦受験を想定しておらず 準備不足を後悔しました

仙台育英での3年間で、建学の精神である「至誠」の考え方が少し理解できたように感じます。置かれた状況でとにかく真剣に、一生懸命やれば道は開かれるということです。そして同時にそれは必要か必要でないかなどというつまらない価値基準を捨てることも意味します。とはいえ私は元々、校内模試の前まで地元国立大学志望で指定校の制度も知らなかったこともあり、校内模試を重要視していませんでした。しかし、過去問10年分の解き直しと、問題の傾向と対策に十分な時間を割きました。結果としてこれが功を奏したと言えます。

有名大学の推薦枠は非常に人気があります。高い評定平均値を必要条件として、校内模試の順位が選考に大きく関わってきます。そして結果が返ってきて、自分には無関係だと思いながらも幾つか大学を調べた時、自分がいかに無知で井の中の蛙だったかという衝撃を受けました。正直今まで進路指導や自己分析に本気で取り組んでおらず、自分は勝手に地元の大学に行くものだと思い込んでいたので尚更でした。また、英検や生徒会、行事での経験が乏しかった自分は、その必要か必要でないかといった価値基準がいかに価値がないものだったかを悔いました。

■自分の気持ちに正直になり 進路を決定してほしいです

僭越ながら後輩の皆さんに助言するとすれば、直感に従うということです。日本に大学は800近くあり、海外に目を向けることさえも選択肢のひとつなのです。先輩たちの様々な口コミやオープンキャンパスに参加する中できくと感覚的にここに行きたいと強く思える大学があるはずです。周りの大人や友達に左右されることなく、自分の気持ちに正直になって欲しいです。自分で自分の人生を決断して欲しいです。決断が正しいかどうかは誰にも分かりませんが、「至誠」を胸に、置かれた環境で不平不満を言わず、真っ直ぐ努力できる人に決断の権利が与えられると思います。

最後になりましたが、支えてくださった担任の先生を始め、多くの方々に感謝し、伝統ある名門仙台育英のOBとなれる事を嬉しく思います。そして、このような拙い文章を読んでくださった後輩の皆さんの高校時代が、志望大学合格によって素晴らしいものになる事を願い、締めたいと思います。ありがとうございました。

同志社大学 法学部 法律学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
矢本第一中出身

意識の高い仲間と学習環境に恵まれ 「逆転の仙台育英」を実現しました！

■先生方の話は勉強になり 学習意欲が湧きました

私は高校受験で失敗し、この仙台育英特別進学コースに入学しました。入学した当初は明るい高校生活というよりも、憂鬱で辛かったです。勉強も全くやる気が出なく怠惰に過ごしていました。しかし、そんな私が変われたのは、何とんでもこの仙台育英のおかげでした。私が変わった主な理由は、充実した自習環境があり、そこにはたくさんの大学の資料があるということです。大学の資料を見たことで、同志社大学合格を目指し、勉強に必死に取り組めるようになりました。オークルームやGPホールで意識の高い生徒と3年間自習に励みました。そのことが学力向上に繋がったと確信しています。また、経験豊富なベテランの先生方の授業を受けたことも理由の一つです。2年生の頃に私が数学を教わった先生は、数学に関する様々な話が面白く勉強する意欲が湧きました。他にも素晴らしい先生がたくさんいらっしゃいます。是非、先生達と積極的に話してください。勉強になることがたくさんあります。

私が、同志社大学法学部法律学科の指定校推薦での合格を志したのは高校2年生の頃です。そのために、朝は5時に起床して始発の電車に乗り、車内で英単語や熟語などの学習に励み、始業までオークルームで英語の長文や現代文の問題を解きました。放課後は、家に帰りすぐに勉強を始め、夕飯などの後も午前1時まで勉強に励みました。これが私の日課で、かなりきつかったと思います。しかし、合格した後は達成感があります。

■英数国と英単語の学習は 早々に終わらせました

最後に、私からの勉強のアドバイスとしては、私自身、英数国の3教科を2年生までに終わらせ、3年生の模試で納得のいく成績を取めることができました。また、1年生の時に英単語を一通り終わらせると尚良いでしょう。高校の勉強は身構える必要はありません。分からない問題があっても、努力することで分かるようになります。1年生から意欲に満ちた努力をすれば必ず志望大学に合格することができます。

私は仙台育英の特別進学コースで大きく成長することができました。現に、皆さんもきっとこの学校で成長できるはずです。「逆転の仙台育英」のもとで、勉学に励み頑張ってください。応援しています。

同志社大学 法学部 政治学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
郡山中出身

高校生のうちに図書館で色々な本を読み 知識をとことん増やしておきましょう

■ 校外活動に意欲的に参加し 強みを作っておきましょう

同志社大学の指定校対策としては、評定を確実に落とさないように努め、校内模試で結果を出すことが第一に必要です。さらに自己推薦文や志望理由書に備え、2年生のうちから校外で個性的な活動をすることが大切です。校内では差別化を図るのが大変難しいからです。自分にしかない強みを作っておくとアピールに効果的です。内定をもらった後は大学を強く意識した学習を行うべきであると思います。時間を大切に有効に使い一番必要な学びを実践すべきです。

■ 志望大に関連した本を読むと 志望理由が明確になります

校内ではGPホールやオークルームはもちろんのことですが、図書室を積極的に利用すべきです。同志社大学法学部の教授の著書や新島襄が書き残した手紙をまとめた本もあるため、なぜ同志社大学を選ぶのかという答えをそこから拾うことができます。さらに、「この先生のこの学問を勉強したい」と言うことができるので、面接や志望理由書において深みのあるアピールにつなげることができます。知識は最強の武器なので興味のある分野の本はたとえその著者を知らなくても呼んでおくと自分ならではの価値観や視野を手に入れることができるようになります。

最後にひとつつけ加えると、日本の優れた近代文学を卒業までに読んでおくべきだと思います。これは文系や文学部に限ったことではなく、どの学生にもいえることだと考えます。社会に出てからそれらを読もうとするのは大変ですから、毎日通えてお金もかからない図書室を積極的に利用し、知識をとことん増やして行ってほしいと思います。

同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科英語コースに
指定校推薦で合格

令和2年3月 外国語コース卒
岩切中出身

志望大がどんな学生を求めるかを調べ それに合う自己アピールを考えましょう

■語学とコミュニケーションの 実力を大学で伸ばしたい

この大学を進学先として選んだ理由は、語学力とコミュニケーション力の両方を学ぶことができると考えたからです。両方を学ぶことができる大学は複数ありますが、1年間の留学が義務付けられていることや、自分の将来の目標を達成するために役立つプログラム内容など様々な面から大学を調べ、一番ベストである同志社大学を選びました。

受験方法が指定校推薦を用いるものだったので、主に6月の校内模試と出願する際に必要な外部試験の勉強に力を入れました。校内模試は約1ヶ月前から勉強を開始し、過去問や参考書を繰り返し解きました。繰り返し解くことで、苦手な分野を発見できたり、模試の問題の傾向を理解したりすることができました。また外部試験は、TOEICの勉強を集中的に行いました。受験する回数を増やすのではなく、しっかりと勉強してから受験に臨んでいたため、毎回確実に点数を伸ばすことができました。

■受験ではボランティア活動を 大いにアピールしました

学業以外では、自分が志望の大学・学部に対応しいことをアピールするためには何が必要かを考えました。私は、IBでの課外活動やインターアクト部を通して、多くのボランティアに参加したので、自己推薦書には自分が経験した活動やそれらが大学でどのように役立つのかを書きました。皆さんも大学を受験する際には、自分の志望する大学・学部はどのような生徒を求め、自分は合格するために何をアピールできるのかをぜひ考えてみてください。

3年間は本当に早く過ぎてしまいます。大学受験の準備は早く始めるに越したことはありません。早く志望の大学が決まれば、その分対策できる期間も長くなります。自分の目標を明確にし、そのために自分ができることを考え、後悔のない高校生活を送ってください。

立命館大学 情報理工学部 情報理工学科に
提携校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
岩手 田老第一中出身

興味があるなら果敢に挑戦して 目の前のチャンスをつかみましょう！

■プログラミングを学べるので 提携校推薦に挑戦しました

私は立命館大学情報理工学部に入學しました。なぜ 情報理工学部を志望したのかというと、日本最先端の技術で社会で必要となるものを作り出し、人々の役に立てる職を目指すことが可能になると考えたからです。

私の将来の夢はデータサイエンティストです。そのためにはプログラミング能力は必要不可欠となります。私は、プログラミングに興味があったものの陸上競技部と日頃の勉強の両立が難しく、プログラミングも初心者なのでとても自信がありませんでした。しかし、提携校推薦で立命館大学情報理工学部があることを知り、合否関係なくプログラミングを学べる良い機会だと思い、勇気を持ってチャレンジしようと思いました。実際には複数回の講義とそれを踏まえたレポート作成、一泊二日のキャンパスでの学習を行うスクーリングをしました。初心者の私には初めての言葉や知識が殆どで、レポート作成にもとても苦しみました。しかし、やり遂げることができたのは強い意欲と周りのサポートがあったからこそです。最後の最後まで粘り強く学び、到達度確認テストがありましたが、無事に修了証書をもることができました。

■講義やレポート作成を経て 学習意欲が更に強まりました

今回の経験で経たことは知識は勿論ですが。根気強く本気で学びたいという意欲があれば思いは届くと分かりました。また、自分に自信が持てるようになり、最終的に大学で専門分野を4年間突き詰めて本気で学びたいと思うようになりました。結果として、第一志望の大学にも進学することができてとても良かったと思います。だからこそ、興味があるもの、好きなものには積極的に貪欲にチャレンジし、1回の与えられたチャンスを見逃さないように生活することが大切だと思います。苦しくても諦めずに勇気を持って取り組みたいと思います。

関西学院大学 法学部 法律学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
東仙台中出身

先生方に質問すれば強化ポイントから 解ける楽しさまで教えてくださいます

■全てのテストに真摯に
取り組めば道は拓けます

私が指定校推薦入試を知ったのは、高校3年生の春でした。それまでは関西学院大学を一般入試で入学しようと思っていました。私が一番言いたいことは、推薦入試は一つの入試様式に過ぎないということです。指定校を目指すからといって、定期考査以外の模試をしっかりと受けなくなるのは、やめましょう。逆もまたしかりで、一般入試だからといって、定期考査を捨てるのはやめましょう。全てのテストに真摯に取り組むということは、自分の可能性を広げます。1, 2年生の段階で決めるのは早いと思います。志望大学が決まったのなら、その大学へ行くために、より多くの選択肢を持っている方式がいいのは明白です。一般入試で入っても、推薦入試で入っても、学べることは同じです。

■進路を達成できるのは
努力を続けられる人です

私は高校受験に失敗したことが悔しく、自分の志望大学合格に向けて、高校1年生の頃から勉強しようと思っていました。まず最初は英語を武器にしようと思い、単語力を上げるためにターゲット1900をやりました。その時に身につけた単語力が基礎となり、3年生となった今でも英語は自分の得意科目です。次に取り組んだのは数学です。私は数学に対して苦手意識を持っていて、高校受験を失敗へと導いた一つの要因でした。しかし、高校では数学を得意科目にしようと、積極的に先生にわからない問題を質問しに行きました。そして、ある先生から、「君が数学が苦手なのは、公式をあてはめようとしているからだ」と言われ、自分が何故苦手なのかに気付くことができました。だから、どんな教科でも、わからない問題があれば、恥ずかしがらずに、聞くべきです。先生達は答えを導くプロセスの他に、勉強の指針や解けることの楽しさを教えてくれます。私が3年間勉強に打ちこむことができたのは、このような先生達のサポートがあったからだと思います。

最後に、合格する人間というのは、続けることができる人間だと思います。諦めず全力でやり続けられれば、できないことはありません。

京都産業大学 文化学部 京都文化学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
矢本第二中出身

どんな小さな目標でも設定することで 努力のモチベーションになります

■複数の大学に足を運び

自分の目で比較しましょう

私は兄の大学進学がきっかけで、大学のことをたくさん調べるようになりました。その大学で学べることや学生生活など、いろいろな大学の情報を集めました。そしていくつかの大学のオープンキャンパスにも参加しました。実際に参加することで、パンフレットやネットの情報だけでは分からない学生の雰囲気やキャンパス内の様子を細かく知ることができて、大学に対するイメージが大きく変わることもあるので、いくつかの大学を自分の目で見比べるといいと思います。仙台育英には、学校と大学の信頼関係や過去の先輩のおかげで、多くの指定校推薦枠があります。その中に私が志望する大学の推薦枠があったため、指定校推薦での進学を目指しました。

私は推薦をいただくために『無遅刻・無欠席』を目標としました。往復で2時間かかる毎日の登下校は大変でしたが、目標として設定していたことで3年間頑張ることができました。どんなに小さな目標でも自分のモチベーションにつながるので、達成するために努力することができると思います。また、英語検定や中国語講座などにも積極的に挑戦しました。最初は不安ばかりでしたが、挑戦することで得られるものも多くあるので、高校生活の中でたくさんのごことに挑戦してみてください。

■先生方に積極的に質問し

不安な所を補いました

仙台育英では、学力を向上させるための環境が十分に整えられています。さらに執務室には多くの先生がいらっしやって、1対1で勉強を丁寧に教えてもらうことができます。授業で聞くことのできなかつたところや自分の力では解くことのできなかつた問題を質問しに行くことで、自分の足りないところを補うことができると思います。

私は仙台育英での高校生活を通して多くの事を学びました。学習面だけではなく、日々の生活や行事から様々なことを吸収し、協調性や社会性を身につけたことで人として大きく成長できたと思っています。しかし、その充実した高校生活や大学進学は自分一人の力では絶対にできないと考えています。大学進学を考えている皆さんにも、周りで支えてくれている家族や先生方、友達への感謝を忘れずに頑張ってください。

奈良大学 文学部 史学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
広瀬中出身

志望大の決定やテスト対策など 何をするにも早めに動きましょう

■テスト勉強の際には先生に 積極的に質問しに行きました

将来、高校の教員になりたいと2年生の時から考えていたため、教員免許の取れる大学を指定校推薦の枠の中から探し、4年間を充実したものにできると思い、奈良大学を志望しました。

そこからは、推薦枠を確実に取るために評定を上げるように授業態度をよくするようにしました。テスト勉強の際には、積極的に教科担当の先生に質問を行ったりして、苦手教科の克服と得意教科の得点アップをするようにしました。

他には、インターアクト部に所属していたので、ボランティア活動にもよく取り組んでいました。仙台七夕の募金活動のボランティアやNPO法人の主催するボランティアの活動にも参加しました。部の定期活動にもしっかりと参加しました。

3年生になってからは、定期テストではあまり点数にはこだわらずに、安定して5の評定をもらえるような点数を目指すように心がけました。

推薦枠をもらうのに一番大切な校内模試では、5月頃から過去問をもらって対策をするようにしました。模試の勉強でも、担当の先生に問題の傾向などを聞いて対策をした。

■合格後も評定平均値を 下げないよう努力しました

推薦枠を取ってからは、自己推薦文や志望理由書を書くのがかなり大変でした。それが終わってからは面接練習に時間をかけていました。練習は合計で7回位行いました。合格してからは、3年生の最後のテストで評定平均を下げないようにいつも通りテスト勉強をして評定を守りました。

何をするにも早めに動いた方がいいことが多いので、志望大学の決定や勉強面での対策などはできるうちにやっておくべきだと思いました。

立命館アジア太平洋大学 国際経営学部に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
韓国出身

留学生ならば自分から部活動などの 日本人の多い環境に身を置きましょう

■日本語学習を頑張ったことが 英語力の向上に繋がりました

私が大学進学をめざした理由は、もっと広い世界を経験したかったからです。日本の高校に入学した時から今まで、将来やりたいことは昔から変わらずグローバルなサッカーエージェント会社を経営することです。そのため、将来に適する大学を探しました。2年間に志望大学は数回変わっていて、3年生になり、ようやく将来に適する大学を見つけることができました。私は外国人向けの仕事がしたいので、英語を話せる能力は必須だと考えられます。そのことを最も考慮して選んだ大学が立命館アジア太平洋大学です。外国人が半分在学していて、英語学習はもちろん異文化を経験して自分のグローバルなサッカーエージェント会社を経営する際に役に立つと考えました。

私は、受験のための勉強より実生活で必要な言語の勉強に力を入れました。その結果、日本語を話せるようになり英語ももっと話せるようになりました。そして英語の成績を維持することができましたし、立命館アジア太平洋大学の指定校推薦を超えることができました。

■日本人の友人や先輩と接し 大きく成長できました

留学生にとって充実した高校生活とは、周りのネイティブスピーカーと充実した時間を過ごすことだと考えます。そのため、私はサッカー部、生徒会などの周りに日本人が多い所に身を置きました。その結果、言語能力だけでなく、新しい環境に適応していく能力、様々な状況において必要とされる問題解決能力などを鍛えることができました。

私が後輩留学生達に伝えたいことは、「同じ国から来た友達と過ごす時間を減らした方がいい」ということです。もちろん外国で出会った同じ国から来た人とは通じることも多くて楽しく時間を過ごすことができると考えます。ところが、私は高校で気づいたことがあります。それは、同じ国から来た友達と時間を過ごせば過ごすほど成績は落ちるし、日本語の語彙も増えなくなることです。後輩の留学生達はこのことに早く気づいて充実した高校生活を送ってほしいです。

札幌国際大学 観光学部 観光ビジネス学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
岩切中出身

高校生活で頑張ったことを一つでも多く 受験で言えるように頑張りましょう

■仙台育英は推薦枠が多いので 進学チャンスと考えました

私が志望大学合格のために日々頑張ってきたことは大きく分けて三つあります。一つは生活面や勉強面です。まず、生活面では1年生の時から大学合格のために指導が入るなど進路に影響の出る事は絶対にしないと日々意識してきました。また、勉強面では、1年生の時からなるべく赤点科目を減らし評定5に近づけるように日々頑張ってきました。二つ目に推薦入試を目指したきっかけは、仙台育英は全国の様々な大学と提携しているため、他の高校と比べて自分の学びたいまたは魅力的な大学を志望するにあたって合格に近づけるので、3年間一生懸命頑張って指定校推薦を取れるように頑張ってきました。

■好成绩にこだわって サッカーを続けてきました

三つ目は部活面です。元々小学校の頃からサッカーをしていましたが中学校で終わらせるのではなく、大学受験をする際に高校生活で頑張ってきた事を一つでも多く言えるように部活面でも一生懸命取り組んできました。高校3年でただ普通にサッカーをしていても意味がないので、良い成績を目指し部員同士切磋琢磨しながら頑張ってきました。

大学合格出来るか出来ないかは自分自身の努力次第です。定期考査でも1点でも多く取れるように努力した事や、普段の生活で何事においても一生懸命努力した事が自分の中では大学合格につながったと思います。

富士大学 経済学部 経営法学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
東京 荏原第五中出身

志望大が固まったら遠慮せずに先生に 推薦について何度も相談しましょう

■大学の練習に参加し監督に 大学への想いを伝えました

私が大学に合格するまでに意識した事は二つあります。

まずは、何事も早めに動く事です。私は、大学をサッカーの推薦と学校からの指定校推薦で決めました。大学からのサッカーでの推薦をもらうために、早めに大学の練習参加をお願いして練習に参加させてもらうこと、それと、大学側に自分がこの大学に入りたいという気持ちをしっかりと伝える事が大切だと思います。なので私は、3年生になってすぐの5月の中頃には大学の練習に参加し、大学の先生、サッカー部の監督にこの大学に入学したいという意思を伝えました。次に、学校からの指定校推薦をもらうために担任の先生に早めに相談し、推薦に必要な条件やその仕組みを良く聞く事と分からない点や困った事は遠慮せずに何度も聞く事が大切だと思います。大学によっては成績や出席日数、資格など厳しい条件があるところも少なくありません。なので、成績を落としたり、体調不良になってしまっただけで出席の数が足りなくなり推薦をもらう条件を満たせなくなるのを防ぐためにも、ある程度行きたい大学や進路が決まったら早めに先生に相談する事が大切だと思います。

■団体競技でも個人成績を 残すことが重要です

二つ目は、部活動を一切手を抜かず真剣に3年間取り組み続ける事です。推薦をもらうためには大学からの推薦はもちろんですが高校の監督からの推薦も必要になります。また、大学によっては「スポーツ競技成績証明書」というのが必要です。これに、3年間の自分の部活動で残した成績を書く事になります。この紙は、チームの成績ではなく個人の成績を書く事になるので、メンバーに入る、試合に出るなど個人としての何らかの成績が必要になります。なので、部活動に真剣に取り組み、出来るだけ個人としての成績を残し、監督からの推薦も貰えるように頑張る事が大切です。

受験は自分の人生にも影響する大切な進路決定です。後悔のないように頑張ってください。

ノースアジア大学 法学部 法律学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
八乙女中出身

校内模試の過去問を利用して学習し 不得意教科を克服できました

■進学を考えるようになり 予習復習に力を入れました

仙台育英の指定校推薦の数と卒業生の進学率を他の高校と比較した際に仙台育英に大きなアドバンテージがあると考え入学を決めました。

私は入学後、高校受験からの開放感から勉強を疎かにしていました。そのために成績はあまり良くありませんでした。高校1年生のスタートからつまづき周りより遅れてしまいました。この遅れは高校1年生の間には取り戻すことができずに進級しました。

高校2年生では、これまでの学力的な遅れを取り戻すために反復的な復習を行うと同時に予習を行いました。また、この時期から大学進学について考えるようになりました。高校2年生の成績はこれらのことから今までの最大で4倍となり、評定平均値も多くの大学の推薦のボーダーラインを僅かに超える程度になるまで成績を伸ばすことができました。

高校3年生では、2年生で伸ばすことが出来た成績を保つと同時に、伸ばすことを意識して学習することを行いました。3年生では指定校推薦を決める校内模試があります。当時私の志望大学は指定校推薦ではありませんでしたが、進学先の幅を広げるために過去に行われた校内模試の問題を分析し、出題パターンや傾向を確認することを行いました。このことを続けることによって不得意であった英語と古典の克服ができました。

■面接や小論文の練習は 積み重ねが大切です

校内模試が終わった後は、大学進学に向けての対策を行いました。推薦入試やAO入試において必須である場合がよくある面接を重点的に行いました。最初は予想していなかった質問に対して答えることが出来なかったことが多々ありました。しかし、面接練習の回数を重ねることで予想していなかった質問に対してもその場で考え答えることが出来るようになりました。また、小論文も最初は原稿の3分の1も書くことが出来ませんでしたが、回数を重ねるごとに徐々に書けるようになりました。

このような私の高校生活から反復的な学習をすることが大切だと考え、大学でも生かしていきたいと考えました。また、この経験がこれから受験や就職活動を控えている方々の参考になればと思いました。

東北芸術工科大学 デザイン工学部 映像学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 情報科学コース卒
仙台第二中出身

目標を掲げ取り組むことの積み重ねが 受験を乗り越える力になります

■先輩の作品や講義スタイルに 心を動かされました

私は高校3年間の努力で東北芸術工科大学に合格することが出来ました。合格をするまでに自分ほどの進路を目指して行くか悩むことだらけでした。それでも私は1年生のうちに東北芸術工科大学を目指す事を決めました。きっかけはまだ専門学校で進路を考えていた頃、同じ系統の大学を見てもよくなり近くの東北芸術工科大学のオープンキャンパスを訪れました。その時見た先輩の芸術展示品や社会に貢献していく授業スタイルが私自身の中で「ここで多くの事を学んでみたい」という感情が溢れました。こうして私は大学へ行くという事を決めました。

私は確実に入る為に指定校推薦で目指す事にしました。1年生のうちからテストで高い点数を取る事を心がけて勉強してきました。テスト前の授業では先生が分かりやすくポイント解説をしていただけるので、要点をノートにまとめながら普通の授業の倍以上に取り組みました。

■校内模試に向け繰り返し 過去問を解きました

次に私が取り組んだ分野は資格取得です。情報科学コースの特徴として情報系の資格取得ができる環境が揃っています。その部分を活用して3年間私は多くの資格を取得することが出来ました。それが自己アピールとして自身を紹介する事にも繋がりました。もっと自身の推薦を確実にするために私は校内実力テストの上位を目指しました。対策としてテストの半年前から図書館に通い始め、テスト傾向がセンター問題と似ている事を発見し、過去問を何度も解いて実力を上げていきました。そして同じ学校の推薦者の中でもトップの成績を取ることが出来ました。努力の結果、私は3年間で東北芸術工科大学の指定校推薦の枠をいただくことが出来ました。努力を無駄にしない為にも今度は面接練習を何度も行いました。ほぼ毎日、練習に付き合ってくくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。そして、試験の本番、緊張する場面もありましたが、無事合格することが出来ました。

私は自身が合格するまでに大事にしなければならない事は、テストは常に高得点を目指すなど目標を持って取り組む事が乗り越える力になっていくと思いました。

東北公益文科大学 公益学部 公益学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
青森 三本木中出身

入試本番は積み重ねてきた受験対策が お守りのように感じて心強く感じました

■裏方としてチームに尽力し 人として成長できました

私が大学を受験するにあたって実践したことは主に二つあります。それは長期的な取り組みと短期的な実行とがあり、それらを順を追って説明していきます。

まず一つ目は部活動を通して行ったことです。仙台育英に入学した際には、部活動をする以上は勉強との両立を目指して頑張ろうと決めていました。部活動でなかなか休みがない中、朝の通学時においても帰宅してからいくら疲れていても、しっかりと自主学習に努めました。その結果、テストで高得点を取ることができて、3年間の平均評定値は5.0に迫る成績を取めることができました。部活動でも3年連続甲子園に出場が叶い素晴らしい成績を残しました。個人的には最後の大会のメンバーに入ることはできませんでしたが、ベンチ外の人間をまとめる役割を担い、チームを勝たせるための裏方として貢献しました。濃い時間を過ごすことができ、人間として大きく成長できたと思っています。また、部活動で募金活動や献血、地域の清掃などのボランティア活動にも積極的に参加しました。ボランティア活動を通して、人のために何かをすることや協力することの大切さと素晴らしさを学ぶことができました。これらが長期的に行ったことです。

■多くの人に支えられて 今の自分があります

二つ目は、大学を決めてから行ったことです。志望動機や将来について自己分析をした上で、受験に向けての書類の作成や面接練習を行いました。国語の先生や学年の先生の指導を受けつつ完成に近づけることができました。放課後、毎日のように図書室に向かい何度も練習しました。そういう経験のもと、自信を持って受験に赴くことができました。これは神社のお守りよりも効果があるもので、見えないお守りとして自分を見守ってくれました。

以上のことを行ったことにより、無事志望する大学に合格することができました。今後は大学生にふさわしい生活態度を身に付け、今までと変わらず勉学に励んで行きたいと思います。大学では将来に向けて勉強を第一目標として頑張っていきたいです。たくさんの人の支えで今の自分があることに感謝して、人間としてもさらにいっそう成長していきたいです。

東北学院大学 経済学部 経済学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 情報科学コース卒
丸森中出身

無理だと思っても諦めずに努力すれば 結果は返ってくるものだと実感しました

■読書が好きだったことが 書類作成に役立ちました

私は指定校推薦で受験しました。それに選ばれるまでの話をしていきます。受験のためにやっていたことというより日々繰り返してきたことと言う方が正解かもしれません。ここではそういうことを書き重ねていこうと思います。

最初に、休まないことや普段の授業態度をしっかりするのは当然として、少し特殊なものを話していきます。

まず、自己推薦文を上手く書けたことが挙げられると思います。そのためには日常的に小説や文をよく読むことが必要と国語担当の先生によく言われました。元々私はよく本を読んでいた。外で動き回るより静かな場所で本を読んでいる方が自分は好きでした。それで自然と文を書くのが好きになったのだと思います。小説を本格的に読み始めたのは中学校からでしたが、そこから多くの書物に出会えました。著名な作家の作品を読む機会もあり、そのおかげで表現なども多く見ることが出来ました。その多くを自己推薦文に落とし込みつつ自分をよく表現できました。これが評価を上げられた要因ではないかと思っています。

さらに校内模試、実力テストでの成績は大切だと思います。指定校推薦の目安になる校内模試はあまり高い順位は取れませんでした。その分を実力テストで挽回することができました。指定校推薦に選ばれたのは実力テストでも上位に入っていたことも一因なのではないかと思っています。

■推薦結果を待っている期間は 次の入試の準備をしましょう

しかし、指定校推薦が決まったのは夏休み中、それもAO入試出願直前だったので、私は指定校推薦に選ばればいいなぐらいの気持ちでAO入試の準備に勤しんでいました。たとえ指定校に選ばれる自信があったとしても、もしもの時の準備は怠らないほうが良いと思います。

そこから先は面接や小論文の練習など実際の受験の対策に力を入れるようにしていました。真面目に取り組んでいれば指定校推薦も夢ではないと思います。自分では無理だと思う人も諦めず日々しっかり取り組んでみるのも良いのではないのでしょうか。懸命に過ごしていれば結果は返ってくるものなのだなど自分自身実感した体験でした。

これからもそんなふうにごくして日々を乗り越えて行きたいと思っています。

東北学院大学 経済学部 共生社会経済学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
東仙台中出身

推薦枠を獲得でき仙台育英の代表として 認めて頂いたという達成感がありました

■部活動の合間に予復習や 苦手克服に励みました

私は、兄が大学に進学していたため大学に進学することを中学校の頃から心に決めていました。その中でも指定校推薦を目指した理由は、学校の代表として認めてもらえるという達成感があったからです。指定校推薦を受けるために努力したことは自宅での30分間の予習復習です。苦手であった英語を毎日繰り返し行いました。部活動では日々の練習に熱心に取り組み、大きな大会では良い成績を取れるように一生懸命努力しました。部活動のサッカーだけでなく、ボランティア活動にも積極的に取り組みました。例えば、学校周辺の掃除を行うことや、丸森町で台風被害からの復興に向けての手伝いをしました。普段の学習生活では、毎日の授業を真剣に受けることは当たり前にして、自ら気づいたことや学びたいことを見つけて学習するようにしました。定期考査の対策としては、定期考査2週間前になると毎朝学校に早く来て授業の予習復習やテスト勉強を行いました。自宅に帰った後も、定期考査で出来るだけ高い点数を取れるようにするため熱心に勉強しました。休日には平日と違い部活動が終われば勉強する時間があります。私は特に苦手だった生物を重点的に行うようにしました。

■進路決定の決め手は学生の 生き生きとした姿でした

私が東北学院大学を受験しようと考えたのはオープンキャンパスに行った際に大学生がみんな笑顔だったからです。こんなふうに毎日笑顔でいられるんだろうと思いました。さらに、東北学院大学は東北最大の私立総合大学であり、東北での就職率が高いことから選びました。

後輩の皆さんには当たり前のことを当たり前に行ってほしいと思います。日々の授業をしっかり受ける、挨拶や礼儀を大切にして生活するなど、人として成長することが大切ということを私は高校生活で学んだからです。大学では高校生活で身につけたことに加えて、自主性を高めていき、積極的に何事にも参加していきたいと思います。毎日を大切にして学校生活を送ってください。

東北学院大学 工学部 電気電子工学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
高砂中出身

苦手な小論文も先生の添削のおかげで 本番はスムーズに解けました

■推薦基準を満たす評定の 維持に努めました

当初私は、一般入試しか思い浮かびませんでした。東北学院大学の入試情報を調べてみると推薦入試も行われていたので、推薦入試で受験することを決めました。しかし、推薦入試は誰でも受験できるわけではなく、大学の条件に合った人でないと受験できません。なので私は、高校の期末テストや中間テストなどで良い成績をとるように心がけました。その甲斐もあってクラス順位で上位を維持することができ、東北学院大学工学部電気電子工学科の条件に合った成績をおさめ、無事に校内推薦で指定校を獲得することができました。

■なるべく早く自分の進路について考え、 試験に備えて対策を練りましょう

私が受験した東北学院大学工学部電気電子工学科での推薦入試は、高校の成績などの書類審査、小論文、面接が行われました。私は主に対策としてまず最初に、小論文は問題をできるだけ解くということに力を入れました。私はあまり小論文を書いたことがなかったので小論文が苦手でした。なので私は、大学の小論文の過去問や問題集を取り寄せて一生懸命に勉強をしました。解いた問題などは、小論文の担当の先生に添削していただきました。おかげで本番の試験ではスムーズに問題を解くことができました。次に面接試験は志望動機が重要なので文章にまとめた上で、放課後に毎日繰り返し担任の先生や他の生徒とともに練習をしました。

もし、推薦入試かAO入試を考えている人は、なるべく早く自分の進路について考え、試験に備えて対策を練ることが大切だと思います。

東北学院大学 教養学部 情報科学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 情報科学コース卒
大阪 豊中第十七中出身

入学時から評定や資格取得を意識し 3年間コツコツと努力を重ねました

■様々な資格や検定を取得し

大きな自信になりました

高校に入学した時から指定校推薦での大学進学を考えていました。1年生の頃から評定を高くすることや、資格をなるべくたくさん取得することを目標に努力してきました。普段の授業態度に気をつけることはもちろん、定期テストの2週間前からテスト対策を行い、3年間評定を高く保つことができました。また、資格は、情報処理検定1級、日本語ワープロ検定1級、MOSのExcel、Word、Power Pointを取得することができました。様々な資格を取得したことで、自分に自信が付きアピールすることができました。受験を有利に進める大きな材料の1つになったと思います。

■高校生活を楽しむと共に

色々なことに挑戦しましょう

指定校推薦に選ばれるために特に重要なことが二つあります。一つ目は、3年生の5月頃に行われる第1回校内模試です。3年生全員が受けるため、順位が非常に大事になってきます。難易度が高いため1つでも順位を上げるために何度も過去問を解いたりして、必死に勉強しました。二つ目は、自己推薦書です。自己推薦書とは、高校生活で自分が頑張ってきたことや志望動機などを1,600字程度でまとめ提出するものです。特になぜその大学にはいりたいのか、大学に入って将来どういう道に進みたいのかなどを具体的に書くことが難しく、オープンキャンパスに行ったり、パンフレットを読んだり、インターネットで調べたりして情報を集め、何度も書き直しました。国語の先生や担任の先生に添削してもらい、やっと提出することができました。

3年間コツコツと努力してきたおかげで、東北学院大学教養学部情報科学科に指定校推薦で合格することができました。推薦で合格するためには、クラブ活動での実績や、資格の取得など、自分が自信を持ってアピールできるポイントを持つことが大切です。高校生活を楽しみながら目標に向かって様々なことにチャレンジして欲しいと思います。

東北工業大学 工学部 電気電子工学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 情報科学コース卒
北海道 北野中出身

いろいろなことに「広く浅く」 挑戦することも自分のためになります

■この大学でものづくりを 学ぶことに憧れていました

私は小さい頃から物を作る事が好きで、大人になったら物を作る仕事に就きたいと思っていました。そのため、小学校の時点で東北工業大学に進学したいと考えていました。なぜ指定校推薦を目指したかという、私は仙台育英に特待生採用選考で入っており、推薦入試の優位性をよく理解していたからです。そこで大学入試には指定校推薦を利用しようと決めました。そこで指定校推薦の枠をもらうために日頃から真面目に授業や課題に取り組み、極力休まないように努力しました。他にも教室掃除などの評価に含まれない部分も手を抜かずしっかりと取り組むように心がけました。OneDrive も活用し、パソコンで提出するタイプの授業の課題などは家で時間をかけて作ったりするようにもしました。私は昔から抜けている所があり、それを補うために重要な話はすぐにメモるようにしたり、教室に提示された重要なプリントは写真を撮りいつでも見れるように心がけました。

■興味があるならどんな事にも 思い切って挑戦しましょう

私が自己推薦書を書くときにやっていて良かったと思う事があります。それは高校生活3年間で自分がやりたいと思った事を積極的にやってきた事です。例えば、office を使いこなして、あんな事やそんな事をしたいという理由から MOS の勉強を始めて、せっかくなので Excel エキスパートや Word エキスパート、PowerPoint の資格を取得したり、前からやってみたかったという理由で 3D モデル作りやフォトショップなどもやり始めました。どれも始めた理由や作った物は真面目とは言い難いものの、何かをやってみたいという気持ちは何かを始める大切なきっかけであり、身につけた技術は様々な事に活用できるので絶対に無駄にならないと考えています。皆さんも興味を持った事には積極的に挑戦することをおすすめします。特に私のように特技がないと思っていた人こそ、一つの事を集中してやろうとするのではなく、あえて広く浅くやってみるのも一つの手です。

東北工業大学 ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
塩竈第三中出身

目標を立て実現に向けて努力することの 意味を受験を通して知りました

■高校受験の失敗をバネに 強い意志で臨みました

推薦入試で合格できた要因は、努力を続ける事ができたからだと考えています。

私は高校受験を失敗していて、絶対に大学に合格するという強い意志を持っていました。そして親からも四年制大学への入学を勧められており、このことも私の心の後押しになったと考えています。

そしてもう一つ私が大学合格に向けて頑張ることが出来た理由があります。それはこの大学のカリキュラムを勉強したいと思ったからです。私は今までこの分野を勉強したいという願望がないまま学校生活を送っていたので、初めて学業での目標ができ、自分のモチベーションを上げることができたため、努力を続けることができた一番の要因になったと考えています。つまり大学にどうしても入学したかったのです。

■ロータリークラブ参加を 受験で大いに生かしました

2年生の後半まで卓球部に所属していましたが。高校では大会の成績を残しておらず調査書に書けることが何一つありませんでした。なので何か書けるものを作らないといけないと考え、インターアクト部に入部しボランティア活動を行いました。結果、半年間で3回ボランティアに行き、顧問の先生と面識があったので、ロータリークラブの地区大会というものにも参加することができました。この経験は、私の高校生活の中で一番身になり、大学に提出する志望理由書や自己推薦文を書く際にとっても役立てることができました。

私は指定校推薦入試だったので選抜方法は書類審査と面接の二つでした。入試本番までの間、私は先生方と1対1の面接練習をしました。この時どの先生方も、とても親身になって私の面接の問題点を教えていただきました。なので、本番当日は安心して面接に臨むことができました。

この受験で私は目標を立てる意味を知ることが出来ました。これから受験に取り組む皆さん、まず先に自分のやりたいことや将来の夢などを見つけモチベーションを上げて、そして次に、目標を達成するために今の自分に何が必要なのかを考え、計画的に合格に向けて歩いてください。

東北文化学園大学 医療福祉学部 リハビリテーション学科作業療法学専攻に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
蛇田中出身

高校生活の努力をアピールするために 指定校推薦での合格を目指しました

■部活動を通して礼儀や 感謝の大切さを学びました

私が大学進学を目指したきっかけはとても些細なことで、大学は楽しいから行っておいた方がいいよと言われたからです。元々自分は専門学校に行くつもりでしたが、親の話を聞いているうちに大学に行きたいと思うようになりました。

指定校推薦を目指したきっかけは、1年生の頃から勉強と部活を頑張ってきて、それを一番有効に使える入試方法が指定校推薦だったからです。

私は普段の勉強時間がとても少なく、ほぼ勉強をせず、部活をしていました。ですが、テスト期間は点数を取らなければいけなくて、部活が休みだったので学校が終わってから夜までずっと勉強をしていました。部活では、ただ部活をするだけでなく、礼儀、感謝を学び挨拶の習慣化を身に付けました。

■悔いが残らないような 高校生活を過ごしましょう

高校では、勉強をするだけでなく、遊ぶことも大切だと思います。成績ばかりを気にして、遊ぶことを遠慮していたら高校3年間楽しいことが特になく終わってしまいます。私は普段から部活をしたり適度に息抜きをしていたので、テスト期間は頑張ろうという気になれました。休日や長期休暇期間は、たくさんの課題が出ました。ですが、私は学校でやったり、部活に行く時の電車でやったりと、自分の時間を失わないように工夫していました。答えは見ずに全て自力で解いていました。そうすることで点数を取ることができました。

高校は、自分の好きなことをして後悔しないように生活してください。

東北文化学園大学 医療福祉学部 保健福祉学科保健福祉専攻に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
仙台第二中出身

部活動を3年間続けたことが 受験において大きな強みになりました

■書類での自己アピールを

必死で頑張りました

今回、大学に合格するにあたり3年間を振り返った際に思ったことは、3年間チアリーディング部を続けてきて良かったということです。部活動は決して楽しいことだけでなく、辞めたいと思ったことも何度もあります。ですが、3年間一つの事を続けてきたことは受験において大きな強みになりました。チームメイトはもちろん支えてくれた周りの方、そして両親には感謝でいっぱいです。

また、指定校推薦を得るにあたって頑張ったことは自己アピールです。私は校内模試の結果が良くて推薦をとれるか不安でした。そこで自分が出来ることを考えた結果が自己アピールでした。推薦を得るために書く1,800字程度の自己推薦書は自分をどのようにアピールするのかを考え書きました。

■早くから長所や短所を

把握しておきましょう

そこで思ったことはいかに自分が自分のことを分かっていないかということです。大学を目指したきっかけ、その大学にした理由などはもちろんすぐ書くことができました。ですが、自分の長所、短所はなかなか言葉が出てこず書くのに時間がかかってしまいました。そこで助けてくれたのが友人です。私の長所や欠点を率直に指摘してくれました。でも、自分の長所や短所は、2年生、1年生のうちから自分で探すことができることだと思っています。もっと早いうちから見つけ長所を伸ばし、短所を少しでも克服して行くことができたなら良かったなと思っています。

最後に、ここまで色々書きましたがやはり一番大切なことは勉強です。校内模試の結果が良ければ選択の範囲が広がるし、悪ければ狭くなります。今はやりたくないめんどくさいと思っているかもしれませんが、絶対やって後悔しないことの一つだと思っているので頑張ってください。

東北文化学園大学 医療福祉学部 保健福祉学科保健福祉専攻に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
しらかし台中出身

将来の夢や大学で学びたいことを 明確にしておくことが面接では重要です

■福祉について専門的に 学べる大学を選びました

身内が知的障がいを持っていることから、将来は障がいを持っている人達が普通の人達と同じように不自由なく生活できるようにしたいと思いました。私は将来の夢を実現させるために福祉に関する勉強をする必要があると考え、福祉を学べる大学に進学しました。

私は、指定校推薦で東北文化学園大学に受験をしました。指定校推薦の枠を取るために普段の授業態度を見直したり、提出物を提出期限までに忘れずに出す、定期考査で良い点数を取ることで評定を上げていました。

定期考査対策として、私は1週間前に配布される対策プリントをしっかりと解くことで対策をしていました。対策プリントが配布されない教科はノートを見返し、自分の理解していない部分を確認して勉強をしました。ほかには、授業中で先生が言っていることで重要だと思うことをノートにメモして定期考査前に見返したりしました。

■多くの先生と面接練習をして 本番で上手く対応できました

私が受けた入試は面接だけでした。面接対策として、まず最初に自分が受験する大学、学部、学科の特徴について調べる必要があります。自分はなぜこの大学に行きたいのかなどの理由を、自分の将来の夢や大学で何についての勉強をしたいのかをはっきりさせることで志望理由がはっきりとしてきます。もう一つは自分の性格について知ることが大切です。面接では自分の長所、短所などを聞かれることが多いので、自分の性格を知ることが必要です。自分一人ではあまり知ることが出来ないのを身の回りの人に聞きましょう。面接の練習は多くの先生にお願いすることで、本番でもしっかりと対応することができて緊張も和らぐと思います。

東北文化学園大学 総合政策学部 総合政策学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
多賀城第二中出身

選考で優位に立つための要素として 資格検定やボランティア活動は大切です

■オープンキャンパスで 進路を決定しました

まず最初に私が東北文化学園大学を受験した理由ですが、オープンキャンパスの影響が大きいと思います。行きたい大学をある程度絞り、それぞれのオープンキャンパスに参加しましょう。行きたい大学が3年生になる前に決めればとても準備しやすくなり、6月のテストにも対策がしやすくなります。

次に先程述べた6月のテストです。3年生になって初のテストで一番重要なテストで二回あります。一つ目は定期テストで、この成績でAO入試や指定校推薦の大学側が出す条件に当てはまらない場合は受験資格を得られません。そして二つ目のテストは校内模試です。これは校内の順位が決まります。この二つは一週間でもとめて行うので勉強するのが大変だと思うかもしれませんが、一つ目のテストは大学側の条件を見て、少し余裕ができる程度で構いません。校内模試は力を入れ、高い順位を取りましょう。受験資格を得て受験する際、大半の大学が面接を行います。面接は用意していない質問が来ても答えられるくらいのアドリブ力を身に付けるといいと思います。ただ、AO入試や早い指定校推薦だと8月、9月より前に進路が決まりますが、学力が下がったり生活態度が悪いと合格取り消しになることもあるので、気を抜かないようにしましょう。

■大学が求める学生像を 調べて準備しましょう

最後に。大学への進学を目指している人は検定取得、ボランティア参加等に積極的に取り組んで下さい。これらは全て大学側にあなた方の情報として伝えられます。少しでも有利に進学をしたければ必要になります。私が進学で一番大切だと思うのは行きたい大学を早めに決めることです。そして大学側の条件を見て、どのような生徒を求めているのか、必要な検定はあるかなどを調べ進学に向けて準備しましょう。進路関係の事はギリギリではなく余裕を持って取り組みましょう。

東北文化学園大学 総合政策学部 総合政策学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
多賀城第二中出身

仙台育英での学びや体験を通して 視野が広がり大きく成長できました

■集中力を切らさないように 適度に息抜きをしていました

私が大学進学を目指した理由は、幼い頃から目標とする職業に就くために有利な資格を4年間で学んで取得したいと考えていたからです。そのために、指定校推薦を受けようと思いました。

私が指定校推薦をもらうためにしていた事が、大きく二つあります。一つ目は、高校1年生から3年生まで目標値を決めて勉強したことです。そのおかげで、自分なりの勉強方法を見つけることができ、定期テストの点数も徐々に上げることができ、6月の校内模試でも満足の行く結果を残すことができました。

二つ目は、適度に息抜きしていたことです。毎日勉強では、長く続けることができず、頭に全く入ってこなかったからです。適度に息抜きを取ることで集中力がより増して長く続けることができました。毎日勉強をすることも大切ですが、一日だけでも勉強のことを考えずに趣味に没頭したり、友人と買い物に出掛けたりしたところで落ちたりはしないと思います。高校生の時にしかできないことが多くあると私は思います。だから、たくさん思い出を作ること必要だと私は考えます。

■高校では留学生との交流で 異文化に触れ楽しかったです

定期考査対策は、試験範囲として配られたプリントにオレンジまたは赤色のペンで書き、赤シートで隠しながらノートに唱えながら書くことです。暗記科目はこの方法を使っていました。自然と頭に入るのでお勧めします。ワーク提出を求められているものは先に終わらせて2周、3周、するようにしていました。この2つの方法で定期考査は乗り越えました。

私は高校生活で、大きく成長することができた実感しています。なぜなら自分では考えのつかないことを知ることができて視野が大きく広がったからです。日本人だけでなく他国の人々ともコミュニケーションを取れたことがとても嬉しかったし、各国の伝統文化や食べ物などを教えてもらったことも楽しい思い出になりました。

東北文化学園大学 総合政策学部 総合政策学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
中野中出身

面接では柔軟に対応できるアドリブ力や コミュニケーション能力が大事です

■教授の特別講義に感銘を受け

ここで学びたいと思いました

東北文化学園大学に進学するきっかけになったのは、高校2年生の時でした。東北文化学園大学のオープンキャンパスに訪れた際、大学生の方が大学やこの学科の最大の特徴などをこと細かく説明してくださったことや、他の大学と比べてとても強い印象に残ったからです。

さらに、そのオープンキャンパスの日の午後は先生の特別授業もあり、授業の題名が「100円均一のものなぜ100円なのか」と誰もが利用する100均に焦点を置き授業していたことに衝撃を受けて、この先生の下で学びたいと思いました。

そのため、普段からの授業態度を改めると同時に、日々の勉強に励み、その結果、東北文化学園大学の評定を上回り、指定校推薦をいただくことができました。

■大学は社会に出るための

準備を整える場所です

大学合格のため多くの先生方や友人からのアドバイスや面接練習をしてもらったり、自宅で面接の時に言う言葉を覚えたり本番の2週間前から毎日最低一回は面接練習をし、本番で質問されそうなことを10個ほど用意していましたが、試験当日は用意していた中から2個しか聞かれることはありませんでした。しかし、一つの質問に対して深く掘り下げて聞かれることが多かったため、その場で考えるアドリブ力やコミュニケーション力が大切だと思いました。

最後に私にとって大学とは、社会人になった時に即戦力になり得る準備をする場所だと思っています。大学進学後はサークル活動やゼミに積極的に参加し、友人や先輩方と多くの人と良い関係を築いていきたいです。さらに、就職活動を有利にするために時間があるときには、資格取得や外国語の勉強に力を入れ海外留学やインターンに行き、そこで学んだことを生かし普段からの勉強や考え方に取り入れたいと思っています。

東北文化学園大学 総合政策学部 総合政策学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
南小泉中出身

部活動と勉強に一生懸命取り組んだ結果 指定校推薦枠を取ることができました

■地元で貢献できるような

地方公務員を目指しています

私は、小学校、中学校の頃、数学の教師になるのが夢でした。しかし、高校に入ったとき、台風や地震などの災害が多くなったため、そこで私は何か被災者の人々のために出来ることはないかと思いました。高校生になった今では、被災地に積極的に募金などをするようにしていました。そこで私は仙台市民の人々のために役に立ちたいと思い、地方公務員になろうと思いました。

私は地方公務員を目指すため、経済・経営・政治などを学びたかったのでそれを学べる大学を探していたとき、東北文化学園大学が目に入りました。この大学は総合政策学部総合政策学科といった経済・経営・政治など他にも分野はあるが、幅広い知識を得ることが出来ると知り、ここの大学へ進学しようと思いました。

■テスト前に集中して勉強し

評定を維持してきました

仙台育英は指定校推薦が多いと知り、3年間部活動と勉強を一生懸命やろうと思いました。部活動ではバスケットボール部に所属しました。私が最上級生になったときは部長をチームから任されました。最初はチームをまとめることがとても大変でしたが、チームメートが私を必死に支えてくれました。日を重ねるうちに部長という立場に慣れてやりがいを感じました。勉強面では定期テストで良い成績を残そうと思っていました。評定も良い結果を残したかったので勉強を頑張りました。定期テストが実施される時に1週間テスト期間というのが設けられていました。その期間は部活動も休みになり集中して勉強に取り組んでいました。私は家であまり勉強ができないので毎日図書館へ行っていました。テストの点数は8～9割を取れていたため、良い成績を残した方ではないかと思っています。

その結果から私は指定校推薦の枠を取ることが出来て大学に合格しました。指定校推薦を取ることが出来たのは高校3年間で部活動と勉強を一生懸命やった結果だと思っています。大学では地方公務員になるために必要な知識を蓄えたいと思っています。

東北文化学園大学 科学技術学部 建築環境学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
向洋中出身

1年次から将来について真面目に考え 目標を持って生活しましょう

■建築やインテリア関連の 仕事に就くのが夢です

私は建築やインテリアにとっても興味があり、将来は建築士やインテリアコーディネーターといった建築やインテリア関係の仕事に就きたいと考えています。そのために建築やインテリアについての知識や技術を身に付けることのできる東北文化学園大学科学技術学部建築環境学科への進学を決意しました。私はもともと高校卒業後は就職をしようと思っていましたが、大学へ行けば選択肢が増えると思い大学を目指すことにし、指定校推薦の枠が空いていたので指定校推薦の受験資格を得ることができました。推薦入試合格のために頑張ったことは、面接練習です。私は人見知りで人と話すことが苦手なため、特に面接練習に力を入れました。面接練習では、滑舌良く相手の聞きとりやすい速さで話すことや、面接で答えることを全部覚えるのではなく、大事な部分だけを覚え、その他は補いながら話すことに努力しました。その他にも、普段の癖が出ないようにすることや、姿勢など細かい部分などの練習などしました。練習をしてくれた先生からは太鼓判も押してもらい、かなり自信の付いた状態で本番に臨むことができました。

■評定を意識せずに受験を迎え とても後悔しました

仙台育英で3年間を通して、もっとやっておけば良かったなと思ったことがたくさんあります。それは、1、2年の頃から評定をなるべく5に近づける努力や資格を取ることです。特に1年の頃は進路のことは考えておらず、定期考査でも赤点を回避することだけを考えて生活していました。そして資格を取れる時間があったにも関わらず、3年間何も資格を取らず終わってしまいました。なので、1、2年の頃から将来について真面目に考え、目標を持って生活することや、1年生のうちからたくさんの資格を取得する方が、大学進学だけでなく就職にも有利に進むので、たくさん取っておくべきだと思います。また、オープンキャンパスに何回も参加することも大事だと思います。大学の先生に顔を覚えてもらえれば、それだけ大学に意識があり、この大学を目指しているんだなど、アピールすることができるので、積極的に取り組んでいくべきだと思います。

東北文化学園大学 科学技術学部 建築環境学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
高崎中出身

指定校推薦を狙うならば大学進学後に 講義についていけるかを考えましょう

■指定校推薦を知り大学進学の チャンスだと思いました

高校に入学する時には大学に進学する気はなくて、何も考えてはいませんでした。そんな私が大学進学を目指すきっかけになったできごとがあります。それはこの学校には指定校推薦があると知った事です。私はあまり成績が良いほうではなかったので、到底大学には行けないと思っていました。しかし、指定校推薦はチャンスが広がることを知り大学に挑戦してみようと決意しました。私が大学を選ぶにあたって決めたことはいくつかあります。1つ目は自分が受かった後、その大学の勉強についていけるかどうかです。2つ目は自分が本当にその大学に行きたいかです。当然と言えば当然ですが、これが最も大事なことです。幼い頃から建物が好きだったこともあり、建築士になるためにこの道に進みました。

これから受験する後輩の皆さん、頑張ってください。

東北文化学園大学 科学技術学部 臨床工学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
松島中出身

漠然とではなく明確な将来像を描き 具体的な目標を設定しましょう

■ 3年次に自分を見つめ直し 臨床工学と出会いました

私は、東北文化学園大学に指定校推薦で合格することができました。しかし、合格に至るまでには様々な壁がありました。

私は元々、医療系の職業に対して漠然とした憧れを抱き、薬剤師を目指すべく薬学科へ進学しようと考えていました。しかし、その頃は単に「薬学に興味がある」という思いしか持っておらず、具体的に将来どうしていきたいかまでは考えていませんでした。このような心の軽い状態のまま時間だけが経過し、高校3年の春になってしまいました。はっきりとした未来像が見えてこないことに日に日に不安が募り、このままズルズル行ってしまっただけではいけないと感じ、改めて自分を見つめ直すことにしました。医療に関わる仕事で、且つやり甲斐を持って臨めるようなものはないか、そこで出会ったのが「臨床工学」でした。機械を通して「いのちのエンジニア」として患者さんの命と向き合い、チーム医療に貢献できるということに強く惹かれました。また、資格としては比較的新しいものであり、東北地方では不足している職であったため、自分一人が加わられたとしても大きな力になれるのではないかと感じました。このような明確な目標・将来が見えたため、臨床工学技士を目指そうと決意しました。

■ 夢に近づける大学かどうか 足を運んで見極めましょう

しかし、決断が大きく遅れてしまったため、どのような方式で入試へ臨んでいくのかをすぐに迫られることとなりました。そのような時、推薦を目指せるというお話をいただき、先生方や家族と相談を重ね、指定校推薦という形で入試を受験することにしました。

入試までの短い期間ではありましたが、小論文や面接の練習を何度も行い、改めて臨床工学を調べて理解を深めるなど、貴重な時間を有効に活用することができました。そして、万全の状態試験へ臨み、合格することができました。

後輩の皆さんには、将来を見据えて具体的な目標を設定することの大切さを伝えたいです。漠然と「こうなりたい」とイメージを持つのではなく、「自分はこういう目的を持って、こんな職業人を目指したい」というように明確なイメージを持って、将来について考えてもらいたいです。

また、目標を具体化するために、オープンキャンパスには繰り返し足を運ぶべきだと思います。一度だけでは把握しきれなかった校風・勉強する内容などを先輩方から教えていただくなどして二度・三度と自分の中で深めていくことで、自らの夢に合っているか等を実感していくことができると思います。

東北医科薬科大学 薬学部 薬学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
上杉山中出身

仙台育英の充実した学習環境を活用し クラスで上位の成績を維持しました

■今後の人生で重要なことを 生徒会執行部で学びました

高校入学当初から指定校推薦を視野に入れ日々生活をしていました。指定校推薦の受験資格を得るためには様々な条件を満たし校内選考を通る必要があります。そのため、私はできるだけ評定が良くなるように努めてきました。

まず、新しいことに挑戦してみようと思い、生徒会執行部に入部しました。そこでの活動で身についた協働性や奉仕の精神は内申書を良くするだけでなく、これからの人生でとても重要なものになると思います。その他、無遅刻無欠席を最低限の課題にするなど生活面にも配慮してきました。

■日々の努力の積み重ねで 進路選択の幅が広がります

特に私が力を入れてきたのは定期考査です。苦手な教科は先生に重要事項や解法などを理解するまで教えて頂きました。そんな毎晩遅くまで追い込まれる辛いテスト期間などは、友人と共に切磋琢磨しあい乗り越えていくことが秘訣だと私は思います。また、朝学習を習慣とし、予習復習を欠かさずしていたおかげもあって、クラス内で常にトップの成績を保つことができたと考えています。仙台育英は学習環境が十分に整っているのも、色々と活用してみるのも一つの手かもしれません。

優柔不断な私が最終的に進路を決めたのは指定校推薦出願締め切り直前でした。別の分野に興味を持ち進路が変わることは誰にでもあると思います。もちろん校内模試は大事ですが、それだけ頑張ろうとしても上手くいきません。日々努力を積み重ね自分の進路選択の可能性を広げておくことが何より大切です。

皆さんもそれぞれの夢に向かって頑張ってください。充実した高校生活を送れるよう応援しています。

宮城学院女子大学 学芸学部 英文学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
大河原中出身

1, 2年次から進路を明確にしておけば 3年次に受験勉強に集中できます

■ OGの話が印象に残り 進路を決定しました

私は元々英語に興味があるので、大学で専門的に学びたいと思っていました。そこでたくさんの大学のパンフレットや資料を参考にし、オープンキャンパスに参加しました。オープンキャンパスに参加して在学生の方々に大学についてのお話を聞いて一番印象に残ったのが宮城学院女子大学でした。英文科は細かいクラス分けがされていて、先生方との距離が近く親身になって勉強を教えていただけると聞き、この大学にしようと思うようになりました。

宮城学院女子大学を受験するにあたって私が取り組んだ事は、まず基礎的な勉強はもちろん英語には特に力を入れたことです。また、面接練習にも積極的に取り組み、時間があれば色々な先生に手伝ってもらいたくさんのパターンで練習しました。英文科の場合は、英語での面接があったので英語の先生には特に助けてもらいました。私はその面接練習のおかげで自身がつき堂々と本番に臨むことができました。

■ 1, 2年の間に進路を考えず 直前にとっても苦労しました

残りの学校生活では、友達との時間を大切に後悔しないように過ごしたいと思います。3年間でとてもあっという間に感じられ、1, 2年生の頃はあまり進路について考えていませんでした。そのため3年生になってとても苦労しました。1, 2年生の方々は今から自分の進みたい道をしっかり明確にしておく、3年生になって受験勉強により力が入ると思います。頑張ってください。

宮城学院女子大学 学芸学部 英文学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
登米 中田中出身

自分を見失うことがなければ 進みたい道が自ずと開けます

■将来は英語のスキルを 生かして働きたいです

私は、1年生の夏頃からこの大学を志望していました。夏に開催されたオープンキャンパスで教授の模擬授業を受けたり、先輩方のお話を聞いたりして、将来は英語を生かした仕事に就きたいと考えました。この夢を実現させるための学習ができると思ったので、指定校推薦で宮城学院女子大学の英文学科を受験しようと決めました。

推薦入試の内容は、英文の要約・自分の意見と面接でした。筆記試験の対策は英語の先生に、面接練習は国語の先生と英語の先生と外国語の先生にお願いしました。英語での質疑応答もあるので外国人の先生にも面接練習をお願いすることをお勧めします。また、「自分は高校時代にこんなことを頑張った」といった自己PRができることを用意しておくとう利です。私の場合は、積極的に資格取得したことやOST（教材に沿って、ネイティブとテレビ通話する授業）で意見をお互いに共有したことをアピールしました。

私は、おもにボランティア活動を行うインターアクト部に所属していました。ボランティアの参加の経験が一度でもあれば面接で話しやすくなると思います。

■何かに挑戦することに 遅すぎることはありません

推薦入試は受験日が早いので、早めに準備すると良いでしょう。3年生になると資格が取りづらくなるので、取れる資格は1, 2年次に取っておくと焦らずに自己推薦書の作成や面接練習ができると思います。そして、面接練習はさまざまな先生と練習をこなせばこなすほど、異なった視点からの意見をいただけたり違うパターンの質疑応答ができ自信がつかます。

志望大学がなかなか決まらなかったり、勉強が思うように上手くいかなかったりと悩むことはあると思います。でも、最後まで自分を見失わなければ進みたい道が開けると思います。何かするのに遅すぎることはありません。どれだけ自分が頑張れるかです。健闘を祈ります。

宮城学院女子大学 学芸学部 心理行動科学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
塩竈第三中出身

家族や友人、先生方の支えがあってこそ 最後まで諦めずに頑張れました

■準備をしてきて良かったと 合格できて心底思いました

私が大学進学を目指したきっかけは、大学に進学すれば様々な資格を取得でき、就職に有利になると考えたのと、親に大学進学を勧められたことです。大学進学を実現するため、指定校推薦を取れるように日々の部活動や、定期考査、校内模試の点数を上げることに努力しました。部活動では副部長を任せられ、評定と順位は自分が満足できる結果になりました。そして指定校推薦を無事いただくことができ、大学受験のための面接練習、小論文の練習を始めました。面接練習は志望動機や志望大学の特色、自分の長所、短所、高校生活で頑張ってきたこと、などを上手くまとめて伝えることができず悩む事が多かったのですが、何度も書き直し色々な先生方に練習に付き合ってもらいアドバイスをしてもらいうちに、自分の中で自信が付き自分の言いたい事、アピールしたいことがはっきりと言えるようになっていきました。また、小論文の練習では、時間内に課題の内容について要約し、意見を書くということは想像以上に難しく、文字数を埋めること、内容はグラフを読み取ることで精一杯でした。このままではだめだと思い私は小論文の授業をしている先生に指導をお願いし、完璧に書けるまではいなくても、最初より書けるようになりました。試験当日、小論文は最後の行まで埋める事ができ、面接練習は自己アピールを堂々とする事ができました。合格発表を私は学校の執務室で知り、合格という言葉を見た瞬間に今までもやもやと心の中にあった不安が一気に解けたのを感じました。指定校推薦を取れるように頑張り、試験までの準備をしっかりとやって良かったと心から思いました。

■高校での3年間をいかに 充実させるかが大切です

しかし、私が大学に合格できたのはこれだけではありません。私がここまで頑張れたのは支えてくれた家族や友人の存在があったからだと思います。自分の問題なのに試験への焦りや不安で雑な態度を取ってしまった時も、嫌な顔せず理解してくれ、家に帰れば家族が、学校では友人が面接練習を付き合ってくれました。3年間を共に過ごし隣でずっと支え続けてくれた友人や、3年生から仲良くなった友人、一番に私を理解してくれた家族、合格するためにアドバイスをしていただき私を成長させていただいた先生方がいたからこそ私は途中であきらめずに頑張ってきたと思います。私にとっての高校生活は部活動のメンバー、クラスメートに恵まれ、とても充実した3年間でした。大学に合格するために学業に力を入れることはもちろんですが、一番は高校生活3年間をどのように充実させるかだと思います。試験の中で行われた面接で大学の教授の方から、「大学で勉強することは大学に入学してからやるんだから、今はとにかく残りの高校生活を充実させてください」と言われ後悔のないように過ごしていきたいと改めて感じました。

宮城学院女子大学 学芸学部 心理行動科学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
五橋中出身

勉強と部活動の両立ができたことを 入試でしっかりアピールできました

■高校生活を真面目に送れば 良い結果がついてきます

大学進学を目指した理由は、4年間でゆっくり充実した学校生活を送れると考えたからです。最初は専門学校に進学しようと考えていましたが、短期間でたくさんの授業を受け、すぐに社会に出なければならないことは自分には合っていないと思い大学を選びました。大学の良いところは、授業以外の時間に宿題をしたりアルバイトをしたり、勉強以外に時間を使うことができます。また、私の学校は校外で学ぶことも多いので、人との関わり方や社会に出るための心構えを知ることでもできると考えました。

私は、指定校推薦を選びました。推薦されるために頑張ったことは特にありませんでしたが、普段から、勉強、部活動、生活態度などには真面目に取り組んできました。テストではクラス順位は3位以内に入れるようにしたり、部活動も両立をし、東北大会は準優勝することができました。そのような普段の生活で学んだこと、成長したことをアピールしていきました。

仙台育英には平常点の制度があり、点数をカバーしてくれるので、赤点は取らないようにし、部活動も一生懸命取り組んでなにか成績を残し、真面目に学校生活を送っていれば良い結果をもらえると思います。

宮城学院女子大学 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
五城中出身

ボランティア活動に参加することで 視野が広がり新しい自分に出会えます

■推薦入試を見据え1年次から 好成績を維持しました

宮城学院女子大学の指定校推薦入試枠を取得するために、第一に勉学に力を入れました。また、ボランティア活動にも積極的に参加しました。

指定校推薦入試を受ける条件として、まず志望大学が提示している成績が必要なので、私は1年生の頃から後で苦労しないように良い成績を保つよう決めていました。授業中の板書を怠らず、提出物も期限を守る。また、定期考査でも気を抜かず勉学に取り組みました。そのお陰で、志望大学を決めた際に成績で困ることはありませんでした。

そしてもう一つ、3年生での校内模試で結果を残すことが重要です。その模試では指定校推薦枠がもらえるかが決まります。その頃、定期考査や英検の試験日が近く、私はとても苦しみました。テスト期間が終わってもまたテスト、というような1ヶ月間を過ごし地獄のような毎日でした。しかし、自分の進路のためと思うと頑張ることができました。その結果、今までにないくらいの成績を残し、無事に指定校推薦枠を取得しました。

■今からでも自分と向き合い 進路を考えていきましょう

また、ボランティア活動も重要です。推薦で大学に入る場合、ほとんどの学校で面接が行われます。その際に、自分をアピールするためにもボランティア活動に参加すると役に立ちます。ボランティア活動に参加しているとかなり好印象をもたれると思います。しかも、参加することで人助けをすることができ、視野も広がり、新しい自分に出会うことができます。進路とは関係なく、積極的にボランティアに参加すると良いと思います。

このように、1年生からの積み重ねが将来の夢に繋がります。今からでも遅くないと思います。自分と向き合い、長所などをフル活用して、進路を考えると良いと思います。先生方もとても協力してくれるので安心です。自分の夢に向かって諦めず、頑張ってください。

宮城学院女子大学 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
幸町中出身

ふとしたきっかけで特技に気がつき 語学力を伸ばそうと進学を決めました

■母から中国語を学び

日本語と同様に話せます

進学を志望した理由は高校生活を通して自分のやりたいことを見つけたいと思ったからです。

幼い頃から母に中国語を教えてもらっていたため、中国語も日本語も話すことができます。そのため、家族と中国に行くことが多々ありました。それと共に、幼い頃から犬を飼っていたので動物が大好きでした。私の幼いときの将来の夢は、獣医になり動物の命を助けることでした。しかし、テレビ番組で獣医さんの番組を観たとき、私は命を助けることは、相当な覚悟が必要で簡単なことではないと感じました。

■中国人に道案内をした経験が

学部選択に繋がりました

中学校3年生の修学旅行で、私は東京に行きました。東京の駅の中で電車に乗ろうと思ったとき、外国人の方に駅を聞かれました。携帯を見ると、中国語が書かれていたため、私が中国語で話したところ、とても安心した顔をして私に話しかけてくれました。駅の名前や場所、どこで降りるかを教えてあげました。最後に、その方は非常に感謝してくれました。家に帰ってから、その出来事を母に話したら、せっかく中国語を話せる特技があるのだから、その特技を生かせる仕事をしたらと言われました。その日から、中国語だけでなく英語も勉強するようになりました。英語検定では3級を取得し、次は準2級を取得したいと思っています。大学に進学し、英語力と中国語力を身につけ将来の夢に向けて頑張りたいです。

大学に進学するため、高校3年間部活動と勉強を頑張りました。大学に進学しても、今まで通り、勉学をおこたることなく、自分の将来のために、英語力と中国語力を身につけ、優秀な人材として求められるような人になりたいと思っています。

宮城学院女子大学 教育学部 教育学科幼児教育専攻に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
中野中出身

目標を定め積極的に経験を積むことが 高校生活ではとても大切です

■部活動での経験を強みに 受験したいと考えました

私がこの大学を目指したきっかけは、1年次から専門的な科目が受けられるとともに、早い段階から現場に赴くことができ実践的な学習をすることが可能だからです。そして、なぜ私が推薦入試を選んだかという点、筆記試験で評価される学力とは違い自分が今まで取り組んできたものや、その大学への熱意を直接アピールできる点にとても魅力を感じたからです。私の強みは部活動での経験でした。私は獅子太鼓部に所属していました。そこで、全国大会を通じて青春ならではの時しか経験できないことを肌で感じました。また、ミクロネシアでの海外公演を通じて様々な文化の違いに気づいたり、貴重な体験を沢山させていただきました。なので、高校生活のうちに部活やボランティアなどに積極的に取り組むと良いと思います。

■色々な質問に対応できるよう 徹底的に面接練習しました

勉強面では、自分の将来の職業に必要なあるいは持っておくと有利になるような資格を取得すると良いと思います。何か資格があると何かしら自分の強みになると思います。学校では、空き時間に友達と面接練習をしたり、受験が近づくと担任の先生とだけでなく教科担当の先生にも協力して頂き、とにかく面接の雰囲気慣れ、どんな質問が来ても答えられるように対策しました。

このように、推薦入試では自分がどれだけ高校時代頑張ってきたかという点がカギになってきます。そのため、高校3年間のうちに何か目標を定め、自ら積極的に様々な経験を積むということが一番大切なことではないかと思えます。夢の実現に向けて頑張ってください。応援しています。

宮城学院女子大学 生活科学部 食品栄養学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
南小泉中出身

家族や先生方の支えがあったからこそ 準備したことを本番で発揮できました

■サイエンス・コ・ラボで

主体的に知識を習得しました

私が宮城学院女子大学生生活科学部食品栄養学科を志望した理由は、将来管理栄養士になろうと考えているため資格取得に必要な講義が受講出来るからです。また、私の好きな科目である理科を活用することが出来るということも志望理由の一つとなっています。

私は部活動に所属しておらず、他の学年の人とのつながりがあまり多くはありませんでした。ですが、サイエンス・コ・ラボに出来るだけ参加するように心掛けることで、人と協力することの大切さを学びました。また、普段の授業では実験を行うことが多くは無かったので、サイエンス・コ・ラボに参加することで主体的に様々なテーマについての知識を学ぶことが出来ました。

■記述問題対策では先生方に

何度も添削して頂きました

指定校推薦での受験対策で努力したことは面接と記述問題の練習です。面接の対策では様々な先生方と練習をし、本番でも練習と同じように自分の意見を述べられるように指導を受けました。担任の先生に実際の面接で聞かれやすい質問を用意してもらい、それに対して答える内容を何度も添削していただきました。記述の対策では、担当の先生に過去数年分の問題を昼休みや放課後と言った時間に丁寧な添削をしていただきました。そのおかげで、本番での緊迫した環境の中でも思う通りの面接での受け答えや記述をすることが出来ました。

面接や記述というような対策は自分一人ではすることが難しく、様々な先生方や家族など、周囲の人の支えがあるおかげで行うことが出来るのだと思います。そのおかげで、不安だった受験で普段の面接や記述の対策で学んだことを生かすことが出来ました。ですので、関わってくださった方々に感謝しています。

仙台白百合女子大学 人間学部 人間発達学科子ども発達専攻に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
長町中出身

高校生活で積み重ねてきた努力の 一つひとつが合格に繋がります

■部活動への熱心な取り組みが 面接で強みになりました

私は、将来の夢である幼稚園教諭になるためにもっと深い勉強をしたいと感じたので大学進学を決めました。高校1年生の頃から大学進学を決めていたので、1年生の頃から勉強と部活を頑張りました。勉強では、定期テストを一生懸命勉強し、自分の最高点を超えられるように努力しました。先生が、必ず出ると言っていたところを中心に、ワークや、プリントを使い勉強しました。特に3年生はテストが3回しかないため、一つひとつのテストをいつもよりも集中して取り組みました。部活動では、大学受験の面接の時にも聞かれましたが、自分が今までやってきたことを自信を持って話すことができたので積極的に参加していて良かったと感じました。

■お世話になった先生のような 幼稚園教諭を目指しています

受験が近くなってきた頃は、面接練習をたくさん行いました。面接練習は、いろいろな先生方にやってもらいました。私は、練習の時からもすごく緊張しましたが、入室や退室の仕方から、アドバイスもたくさん教えていただいたので、本番は少しリラックスして受けることができました。一人の先生と練習するよりも、いろいろな先生とやることで、質問の内容も変わってきたり、色々なアドバイスを聞くことができるので、自分の力にもなるし、自分に自信を持って受験することができました。

私は、小さい頃にお世話になった先生のように優しくて明るい幼稚園教諭になりたいと考えています。高校生活で頑張ってきた一つひとつが大学合格につながっていたのだと思っています。テストや部活が大変だったり、投げ出したかった時もありましたが、あきらめないでやり続けて良かったなと思っています。面接練習はとても緊張して、上手く話せなかったこともあったと思いますが、たくさんの先生方や友達にもアドバイスを多くもらい、本番では落ち着いて臨むことができました。

仙台白百合女子大学 人間学部 健康栄養学科管理栄養専攻に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
沖野中出身

長年受験生を支えて来られた先生方の アドバイスが大いに力になりました

■友達と協力して勉強したので ストレスを感じませんでした

私が大学に合格するまでに意識したことは3つあります。

1つ目は、しっかりと大学のことについて調べることです。私は周りの友達と比べ、ギリギリに仙台白百合女子大学を受験することを決めました。そのため、大学についてあまり情報がない状態で自己推薦文を書き、とても苦労しました。なので、オープンキャンパスに参加し、大学の先生や先輩に自分から声をかけ、分からないことについてたくさん質問しました。そうすることで、大学の雰囲気や先生や先輩方の優しさを実感できる上に大学について多くの情報を得ることができました。

2つ目は、友達と放課後に勉強することです。一人でやると分からないところがあり、進まないことが多かったのですが、友達と勉強することで教え合うことができ楽しく勉強できました。集中力が切れたときには皆で息抜きがてらゲームをしたり歌を歌ったり受験期間もストレスなく過ごすことができました。

■側にいて勇気づけてくれる 友達との出会いは宝物です

3つ目は先生に頼ることです。頼りすぎも良くないですが、ほど良く頼ることも大切だと感じました。先生方は何度も受験生を支えてきているため、去年の先輩の話聞き受験の際に気をつけなければならないことや、自信をなくしてしまった時などとても力になりました。

私が受験に対して意識したことは以上の三つですが、高校1年生から大学のことを頭の片隅に入れ日々学習してきました。「まだ大丈夫」などといった感情は持たないようにし1年次からコツコツと勉強することが大切だと思います。高校3年間テストの成績が良いと皆にほめられ良い気分にもなれます。また、勉強だけでなく友達との時間も大切にすべきです。いつも近くで元気をつけてくれたり、辛くてしんどくなった時も笑顔にしてくれます。私はこんなに素敵な友達と出会えるなんて思ってなかったので本当に卒業したくないです。なので勉強も大切ですが、友達との時間はもっと大切にしたいと感じました。

仙台白百合女子大学 人間学部 健康栄養学科管理栄養専攻に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
宮城野中出身

複数のオープンキャンパスに参加し 自分に最も合う大学が見つかりました

■帰宅後にいくら疲れていても
予習と復習は必ず行っていました

私は高校では「文武両道」を目標に3年間頑張ってきました。

私が指定校推薦で受験するために取り組んできたことは大きく三つあります。

一つ目は真面目に勉強に取り組んだことです。普段、部活が終わって家に帰宅してから最低1時間30分は机に向かってその日の授業の復習や次の日の授業の予習を中心にしました。定期考査前は遅くても2週間前には授業の復習を始めたり前回の反省を踏まえて苦手な部分を集中的に勉強したりして、点数や評定が下がらないように努力してきました。また、検定を受けておくことも大切だと話を聞いたことがあったので、漢字検定や英語検定、情報処理検定を受験し3級を取得しました。

■吹奏楽部では高い目標を掲げ
仲間と精一杯頑張りました

二つ目は吹奏楽部として一つの目標に向かい上の大会に進めるよう頑張ってきたことです。全員で団結して良い演奏をするにはどうしたら良いのか何回も話し合いをし今年度一年間頑張ってきました。今年度の吹奏楽コンクールでは県大会まで進むことができましたが銅賞という残念な結果で終わってしまいました。ですが、本番は今まで一番感情を込め、伝えたいことを全力で伝えられた演奏となり、自分達が楽しく演奏することが出来たと皆言っていたので良かったです。

三つ目は大学のオープンキャンパスにたくさん参加したことです。私が進学する健康栄養学科は管理栄養士の国家試験の受験資格を取得することのできる学科です。同じような学科は他の四年制大学にもありますが、私はその中で気になった三つの大学のオープンキャンパスに参加しました。どの大学も学内の様子や雰囲気、学科の特色など様々だなと感じました。その中で雰囲気や学びたい分野、学科の特色などが自分に合っている大学を見つけることが出来たので、オープンキャンパスにたくさん参加して良かったと思いました。

私は、この三つのことを取り組んできたから目標とする大学を見つけ、指定校推薦を受けることができ、合格できたのだと思います。

尚絅学院大学 人文社会学群 人文社会学類に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
宮城野中出身

今のうちからあらゆる本を読み 読解力や語彙力を高めましょう

■体調管理を徹底し休まずに 授業に集中していました

私が大学進学を目指した理由は、自分の将来の夢を叶えるためです。

推薦入試を目指したきっかけは、今の自分の実力がどれくらいあるか試したかったからです。その際、推薦入試合格のために心がけたこと努力したことは、必須科目の勉強、面接練習、加えて体調管理を万全とし、評定を4.5以上を保つことです。必須科目の勉強は国語と英語を重点的にしました。面接練習は先生が時間を作って練習に付き合ってくださいました。練習回数は多いほど何を質問されるか分かります。その場合、先生は一人だけではなく違う先生ともやると応答力が身につきます。そして一番私が気をつけたことは、体調管理と評定を上げることです。出席をちゃんとしていれば授業を理解することができます。休まないように風邪予防などもしていました。評定は自分が進学したい大学の評定を上回るくらいの成績を取ることはしていました。苦手な教科は復習をやり、得意な教科は予習も加えてやっていました。

私が休日にしていった勉強法は、苦手な教科と得意な教科を分け、日時を決めて勉強していました。苦手だと思ふところは繰り返し勉強しました。その結果もあり、成績は次第に伸びていきました。

■支えて下さった先生方の おかげで合格できました

私が他にしていたことは本を読むことです。家にいても本を読んでいました。学校でも本を持っていき休憩時間に読んでいました。いろんなジャンルの本を読むことは、自分の読解力などを伸ばせることにも繋がります。今のうちから本をたくさん読んでいた方が将来大切になってくる言葉を多く知ることができます。1ヶ月で1冊の本を読み切ると目標を決めて読むのもいいと思います。

最後に、私が大学受験に合格できたのは、面接練習をしてくださった先生や分からなかった問題を丁寧に教えてくださった先生達のおかげです。活動や行事にも積極的に取り組み、志望する大学合格に向けて頑張ってください。

東北生活文化大学 美術学部 美術表現学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
高崎中出身

受験勉強を夢や目標を実現する糧と捉え 諦めることなく本気で取り組みましょう

■大学卒業後は漫画家として 活躍したいと思っています

私は、将来漫画家になり活躍したいと考えています。その為に必要な漫画の技法や美術の基礎について長く幅広く深く学びたいと考えていた際に東北生活文化大学のオープンキャンパスに参加し、入学したいと思うようになり志望しました。

私が指定校推薦をめざした理由は合格率の高さに魅力を感じたからです。私は一度他の入試で不合格になってしまい、次に取り組もうと考えていたのが指定校推薦でした。また、入試課題が面接と持参作品だったので入試1ヵ月ほど前から持参作品を完成させる為に絵の専門学校で先生をされている方のご指導の下、絵を完成させました。面接に関しては試験2週間前からたくさんの先生方と練習を行い、面接の際に言うことやアドリブ力を身につけることができました。これらの努力が実り第一志望の大学に合格することができました。

■新しい発見や出会いに恵まれ 充実した3年間を送りました

指定校推薦を受けるために努力したことは6月に行われる期末テストと校内模試と大学が求める評定値に満たすことを中心に頑張りました。まずは6月に行われた期末テストでは良い成績を残せるように励みました。次に校内模試で自分の目標とする順位に入れるように努力しました。その結果、ギリギリでしたが目標順位に入ることができました。最後に大学が求める評定値についてです。こちらに関しては毎日学校に通い授業を受け、公欠以外で欠席せず、提出物を忘れず提出し続けた結果大学が求める評定値に達し、無事に指定校推薦を受験する権利を得ることができました。本当に大学に行きたいと考えている人は指定校推薦を利用すべきだと思います。

私は仙台育英での3年間をクラスや部活動などを通して友人の大切さと自分から行動することの重要性を知り、高校3年間は友人に恵まれた事もありますが、信頼し合えることができる友人関係を築きあげることができ、充実した高校生活を送ることができました。

私にとって高校生活は新しい発見や出会いなどを経験し、貴重かつ充実した3年間でした。また、夢や目標がある人は諦めずそれを実現させる糧だと思い、受験勉強に対し本気で取り組んでみてください。

石巻専修大学 理工学部 機械工学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 技能開発コース卒
広瀬中出身

合格しても安心せずに気を引き締めて 授業をしっかり受けましょう

■入試は面接のみでしたが
気を抜かず勉強していました

私は指定校推薦で石巻専修大学を受験することができました。面接のみの試験でしたがそれでも気を抜くことはできませんでした。まず成績を落とすことはしないよう努力しました。どの受験でもこれについては一番注意してほしいことです。せっかく受けられる試験も受けることができなくなってしまうかもしれません。これを読んでくださっている人達は分かっていると思いますが、受験が終わった人、合格して安心している人達の中で、授業に遅刻してしまう、授業に集中できない、何かトラブルを起こしてしまうといったことがあると、合格を取り消されてしまう恐れがあります。合格して安心せずに気を引き締めて卒業まで残りの授業をしっかりとして受けて頑張らなくてはなりません。

■周りの人と支え合う大切さを
入試を通して学びました

面接練習で一番に頑張るははっきりと答えてほしいことは志望理由です。志望理由は自分がなぜその大学でなければならないのか、そこで何を学びたいのか、将来そこで学んだことを生かしてどのような仕事に就きたいのかを答えなければなりません。将来なりたいものが決まっている人達は素直にはっきりとその理由を言えれば良いと思います。まだ特に理由がない人達は何か趣味や興味を持ったことを見つけて、それを詳しく言えるようにしておきましょう。この面接のみの試験に落ちた人が過去にいると聞くので、面接練習に付き合ってもらった先生方や友人、家族からのアドバイスをよく聞き、本番でそれを生かして臨みましょう。そして、部活動やボランティア活動に参加していた人達もその活動をして何が大切なのかを答えられるようにしておきましょう。私は、柔道部に入って仲間との信頼や助け合いの大切さなど学ぶことができました。こういったことが将来自分の仕事に生かすことができると思います。

こうして私はいろいろな人達に支えられて大学受験を合格できたので、支えてくれた人達をがっかりさせないように大学生活を頑張りたいと思います。

石巻専修大学 経営学部 経営学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 技能開発コース卒
玉川中出身

大学で何をやってみたいのかを考えて 自分に合った大学を選びましょう

■学科の枠を越え幅広い知識を 習得できる点に惹かれました

石巻専修大学を選んだ理由は、地域から求められている活動を通し、実践的なスキルを身に付けたいと思ったことと、「学科間ジョイント・プログラム」という所属学科の学びだけではなく、他学科の専門的な知識を習得することにより、新たな問題解決能力を身に付けていきたいと思ったからです。

指定校推薦を受けるために、漢検3級を受けたり、家で2時間以上勉強し、早寝早起きや規則正しい生活をし、毎日授業に参加して日々努力をしてきました。

そのおかげで、学習において納得のいく成績を納めることができ、学校推薦をもらえたということを自信に結び、面接で自分でアピールできると思い、指定校推薦を選びました。

休日や長期休暇期間では、勉強だけではなく、大学のオープンキャンパスに行ったり、遊んだりしていました。

受験大学を絞り込むには、自分が今やりたいことを考え、自分と合うような大学を見つけ、「私はこの大学に入りたい!!」と決心し、親を説得させることが大事です。

石巻専修大学では、指定校推薦は面接だけなので、夏休みの終わり頃から先生方と面接の練習を4、5回はした方がベストです。

■仙台育英で学んだことを 大学で生かしていきたい

私にとって高校生活は、部活動に入ったり、アルバイトをすることで将来に繋がられるような経験と知識を身につけられた3年間だったと思っています。

高校で学んだことを生かして大学で部活動と勉強を頑張っていきたいと思っています。

指定校推薦を受けようと思っている人は当日まで4、5回以上面接練習し、先生からOKを貰い、試験当日には緊張せずにラフな感じで面接を受けるのをお勧めします。また、推薦書などの書類もあるので頑張ってください。

仙台大学 体育学部 体育学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
東仙台中出身

指定校推薦枠を獲得できた後も安心せず 受験本番に向けきちんと対策しましょう

■体育教諭になるために

この学科を志望しました

私が大学進学を目指した理由は体育の教師になりたかったからです。体育の教師になるために仙台大学体育学部体育学科に進学することを目標に高校で勉学に励みました。また、小学生から今までサッカーを続けており、大学入学した際にはサッカー部に入りたいと考えていたため部活動にも力を入れて取り組みました。勉学の面では、成績を上げるために毎日自宅で30分間予習復習をし、部活動をしている分、他の生徒よりも勉強できる時間が少なくなってしまうと思い、授業と授業の間の休み時間を利用して勉強に取り組みました。部活動では、数多くの部員の中でレギュラーを勝ち取るために、学校が始まる前の早朝と全体練習が終わった後に自習トレーニングに励みました。

■小論文と面接の対策に

しっかり取り組みました

3年次には努力が実り指定校推薦を取ることができました。私は、指定校推薦を取れたからといって安心せずに受験の小論文と面接の対策をしました。小論文の対策は、1年時からやっていた小論文のワークを見直し繰り返し解きました。さらに、仙台大学に合格した先輩たちが残してくれた小論文の過去問題を繰り返し解きました。面接の対策は、面接官に問われそうな内容と答えをノートに書き出し、友達と面接の始まりから終わりまでをスムーズに行えるまで練習しました。約1ヶ月間面接と小論文の対策をしたので自信ができました。受験当日、小論文、面接の順で行いました。小論文は緊張せずに練習したことを思い出しながらスムーズに終わることができました。面接では、面接官の質問に対しハッキリと受け答えをし上手く終えることができ、合格することができました。

私自身、受験に合格できたいちばんの要因は、指定校推薦が決まった後、安心せず受験の対策をしたことだと思います。後輩たちには指定校推薦を取れたからといって安心せずに受験対策に取り組んでほしいと思います。

仙台大学 体育学部 現代武道学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
柳生中出身

部活動を通して身に付いた力は 必ず将来に生かすことができます

■消防士になるための準備が できる大学を選びました

私が大学をめざした理由は、将来消防士になることが夢で、そのために必要な事を学べる大学に行きたいと思い仙台大学を希望し、指定校推薦で大学を受験しました。

私が指定校推薦入試までに努力したことや心がけたことは二つあります。一つ目は日々の学校生活で、指定校推薦はテストの点を取って評定を維持するのはもちろん、学校も休まずに出席をしなくてはいけないため、欠席が多すぎたり遅刻が多すぎても指定校推薦をもらえる基準値が足りず、毎日出席はしているものの遅刻が多くだめだったということがあるからです。二つ目は授業態度です。当たり前のことかもしれませんが、授業態度が悪ければ平常点が低くなり、しっかり受けてテストでも良い点を取れば4か5は取れるはずなのに、授業中寝たり関係のないことをしていたりして、テストの点は良いのに3や2を取ってしまいテストの点数は自分の方がいいのにテストの点数低い人が自分より評定が良いんだとなり、3年生の時に大学へ進学したいとなった時、1年生の時しっかり平常点を取っておけばと後悔してしまうので、大変ではありますが、しっかり1年生のうちから3年生の時のための備えが大切だと思いました。

■小論文は自分の意見を明確に 伝えることを目指しました

次に、面接対策や小論文について、小論文は何が出るか全く分からない中での対策になるので、何回も違うテーマで練習し、感想文を書くのではなく、しっかり自分の意見を論じて相手を説得させるような書き方を身に付けてという題でもスラスラ書けるようにしておくと思いました。

面接では、大学によって時間が決められているので、その中でしっかり将来どのようにになりたいのか、また大学で何を学び、その大学のコースで学べることをしっかり明確にし、短すぎず長すぎない文を考えておきましょう。そうすると思っていた質問と少しずれたのを聞かれても、考えていたことを組み替え答えることが出来ます。所々のキーワードを覚えておくのも良いと思います。面接や小論文の前にまず自己推薦書を書き、自分の行きたい大学を選び、そこで誰かと希望が被ったら争わなければいけません。そこで評定、自己推薦書の良さで枠をもらえるかももらえないかが決まるので、自分の行きたい大学の枠をもらえるまでは、内容の良い自己推薦書と評定が必要なので、目の前のことから一つ一つ一生懸命取り組むと良いと思います。

部活動をやっている人は両立は大変だとは思いますが、そこで身に付けた力は絶対進学先や社会で部活動をやっていない人と差が出来ると思うので、がんばって両立し、自分の夢に向かってがんばると良いと思います。

実践女子大学短期大学部 日本語コミュニケーション学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
門脇中出身

自信が付くまでひたすら努力を続け 余裕を持って受験に臨みましょう

■少人数での講義に惹かれ この大学に決めました

私がこの大学を志望した理由は、検定や資格取得に力を入れているところ、少人数クラスでの授業で先生方からより細かなご指導をしていただける所に惹かれたからです。高校1年生から指定校推薦での入学を考えていましたが、高校3年生の夏に一度AO入試を考えました。ですが、指定校推薦は自己推薦文、面接、調査書のみというところが決め手になりました。

推薦をもらうため、2年生の時にインターアクト部に入部しました。指定校推薦で入学した先輩に、ボランティアの活動は内申書へ直接書けると教えていただき入部を決めました。また、受験前最後の校内模試の点数と順位が大きく関わるのでいつものテストよりも早めに家庭学習に取り組み、放課後は苦手な教科の先生に頼んで過去問を解くことを心がけました。そのおかげで、1年生から2年生までの校内模試よりもはるかに良い結果を得ることが出来ました。そして校内選考を無事に通過し、面接練習では、先生から指摘されたところをメモし、電車や家でも面接ノートを開くようにしていました。

■高校生活を思い切り楽しむ中 じっくり将来を考えましょう

高校3年間はあっという間で、受験生の年になってから進路を決めようというのはとても大変です。1年生の時から受験した学校や学部、受験方法を調べておくことが大切だと思います。また、自分のやってきたことに自信がつくまで努力することで余裕を持って受験に臨めば、きっと合格することが出来ると思います。高校生活、沢山楽しみながら少しずつ将来のことを考えることをお勧めします。

聖和学園短期大学 キャリア開発総合学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
多賀城中出身

部活動と上手く両立させながら 苦手教科の克服を軸に勉強しました

■授業では平常点のために
ノート作りを工夫しました

この短期大学の指定校推薦は、面接と小論文と調査書でした。私は指定校推薦を取るために成績が落ちないように、テスト勉強を怠らず頑張りました。テスト期間中は集中する時間をしっかりと決め、苦手な教科を中心的に勉強しました。

面接練習では、先生に積極的にお願いをしに行き、自分が納得するまで何度も練習をしました。先生に指摘されたことをメモし、次の面接に活かしました。

授業中は少しでも平常点が取れるように、提出物やノート作成に一生懸命取り組みました。ノートは先生が書いたところだけではなく先生が話していて大事なところをポイントとしてメモを取ったりと、ノート作りは工夫しました。

所属していた部は人数が多かったのですが、友達や先輩、先生とのコミュニケーション力を高め合いながら活動しました。また、大会で良い結果が出るように日々努力してきました。私は仙台育英に入って、とても良い日々を過ごして行くことができました。

仙台青葉学院短期大学 こども学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
中野中出身

フレックスコースの特長を活用し 文武両道に励むことができました

■バドミントン生活を

仙台育英で全うできました

私が進学を目指した理由は保育士になりたいという夢があったからです。中学の頃から子供と遊ぶのが好きだったので、子供に関わる職業に就きたいと考えていました。

高校入学後、私は部活動に徹底的に打ち込みました。フレックスコースは部活動を頑張る生徒のためのコースであるため、まず自分のやりたいことを思う存分やりました。私はバドミントン部に入り、1年生から選手として試合に出ました。始めは3年生の先輩が負けて泣いているのを見て、私は後悔なく終わりたいなと思いました。仙台育英としても私個人としても初めて個人戦でベスト8に入ることができ、とても満足できる選手生活を送ることができました。朝早くから自主練習に付き合ってくださいました顧問の先生や、様々なことを教えてくださったコーチの方、大会の時には必ずビデオを撮ってくれる両親には感謝してもしきれません。私が思う形で恩返しすることは出来ませんでした。11年というバドミントン生活の中で充実した約2年半にすることが出来ました。バドミントンはやらず保育の勉強に専念し幅広い知識の習得に努め、この道に選んで良かったと言えるような大学生活を送りたいと考えています。

■テスト勉強が結果として

表れた時は嬉しかったです

私はもう一つ力を入れていた事があります。それは勉強です。1年生の頃から評定や単位は大事だと言われていたので、日々、自ら勉強をしました。自分のレベルにあった勉強で、フレックスコースという自分の時間がたくさんあるコースならではの文武両道でした。テストで勉強した成果が結果として表れた時はすごく嬉しかったです。

私はこのように部活動と勉強、どちらも満足いく成績を出せたことが自信となり、指定校推薦を受けようと思えることができました。この文武両道が大学合格に結びついたと思います。

仙台赤門短期大学 看護学科に
指定校推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
多賀城中出身

面接で自己アピールするときの対策として 他の受験者と差が付く実績を残しましょう

■ ボランティアに参加し 奉仕の心を養いました

仙台赤門短期大学看護学科への合格を目指して頑張ったことが3つあります。

一つ目は部活動です。ソフトテニス部に所属していました。一つでも多く試合に勝ち良い成績を残すようにしたり、真剣にソフトテニスに向き合い周りを見て行動することを心がけました。また、部長として後輩の指導も行い団体戦でも勝てるように頑張りました。

二つ目はボランティアです。看護学科を目指す者として奉仕の心を養うことで、受験にも将来看護師になった際にも生かせることだと思ったからです。部活がない日などには積極的に地域のボランティアにも参加し地域の人々とコミュニケーションを取るようになっていました。

■ 看護学科を志すならば 医療用語を勉強しましょう

三つ目は勉強です。私は1,2年生の成績は仙台赤門短期大学の指定校推薦を取るにはギリギリのラインだったので、3年生のテスト期間では1ヶ月前から1日2時間は必ず勉強したり、その日の授業で分からないことがあったら、そのままにしないで先生や友達に聞き、分かるように工夫したりしていました。テストで暗記が必要な教科は友達と昼休みに暗記したことを、どちらが多く書けるかなどといった勝負をしたりしてテストの点数を上げる努力をしていました。私が行く短期大学の受験では小論文があり、受験の4カ月前から少しずつ触れるようにし、1カ月前には一日一個小論文を書けるように意識していました。私は、序論を考えるのが苦手だったので、序論だけを書く練習もしました。看護学科はどうしても医療用語で出てくる小論文というのも少なくないので、医療系の小論文の書き方といった本を読んで、必要最低限の医療用語は覚えていました。

最後に、面接などでは色々聞かれたり、自分をアピールできる何かを今のうちに身につけ、受験の時に他の人よりも差がつくようなことが出来ると良いと思います。部活動をしている人は上位に入れるようにしたり、できれば部長、副部長になれるように努力すること、部活動をしていない人は、沢山ボランティアや、看護師を目指すなら看護体験をすることで、受験の時、自分のアピールポイントが増えるので有利になると思います。自分の夢に向かって頑張ってください!!

NIC International College in Japan に
指定校推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
仙台第二中出身

自己推薦文を何度も書き大変でしたが 諦めずに努力し推薦枠を得ました

■英語のスキルアップと留学が できる大学を調べました

大学は国内だけで約760校あり、約2,000もの学部が存在します。また、その大学でしか学べないものもあり、どこで何を学ぶかが重要になってきます。私は2年生の冬に何校か決めており経済学を学びたいと考えていました。また、私は硬式野球部にも所属しているので野球ができる大学も考えていました。しかし、部活動の監督や先生方と話していくうちに、本当にその大学で学びたいのか、将来の仕事に繋がっているのかを考え、自分が本当に学びたいところから決め直しました。

数ヶ月後に、両親から海外留学を勧められました。当時は、私は海外に行くことに抵抗があったのですが、色々と調べていくうちに興味を持ちました。そこで留学可能な学校を調べました。その中でNICという学校がありました。その学校では大学レベルに必要な英語力を1年間で身に付けることができ、海外留学では学部・学科が自由に選べ、英語を通して好きなものが学べるということ、また、指定校推薦でも行けるということでこの大学に決めました。

■勉強と部活動を両立できれば 描いている未来に近づけます

指定校推薦で行く中で大変だったことは自己推薦文を書くことでした。約1,500字を何度も手直ししてもらいながら書いたのですが、終わりが見えなく途中で止めようと思いましたが、諦めず最後まで書いたおかげで指定校推薦をとることができました。

指定校推薦では、各大学で試験の内容は異なります。私が合格したNICでは、筆記試験と面接と英作文がありました。指定校は面接が一番重要なので面接練習は絶対にやった方が良いでしょう。

後輩のみなさん。これからが一番大事な時期に入り、勉強や部活動で忙しくなる中で両立するということが、大変になることもありますが、そこを乗り越えれば自分が描いている将来に近づくとと思うので、これからも頑張ってください。

2020 栄光への軌跡

2020年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



公募制推薦

琉球大学、山形大学、福島大学、宮城教育大学、
青山学院大学、日本大学、学習院大学、
東北学院大学、東北福祉大学、東北医科薬科大学…

琉球大学 人文社会学部 人間社会学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
加茂中出身

努力を重ねた日々は自信になると共に 受験を終えてからも財産になります

■進路を決めかねていたとき

父が背中を押してくれました

私は高2の冬まで志望大学が決まらなかったため、それまでは勉強のモチベーションが上がりませんでした。志望大学決めに悩み家族に相談したところ、沖縄出身の父から琉球大学を勧められました。前に父に沖縄の風土や文化について教えてもらっていたため興味がありましたが、親元を離れて遠くに行くことに不安がありました。そんな私に親は「せっかく4年間勉強するなら沖縄で楽しく過ごしなよ」と背中を押してくれて、私は琉球大学に行くことを決意しました。オープンキャンパスに参加して大学の講義を体験したり学生の話の聞いたり、ライバルが積極的に質問している姿に刺激を受け私は勉強のモチベーションが上がりました。志望大学決めに悩んでいる皆さんは一人で悩まずに親や先生に相談しましょう。私のように自分では考えつかないような新たな道を切り開けるかもしれません。

■頑張る友人の姿を見ながら

集中力を維持していました

学習面では私は学校の自習スペースで勉強することを意識していました。頑張っている友達の見える環境で勉強をすることで、自分を奮い立たせて集中を維持することができました。

- ・その大学でなければならぬ理由／入学後にしたいことを明確にすること
- ・教授の研究内容や本を調べること
- ・取得できる資格／取得したい資格／大学卒業後の進路について調べること
- ・志望理由書に関する内容は確実に答えられるようにすること

受験期は長いようであつという間に終わります。一日一日を無駄にせず努力し続けた日々は、本番では自信となり一生の財産となります。皆さんが志望大学に合格することを願っています。

山形大学 地域教育文化学部 地域教育文化学科文化創生コースに
公募制推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
佐沼中出身

好奇心と探究心を持って挑戦し続け 受験を戦い抜く「強さ」を身につけましょう

■将来を見据えて勉強する

友人たちに影響を受けました

私は大学受験を通して、改めて周りの人たちの偉大さを感じました。これから受験をするみなさんには、この高校3年間で多くの人と関わり、自分を知り、そしてたくさんの人から多くのものを受け取って欲しいと思います。3年生になって私は最終進路を決めかねていました。担任の先生と面談し、夏の模試で志望大学を決めることにしたものの「行きたい大学」と「学びたい学問」の間で迷いが生じていました。憧れの大学に進むか、学びたい学問を学べる大学に進むか、そんな思いを抱えていた時に私を支えてくださったのは先輩方でした。どちらの道に行ったとしても自分は頑張れる、そう思えたのは先輩方の言葉があったからです。また、私が大学進学の見つけ直すことができたのは友人たちの姿があったからです。一緒に勉強していく中で、ただ学問を学びに大学に行くのではなく、その先の目標をもって大学進学への勉強をする友人達の姿に影響され、研究という一つの目標を見つけることができました。

■仙台育英での多彩な経験が

自分の強みになりました

そして仙台育英は多くのことに挑戦することができる学校だと思います。私自身も勉強だけでなく、部活動や生徒会活動、海外研修など多くの実践的な学びの機会をいただき、その経験で得たものを面接や自己推薦文で自分の強さに変えることができました。高校生活では中学校では得られないような機会が転がっています。好奇心と探究心を忘れずに挑戦し続けてください。

最後に、受験は団体戦と言えると私は思います。なぜなら、私一人で受験と戦ったとは思っていないからです。受験生になる皆さんがこの高校生活の中で、受験を戦い抜く「強さ」を見つけられることを願っています。

山形大学 理学部 理学科 物理学コースに
公募制推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
七ヶ浜中出身

短い3年間だからこそ忙しくても 好きなことに全力投球しましょう！

■好きなことを基準にして 進路を考えました

まず私が好きなことを紹介しようと思います。まずは物理学。これで私は大学進学に挑みました。ただし本気で向き合っただけで好きになれたのは2年の後半でした。次は吹奏楽。部活として中学から続けていました。高校入学はこれのおかげとあっていいでしょう。あとはゲームとか料理とかマンガとかのような趣味、娯楽の類いも人並みかそれ以上に好きでした（特にゲームは1, 2年次の担任に口酸っぱく言われました）。今挙げた「好きなこと」だけで選んでもかなりの大学が候補にありました。正直なところ入学した頃は物理学で大学を志すなんて思ってもいなかったし2年で文系を選んでいたらかもしれません（現に世界史とか倫理とかの所謂社会科に含まれるものは割に好きでした）。適当な選択をしたつもりは一切ないし、その選択を後悔することも一切ないが、私の履歴がこうなったのはある種の偶然だと思います。その累積が選ぶことのできた多くの大学からたった一つ決めたのだと思います。だからこそ「好き」を失ってはいけません。常に全力を尽くさなければなりません。

■テストの点数をバネに 全力で物理に臨みました

実のところ、物理は2年の最初のテストで赤点ギリギリの点を取ったことがありました。正直心が折れそうでした。しかし同時に悔しさがありました。本気で好きになれそうだったものを諦めたくありませんでした。今になって思いますが、あれがなければきっと今ほど物理に思い入れはなかったと思います。そこから全力で物理に臨んだからこそ今だと思います。もちろんその間も部活は忙しかったし、趣味もそこそこの割合で一日を占有していました（後者に関してあまりおすすめはしません）。ただどれだけ忙しくても何かを蔑ろにすることはしませんでした（再三言いますが趣味についてはしっかり自制すること）。何か一つ無ければのめり込みすぎて、または嫌になって離れてしまっていたと思います。短い3年間だからこそ好きなことに全力を向けて欲しいです。勿論全力は過剰努力とは違うから心身の健康最優先で、ではあります。

福島大学 人文社会学群 人間発達文化学類 スポーツ健康科学コースに
公募制推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
八軒中出身

大学は名前ではなくやりたいことができるかどうか見極めて選びましょう

■大学でも陸上を続けながら 教員を目指していきたいです

私が福島大学を選んだ理由は、将来保健体育教師になりたいと考えている上で、それに必要なカリキュラムや興味のある講義があるからです。また、中学校から続けている陸上を大学でも強いチームの中で継続したいと考えたからです。福島大学ではこの二つが可能だと考え受験することに決めました。そして、11月に行われた推薦入試を使って受験しました。この受験は大学から指定された人数しか受けることが出来ないものでした。福島大学は1校につき3人までという指定でした。私が受けたスポーツ健康科学コースの受験内容は、小論文、面接、実技試験がありました。それぞれの対策としては、小論文は福島大学の過去問を取り組むことはもちろん、他の大学の体育学部の過去問に取り組みました。その際に過去問で指定されている字数を多くするなどして、自分なりに工夫して小論文の練習をしていました。また、2週間前になった頃から時間を測って取り組むのをほぼ毎日行っていました。面接では、母や友達に聞かれそうなことを予想してもらったり、様々な先生に面接練習をしていただいたりしました。その際に注意されたこと、自分が答えた内容をノートに書いておくようにし、何を話したいのか、どういう流れで話すのかを覚えられるようにしました。実技試験では、練習の中の動きをしたりタイム計測をしたりするので、小論文や面接の練習をしながら部活動に参加して対策していました。元々、受験資格の中に「全国大会に出場した者」という条件があったため、8月のインターハイまで努力してきていました。それを継続したおかげで試験当日はしっかり走ることができました。

■インターハイ出場を果たし 出願することができました

高校の中で頑張ってきたことは、定期テストの評定でオール5に近い評価を得ることと部活動です。どんな推薦の形で評定を取っておくことで視野が広がるため、テストでは80点以上を全教科で取ることを意識していました。部活動では、日々練習に励み、高校2年の時にインターハイ出場、3年生の時にインターハイで準優勝進出という結果を残すことができました。そのおかげで私は受験資格を得ることができました。

大学を決める際には、大学の名前で判断するのではなく、その大学に入って何がしたいか、自分のやりたいことができる場所なのかを見極めてほしいです。高校は中学よりも忙しく大変なこともあります。時間を有効に活用して過ごして下さい。

宮城教育大学 教育学部 特別支援教育教員養成学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
郡山中出身

本番に持参した小論文や練習用紙など 「努力の証」は私に勇気をくれました

■人と関わる仕事に惹かれ

教師を志すようになりました

私の入学時の目標は、県内国公立大学への進学でした。3校ある県内国公立大学全てのオープンキャンパスに参加し、イベントにも積極的に参加しました。そして、生徒会執行部やチーム若獅子の活動を通し、人とかかわることに大きな喜びを感じるようになりました。3年生になるころには、人と関わる仕事に就きたいと考えるようになりました。そこで、人と関わる仕事として教師になろうと思い、宮城教育大学を目指すことを決意しました。推薦入試は、小論文、集団討論、個人面接があります。生徒会執行部でのオープンスクールの運営や街頭募金などのボランティア活動は集団討論や個人面接で大いに役に立ったので、積極的に参加して良かったと思いました。しかし、経験のみで戦ってはいけません。私は、担任の先生に協力してもらい、色々な大学の小論文を解きました。それと同時に教育や特別支援教育に関する本を10冊以上読み、専門知識も学びました。さらに、もしものためにセンター試験の勉強もしなければならなかったため、とても大変でした。しかし、どんなに大変なことでも一緒に頑張る仲間や、自分のために協力して下さる先生方のおかげで最後まで頑張ることができました。本当に感謝で一杯です。

■努力は裏切らないことを

入試を経て実感しています

私が大学入試を終えて感じたことは、努力は自分を裏切らないということです。私は受験会場に自分が今まで書いた小論文や集団討論の練習で使ったメモ用紙、先生からのアドバイス用紙、読んだ本など自分が努力した形をできるだけ持っていきました。そのうち本番前に目を通したものは1枚か2枚でした。しかし、かばんに入っている大量の「努力の証」はまるで私に「これだけ努力したんだ、後はやってみろ」と話しかけているかのように感じました。そしてそれは、大きな自信につながりました。

都留文科大学 文学部 国際教育学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 外国語コース卒
松山中出身

日々ひたすら勉強するだけでなく 進学の目的を常に考えておきましょう

■進路を早々に決めていたので
余裕を持って対策できました

高校3年間で振り返ると、高校入学時から志望大学をおおよそ決めていたため、周りよりも比較的余裕を持って受験勉強が出来ていたと思います。大学入試には様々な試験内容があると思いますが、ただ勉強するのではなく、なぜその大学に行きたいのか、大学で何を学びたいのか、大学でどんなことを研究したいのかといったことについても考えておくことが大切だと思いました。実際に、私はこのようなことについて考えていたことで、受験勉強のモチベーションにつながり、受験勉強に対する向上心も上がりました。

■書類に空欄が無いように
検定取得などに励みました

私は決められた評定平均値をクリアしていれば誰でも出願できる推薦入試を受けました。出願書類は先生に書いていただく書類が多く、自分が書く書類は少ない印象でした。自己推薦書や志願理由書はなく、一見、受験者にとっては楽そうに思えますが、私は自分の長所やこれまで行ってきたボランティア活動などを自分でまとめたものを作成し、推薦書にも記載していただくために先生に提出していました。また、英検などの検定に挑戦し、資格取得欄が空欄にならないようにもしました。また、2次試験では英語小論文が課されていたため、3年生からはとにかくその対策をしていました。まず、4月に一度過去問を1年分テストして自分のレベルチェックをしました。そこからどういった勉強をすべきか考え、5月から7月までは英語力と文章力の向上に努めました。8月に、掲載されている過去問をすべて解き、どのような問題形式で、どのようなトピックが出題されているのか分析し、9月にその対策をしました。受験間近は過去問を解き直したり、「教育」「国際問題」が頻出トピックであったため、それについて知識を広げたり、専門用語等を覚えたりしました。

これから受験生になる方々、自分がこれまでやってきたことが自分の自信につながります。受験勉強、頑張ってください。

青山学院大学 総合文化政策学部 総合文化政策学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 外国語コース卒
東華中出身

募集要項等で推薦の目的を調べておくと 想定外の問題にも焦らず対応できます

■過去問が無く当日に英語の 小論文試験を知りました

この大学を志望した理由はクリスチャンとしてキリスト教を学べる大学に進学したいという気持ちがあったことと、大学のゼミとラボ実習が将来の夢に役立つと考えたためです。

受験において必要な外部試験としては、主に英検とTOEFLがありました。

私が受験した公募制推薦（全国高等学校キリスト者推薦）では、二次審査がなく、一次審査として面接と日本語と英語の小論文がありました。私は、日本人でありながら母国語が日本語ではありませんでした。また、すでに2回の受験の失敗で自分の日本語に自信を失い、ストレスを感じていました。

私は国際バカロレア（IB）を履修していましたが、一次審査の日がIB最終試験の最終日の2日後でした。IB最終試験の勉強で受験の準備が疎かになるのではないかと不安とプレッシャーを抱えていました。受験1週間前は担任の先生が試験準備を助けてくださり、毎日完全下校の時間になるまで面接練習をすることができました。しかし、私が受けた推薦入試は毎年受験者がとても少ないため、小論文の過去問がありませんでした。そのことから、過去問を用いての小論文練習は一回もできませんでした。受験当日になって英語の小論文があることを知りました。

■周りの人たちへの感謝を 忘れずに頑張りましょう

英語の小論文では、英語の長文を日本語訳することでしたが、難しい単語とわからない単語がたくさんありました。そのときは、前後の文章を読んでどのような状況なのかを想像しながら解き進めました。わからない単語があっても慌てずに時間をかけずに代わりとなる言葉を探す対応力が必要でした。また、日本語の小論文では、時事問題ではなく、聖書の内容とキリスト教における福音について問題が出ました。小論文とはいえ、必ず時事問題は出ません。学部と何推薦であるのかに関連した問題が出ます。私が受験した推薦入試は、キリスト教への知識と信仰心をもって大学でも奉仕できる生徒を見極めるという目的をもっています。推薦の目的を考えるだけでも、過去問のない小論文への対応力は変わると考えます。

面接では緊張しましたが、滑らかに話すことを意識しました。面接官にいい印象を与えるためには、大きな声で堂々とすることが重要でした。前の受験者の面接が長くなり、私の面接の時間が短くなりましたが、焦らずに面接することができました。この経験を通して、自分の日本語能力に少し自身が持てるようになりました。

先生方や家族、友達からのサポートがあってこそ、つらい時期を乗り越えることができました。思い通りにいかないときもあると思いますが、感謝の気持ちを忘れずにがんばってください。

日本大学 商学部 経営学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
秀光中等教育学校出身

何かに一生懸命打ち込む「今」の自分が 「未来」の自分を導いてくれます

■小論文対策は過去問の分析や 文章構成の勉強をしました

私は、大学に進学するにあたって本当に大切なことは「今」を一生懸命に頑張ることだと考えます。言い換えるならば、一生懸命に頑張る何かを今すぐに見つけるべきだと考えています。それは、進路を決める上でも受験の時でも必ず役に立ちます。少なくとも、私の進路には大きく良い方向に働いてくれたと確信しています。それを踏まえた上で、受験直前の対策も書こうと思います。

まず、小論文があるかないかを調べます。ない場合は、面接の練習のみすれば良いです。基本的に聞かれる質問は決まっているので、あらかじめ答える内容を大まかに決めておき、実践的な練習を多くしました。面接官役を友達や先生方をお願いし、どんな質問にも答えられるようになりました。しかし、小論文がある場合は難しくなります。理由は、自分のことではなくなるからです。時事問題や学部に関連する話題など、幅広く対策しなければなりません。その幅を少しでも狭くするために私は志望大学の過去問題を入手しました。毎日ニュースや本などで勉強し、文章の構成の仕方なども1ヵ月かけて勉強しました。本来なら、1ヵ月では足りないところでした。

■野球に打ち込んだことが 結果的に合格に繋がりました

なぜ1ヵ月の対策で合格できたのか。それはずっと野球に打ち込んだからです。野球をトップレベルで続けてきたことで、多くのアピールポイントを得ることができました。言い方を変えれば、長い年月をかけて受験の対策をしていたのです。もちろん、対策をしようとして野球をしてきたのではなく、野球が一生懸命に頑張れる何かだったということです。そこで生まれた結果や実績、話し方や態度、礼儀などが合格へ導いてくれました。

これらのことから、私が感じた受験において最も大切なことは、「今」を一生懸命に頑張ることです。ハマれる何かを見つけ、それに打ち込む「今」の自分が「未来」の自分を救ってくれると思います。

学習院大学 国際社会科学部 国際社会科学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 外国語コース卒
川崎中出身

準備を入念に行っていたので 想定外の出題にも対応できました

■留学経験とIBでの学習を

大学でも生かしたいです

私は1年次にカナダへ短期留学をし、2年次からはIBを受講しました。この二つの経験を生かせる大学に進学したいと考えていたので、2年次には首都圏の大学を視野に入れていました。2、3年次の夏に第一志望である学習院大学のオープンキャンパスを訪れ模擬講義を受けました。一次試験では留学に関する考えやなぜ自分自身が志望学部に適しているかを書いた書類を提出しました。IBの最終試験後である11月末に一次試験の合格通知をいただいてからは、二次試験対策のために英単語の勉強や世界情勢の知識定着を中心に行いました。面接に関しては、英語と日本語で行われるとのことだったので、日本語に加え英語での練習にも力を入れました。

■毎日ニュースや新聞で

世界情勢を捉えていました

学習院大学の二次試験は筆記試験と面接があります。私が受けた公募制推薦の過去問は学習院大学に行かないと全文を見ることができないため、様々な情報を手に入れ試験に挑みました。対策として私は世界の統計情報が載っている本や世界問題についての本などを読みました。「国際社会科学」という学部なので、貧困や難民問題などの社会に関するニュースに力を入れましたが、本番ではビッグデータに関する問題が出されました。全く対策していなかった分野の問題だったので、長文と設問内容を落ち着いて理解してから解きました。面接は英語と日本語それぞれ5分ずつだったので、あまり多くは聞かれませんでした。英語の面接では英語のデータを読み取り、それに関する知識を問われました。筆記試験のテーマは毎年変化するので対策は難しいと思いますが、世界情勢をおさえておくためにニュースや新聞を毎日チェックすることが大切だと思います。筆記試験の英語長文は1,500語程度なので英語の記事を読むことも必要だと感じました。

二次試験前は非常に緊張していましたが、友人や先生方に支えられ、自信を持って試験に挑むことができ満足のいく結果を得ることができました。毎日の積み重ねがきっと実を結ぶと思います。応援しています。

東海大学 政治経済学部 経営学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
宮城野中出身

3年生から英語を猛勉強！ 点数を上げることができました

■英語面接の対策として

文法の学習に力を入れました

私が東海大学政治経済学部経営学科に合格するために頑張ったことは、私は高校1年生、2年生では生活習慣が悪く、遅刻が多かったのですが、3年生になり将来のことを考えるようになり目指している職業が明確になりました。グラウンドスタッフになるには進学して英語力を高めることが必要なので、高校3年生からは、残り少ない1年間の授業を大切に特に英語には力を入れて勉強していました。具体的には、考査テストで対策プリントをしっかりと行いテストに臨むことや、単語帳で書いて覚えたり文法の仕組みを覚えたりしていました。その結果、以前に比べ理解力も上がり点数も上げることができました。3年生になり1,2年生でしっかり勉強を行わなかったことを後悔したので、しっかり勉強を行うことが大事だと思います。公募制推薦で受けた時の内容は、小論文と英語の面接がありました。英語の面接の対策ではたくさんの文法が使える方が良いと思い、先生にたくさん教えてもらいました。

学習院女子大学 国際文化交流学部 日本文化学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 外国語コース卒
五橋中出身

自分だからこそ伝えられることを 増やすことが推薦入試には必要です

■高校生活で多くを吸収し 大きく成長できました

初めに、私が大学に合格できたのは支えてくださった先生方のおかげです。忙しい中放課後も面接やエントリーシート作成の指導をありがとうございました。

私が志望大学を決めたのは、受験の2カ月前でした。学部、受験方法も悩み直前まで担任の先生と相談しました。1年生から様々な大学のオープンキャンパスに足を運び、自らが学びたいと思ったことと照らし合わせて決定しました。私がこの大学を選んだ決め手は、国語と英語、そして第二外国語として3年間学んだ韓国語の学習の継続ができる点です。そして、グローバル化が進む現代社会を担える国際人になれると感じた点です。大学進学を考えている人は、大学を何校か調べ、オープンキャンパスに出向き比較することが大切だと思います。考えるだけでなく、自らの目で確かめて、4年間学習する器を決めてほしいです。

また、公募制推薦では自己アピールが非常に重要です。定期考査や出席日数など基本的な事を守り、プラスアルファとなる活動ができると良いアピールになると思います。私がアピールした点は、1年生のハワイ研修や部活動、そして3年生で参加した「日韓高校生交流キャンプ」です。面接の際も交流キャンプについて質問され、私の回答に感心してくださいました。外務省が後援してくださった企画に学校を通じて応募しました。推薦入試の利用を考えている人は、自分だから伝えられることを増やすことが必要だと思います。積極的に学びのフィールドを増やし、多くのことを吸収することで人間としても大きく成長することができました。面接は大学の教授に直接思いを伝えることができます。何故この大学で学びたいのか、大学を卒業したらどのような人物になりたいのか、これらのことを、実体験を交えつつ考えて言葉にできると良いです。アピールポイントは、自分の手で掴むものであると念頭に置いてください。

■幅広い読書やニュースに触れ 知識を増やしましょう

さらに、小論文対策も大学合格には欠かせません。私は読書や新聞を読む習慣が身につけており、文章の読み書きの苦労はありませんでした。しかし、大学受験の小論文は難易度が違います。重要なことは、問いに対して焦点をずらさずに答えることです。過去問題をオープンキャンパスで受け取り、解いて国語科の先生に添削していただきました。より質の高い小論文を書くには、経験値や思考力を高めることが必要です。例年実体験を交えることが問いの条件となっています。そのため、様々なジャンルの本やニュースに関心を持つことで知識が増え、小論文が書きやすくなると思います。アピールポイントと重なりますが、様々な経験をすることで問いと重なる実体験が増えていきます。

受験はひとりで受けるものですが、その過程で合格をサポートして下さる人が沢山います。先生に相談をし、効率的な対策で受験に挑むことで、新たな扉を開いてください。

日本文化大学 法学部 法学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
南小泉中出身

早くから進路を決め時間を有効に 使うことが合格への近道です

■小論文は毎日過去問を解き 書くスピードが上がりました

日本文化大学に入るために推薦入試一ヶ月前から小論文や面接の練習をしてきました。小論文は最初書くことができるまで時間がものすごくかかりました。ですが、過去問を毎日解くことで少しずつですが小論文の書くスピードが上がっていき小論文が書けるようになりました。面接練習では数をこなすことで面接でのしゃべる内容がだんだんと明確になっていき、自分の伝えたい事をきちんとしゃべれるようになりました。

■警察官の合格率の高さが 進路決定の決め手でした

私が日本文化大学法学部法学科に進学を希望したのは、将来警察官になるという目標と大学で部活動を続けたいと思ったからです。

警察官を目標としている理由の一つに、地域の人々の安心安全のために働きたいという思いがあります。身近にいる警察官の地域住民に親切に接する姿を見て心強く憧れるようになり、自分も地域の人々の安心のために役に立ちたいと心を決めました。また、信頼される警察官になるためには、法律の知識と人間心理を学ばなければいけないと考えました。日本文化大学法学部は、警察官の合格率が高く、警察官を目標とする私にとってぜひ進学したいと思った学部です。部活動では高校生の時レギュラーに入ることが出来ず悔しい思いをし、大学に入って大好きな部活動を続け、レギュラーに入り全国を目指せる選手になりたいと思い日本文化大学法学部法学科に進学したいと思いました。

進路は早くから考え決めることで、入試までの時間を勉強に使い入試に向けての対策をすることが大学進学への近道だと思いました。

東北学院大学 文学部 総合人文学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
長命ヶ丘中出身

後悔しないように何でもやることが 今後の人生に必ず役立ちます

■夢の甲子園の舞台に立ち

一生の思い出になりました

私は、小学校1年生の頃から野球を始めました。私の兄も野球をしています。小学校から中学校まで兄と同じ進路でした。小学校は、少年野球チームに所属し、泉区や仙台市の大会で優勝し、県大会で2位という成績を残しました。私はそこで主軸として出場しチームに貢献してきました。中学校は、リトルシニアという硬式野球チームに所属していました。少年野球の頃と同じでエースで3番打者の主軸を努めていました。残念ながら良い成績を残すことはできませんでしたが、ここから仙台育英に入学しようと思うようになりました。高校でも野球を継続しようと思い、地元宮城県で甲子園に出場する高校が仙台育英しかありませんでしたので最悪、選手として出なくても甲子園に行きたいと思って入学しました。高校1年生の時の練習はとて厳しく付いていくので精一杯でした。その練習を乗り越え、高校2年生ではベンチ入りすることが多く試合に出ることが多くなりました。しかし、試合に出ると同時に思うように行かないことも多くありました。そこで、野球部の誰かに見てもらうなどして悪い所を改善して行きました。そして、高校3年生の夏、努力が実りベンチ入りすることができました。夏の宮城県大会で優勝して、夢であった甲子園に選手として出場することができました。試合に出る機会は少なかったが、あの舞台に立つことができるとても嬉しかったです。また、一生の思い出になりました。

■仲間と切磋琢磨し人として

大きく成長できました

高校野球で学んだことは仲間の大切さです。協力し合ったりライバルがいたり、私は人間性の部分でとても成長したと感じています。高校野球生活の3年生は一生に一度しかありません。だからこそ、後悔しないように過ごしていく必要があります。やらないで後悔するよりは思い切ってやってみて後悔する方が、必ずこれからの人生に何かしら役に立つと思います。なので、仲間を大切にしながら後悔しないように高校生活を過ごして行けば、高校3年生になった時には、この皆に出会うことができ良かったなと思えるように過ごして行ってください。

東北学院大学 文学部 教育学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
広瀬中出身

常に上を目指して努力を続けていれば 学業も部活動も必ず結果がついてきます

■夢である英語教諭を目指せる 新設学科に興味を持ちました

高総体が終わった後に声をかけていただき、「英語の教師」という将来の夢を叶えることのできる教育学科が新しくできたこと、部活動も学業も両立することができる環境が揃っているので推薦での受験方法を選びました。

私は、インターハイなど上の目標を目指して日々練習に励みました。高総体では良い結果を出すことが出来なかったのですか、私の戦う姿や技などを良いと思っていただき声をかけてもらいました。上位を目指してその目標どおりの結果を残すことは大切ですが、目標に向かってあきらめずに努力し続けることも同時に大切なことだと思います。毎日気を張って努力し続けることは大変なことだけれども、最後に悔しい思いをしないためにも一日一日の練習がとても大切なものだという事を2年生の時に思いました。今振り返ると、もっと頑張ることができたなと思います。3年生になりチームをまとめる立場になった時には、インターハイ出場という目標への気持ちが強くなりました。周りを見なくてはいけなく大変なことも増えたけれども、一日一日自分の改善点を確認したり。寝る前に今日一日のことをノートなどにまとめ振り返り頭を整理したり、試合をしているイメージをしたり放課後の練習だけでなく家に帰ってからも様々な方法で練習していました。

■3年間部活動に打ち込み 充実した毎日を過ごしました

さらに、部活動だけでなく、学業も良い成績を取るために分からないところや苦手なところはそのままにせず、理解できるまで繰り返すなど自分のやり方で工夫していました。特に、3年生のテストは大学入試に重要となるので、早い段階からテスト勉強をした方が大学入試に有利になるので、3年生の始めのテストは大切にしたい方だと思います。

私は高校3年間ほぼ部活動に力を入れて過ごしました。目標に向けてチームの皆と気持ちを一つにして取り組み、監督の先生にご指導していただいたことや自分で考えたことを意識して一日一日を大切に充実した毎日を過ごしていました。毎日、上を目指した努力していたら必ず結果はついてくると思います。部活動も学業も常に上を目指して努力することが一番大切なことだと思います。だから、今を大切に後悔の残らないように高校生活を全力で頑張ってお過ごしてほしいです。

東北学院大学 法学部 法律学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
鹿島台中出身

3年間のバドミントンの実績を携え 大学でも続けて完全燃焼します！

■先輩との東北大会出場を 果たすため入学しました

私はバドミントンでダブルスインターハイ出場、また、2つ上の先輩と団体戦で東北大会出場という目標を果たすために仙台育英に入学しました。

2つ上の先輩は同じ中学校で県中総体の団体戦でベスト8という結果で終わってしまい、東北大会に出場することができませんでした。そのため、その時に達成することができなかった東北大会出場を果たしたいと思いました。その先輩が仙台育英に入学した頃は、部活動ではなく愛好会のような感じでした。そんな中に一人で飛び込んでいった先輩はすごいと思います。そして、その先輩を追うように私も入学しました。私が入学する前は団体戦で1回戦を勝つことがやっとの学校でした。

■つらい時期を乗り越えて 目標の東北大会出場を果たしました

高校総体の団体戦、仙台育英はベスト8まで進むことができました。しかし、先輩と東北大会に出場するという目標は果たすことはできませんでした。自分が最上級生になりました。キャプテンを務め、コーチに言われたメニューを行っていました。辞めたいと思ったこともありましたが、信頼できるコーチや仲間と一緒にもう少し頑張ろうと思いました。そして新人戦で先輩と果たすことのできなかつた東北大会出場を果たすことができました。高校総体でもベスト4という結果を残すことができました。大学でも続けたいと思います。

東北学院大学 教養学部 言語文化学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
高崎中出身

何か一つのこと全力を注ぐことが 志望大合格に繋がります

■留学など韓国語を本格的に 学べる所に惹かれました

私は3年間チアリーディング部に所属したのち公募制推薦で東北学院大学教養学部言語文化学科に合格しました。私は大学でチアリーディングを続けながら、韓国語を学びたいと考えています。数ある大学の中から東北学院大学を選んだのは、文化活動としてのチアリーディングをアピールできる推薦入試があり、言語文化学科で韓国語が学べることから魅力を感じたからです。言語文化学科では留学する事もできるため、現地で話せる良い経験ができると思いました。

■チアリーディング部で 努力の大切さを実感しました

私は高校3年間でチアリーディングを通して、努力する事の大切さを学びました。入部当初は体が硬く、基礎のキックやジャンプなど出遅れてしまいましたが、負けず嫌いな性格なので、毎日柔軟をし、Y字バランスが出来るまで柔らかくなる事が出来ました。また、新しい技に挑戦する際に、仲間と意思疎通することで、コミュニケーション能力をつけることが出来ました。部活動を通して、様々な部活を応援する事によって、誰かのために行動する事や、応援する事で、他の人だけでなく、自分の力にもなりました。また部活動だけではなく、勉強も頑張る事で少しでも良い成瀬をとる為、努力しました。

私は大学を決めるのが遅く、学びたい事が韓国語と決まっていたものとても悩み、3年間で一番努力をし、時間を費やしてきたチアリーディングで大学に入れる事を知り、チアリーディングを色々な人に知ってもらえる活動をし、韓国語を学ぶために東北学院大学に決定しました。成績はあまり良いほうではなかったのですが、チアリーディングの大会で全国大会に出場するほど、努力をしました。一つの事でも全力で取り組み、楽しんで行えるものがあれば、それが何かの役に立ってくれると感じました。

東北学院大学 経営学部 経営学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
東北学院中出身

受験対策における先生方のアドバイスは とても役立つのでしっかり聞きましょう

■部活動に行く前に小論文を 一題書いていました

まず、私は小論文に力を入れて取り組みました。B学設の小論文の授業では、千田先生に厳しく教えられました。授業は週2時間ですが、漢字で書くことや段落のつけ方など何度も繰り返し言われました。授業の他にも部活に行く前に小論文を一題書いてから行きました。

次に力を入れていたのが面接です。面接は、たくさんの先生方に練習をお願いしていました。たくさんの先生にお願いすることで、さまざまなタイプの聞かれ方があり本番にとっても強くなれます。

小論文にしても面接にしても、先生方のアドバイスがとてもためになるので、しっかり活用することをお勧めします。

東北福祉大学 総合福祉学部 社会福祉学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
七ヶ浜中出身

アピールできることをたくさん用意して 面接での話題を増やしておきましょう

■自分のアピールポイントから

入試方式を決めましょう

大学進学をめざそうと思ったのは中学の職場体験の時にもっと専門的な知識を学んでみたいと思ったからです。そこで多くのことを学べるのが大学だったので大学進学をめざそうと思いました。

自分のやってきたことを相手に伝えられると思い、推薦で受験することに決めました。私は、勉強が得意ではなかったので一般で受けても受かる自信もなく、それなら自分のやってきた部活動などをアピールできる推薦入試がぴったりだと思いました。そして推薦入試を合格するにあたって心がけたことは、まず自分のアピールできることを見つけることです。なぜなら、アピールすることが他の人とかぶっている場合もあるので、なるべく多くアピールポイントを見つけておいて、そこから面接の時に絞って話せるようにしておけばいいと思います。推薦入試はほとんどが面接があるので、その自己アピールの他に質問された時に答えに詰まらないよう、先生方や友達などをお願いして練習を多くしておけば多少緊張していてもある程度は受け答えがしっかりできると思います。他にボランティア活動や課外活動などもやっていると、面接時に話が発展するのでその課外活動も1回は行っておいて成績表に書けるようにしておきましょう。

■最後まで諦めなかったことが

合格できた要因だと思います

部活動をやっていると推薦入試を受ける場合に出願する際、その部活の顧問の先生のサインも必要になる場合があるので、その時部活動での態度も見られて推薦してもらえないこともあるので部活動をしっかりやることも大切です。

他に小論文もあるので、その大学の過去の資料も確認してどんな感じの課題の小論文だったのかや他に多く小論文を書くことで書き方が分かったりするので損はないと思います。

最後に、受験に成功した要因はあきらめないことと信じることです。精神論かも知れませんが人がそういったことも必要かもしれないので、最後まであきらめないで頑張ってください。

東北福祉大学 総合福祉学部 社会福祉学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
岩沼中出身

先生方の教えが自信に変わり 本番では驚くほど緊張しませんでした

■高齢者施設訪問がきっかけで 福祉への道を選びました

幼い頃に高齢者施設を訪れ、そこで身体の不自由な方々を多く目にしました。そのような体験を通し、私は福祉に興味を持ち同時に高齢者の方々の力になりたいと思うようになりました。県内で福祉について本格的に学ぶことができるのは東北福祉大学と思い志望しました。私は計2回の受験をすることを決め、第一志望である社会福祉学科の合格を目指し、推薦入試の対策に取り組みました。東北福祉大学の入試は書類選考、小論文600字、個人面接の3つでした。勉強と部活動の両立に加え、ボランティア活動を経験していたので、書類選考には自信がありました。しかし、小論文と面接は苦手だったので、先生方との練習でも自分の考えを上手く伝えることができず、序盤は本当に苦労しました。また、小論文の練習でも苦戦し、合格できるのだろうかということも何度かありましたが、そこで諦めることはせず、何度も練習に取り組みました。その甲斐もあり、段々と自分の考えを言えたり書けるようになっていきました。

そして迎えた入試当日は今まで自分のやってきたことや、先生方から学んだことを生かそうと心に刻み、2日間の入試に挑みました。すると本番では自分でも驚くほど緊張せずに臨むことができ、今まで学び得た力を思い通りに発揮することができました。小論文では自分の考えを述べることができましたが、文章は納得がいかないものになってしまいました。ですがすぐに切り替えをし、面接試験に臨みました。面接では自分が思っていたよりもリラックスした雰囲気、自然と笑顔で受け答えができていました。聞かれたことについて正確に伝えることができ、小論文での失敗を挽回し、合格を勝ち取ることができました。

■小論文や面接の練習は 数をこなすことが重要です

学校生活のアドバイスは、毎日の授業をしっかり受けること。また、定期テストの成績も高得点を目指すことだと思います。推薦入試は評定が大きく関わってくるので、そこを意識することが大事です。そして部活動をやっている人は勉強との両立を心がけて取り組んで下さい。時間があればボランティア活動に多く参加し、そこで何を得たか、何を学んだのかを意識することが大事になってきます。

推薦試験のアドバイスは、本番になって体調を崩さないよう、手洗い、うがいなど予防をしてください。更に小論文や面接の練習では何回も取り組んでみてください。数をこなせば文章力や一つの質問に対してすぐ理解ができるようになると思います。書類などもしっかり先生に提出し、添削もしっかりしてもらい自分から理解しに行くことを心がけましょう。

東北福祉大学 総合福祉学部 社会福祉学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
南郷中出身

面接や小論文を一から指導が受けられる 長期休暇中の講座にぜひ参加しましょう

■将来は家族間の深刻な問題の 解決に尽力していきたいです

大学進学をめざした理由は、将来社会福祉士の資格を取得し、ソーシャルワーカーになることを目標としているからです。ソーシャルワーカーを目指そうと思ったきっかけは、SNS やニュースなどで度々取り上げられているDV被害や虐待についての記事を目にしたたり、夫婦間での暴力や、子どもへの暴力のニュースを見るにつけ「なぜ大切な家族に暴力を振ってしまうのか」ということ。そして、DV や虐待している時の精神状態に疑問を抱き、それらの難しい現状において解決策を図るソーシャルワーカーになりたいと思い、東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科を志望するに至りました。

私は高校3年間柔道部に所属していました。入学当初は体が弱く、練習にもついていけなかったのですが、視野を広げ毎日一つの目的を持ちながら練習することを心がけてきました。このことにより、できるようになった技の種類が増え、中学生の時まで弱かった私が仙台育英に入学し、試合で入賞できるレベルまで強くなることができました。部活動を通して、継続し続けることの大切さを感じました。

■小論文は積極的に先生方に 指導をお願いします

私は夏休みなどの長期休暇を利用して、仙台育英で開かれていた小論文や面接などの対策をする講座に参加してきました。最初は面接や小論文の書き方など、全然わからなかったのですが、講座は少人数なので、先生が一人ひとりに詳しく分かりやすく教えてくれるので基本からしっかり学ぶことができるので進学を考えている人は絶対に講座に参加した方がいいです。また本は一冊でいいので読んでおいた方がいいです。面接の際に聞かれるので読んでおくことをお勧めします。大学によって小論文の問題の出し方は違いますが、東北福祉大学では、文章から読み取って解く問題ではなく、ひとつの言葉が問題として出題されます。例えば、「意識改革」についてや、「少子高齢化」についてなどといった問題が出題されます。

私が行ってきた小論文の対策は放課後などを利用して国語科の先生などに教えてもらいながら小論文を完成させるというものでした。最初は自分一人ではなかなか小論文を完成させるのは困難だと思うので、積極的に先生に聞きに行った方がいいです。小論文は回数を重ねるごとに上達していくのでお題を変えながら何回もやってみるといいかもしれません。

今は部活動のことで頭がいっぱいの人が多いと思いますが、夢実現のために日々頑張ってください。

東北文化学園大学 総合政策学部 総合政策学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
宮城野中出身

周りが続々と合格していく中でも 自分のペースで受験に向け準備しました

■大学について詳しく知るため 頻繁に足を運んでいました

高校1年生の時から大学に進学することを決めていました。初めは大学生活を楽しむ兄から影響を受け、私自身も大学生になりたいといった軽い気持ちから大学を目指していました。しかし、大学の種類は私の想像を超えていたため、進学先を選ぶだけでもかなり大変でした。また、自分が決めた大学の特徴、環境、設備などを詳しく知ることも受験をする上で大事だと思いました。そのため、オープンキャンパスを含め大学で行われるイベントには必ず参加していました。

そして、大学について調べるだけではなく、学校生活では昼休みや放課後、授業の公認欠席などを利用して、先生との面接練習や小論文対策を行いました。私は大学で経済系を学びたいと考えていたため、面接練習では経済学に詳しい先生方をお願いしていました。小論文対策では、大学の過去問題を繰り返し解いたり個人で購入した問題集で練習をしていました。解き終わった答案用紙は小論文の授業を受け持っている先生に渡し、返却されるたびにアドバイスをもらい学習していました。

上記のような面接練習と小論文対策は夏休み中に行いました。私は長期休業に入る前までは、受験先に提出しなければならない志望理由書や出願書類などの作成や出願手続きを行い、受験に向けての準備をしていました。それぞれの書類を作成する際には、ボールペンを使用するためミスをしないように気をつけました。

■提出書類を万全に用意し 焦らず準備しましょう

次に私の志望していた大学ですが、最初は別の大学に進学を希望していました。しかし、第一次試験での面接結果はC判定であり、続く第二次試験の小論文と面接では失敗に終わりました。この時私にとっては人生で初めての挫折でした。ですが、次に受験する大学の出願締め切り日が間近に迫っていたため、最初の受験で失敗したことに後悔する時間も無く、私は急いで出願書類などの作成に取り掛かりました。試験内容は小論文と面接でしたが、前回の大学受験での失敗を生かし、より詳しく丁寧に練習していた為、今度は合格することができました。

確かに自分が大学受験の準備期間中、周りでは合格者が増えており焦りもありましたが、とにかく自分のペースで取り組むことを崩さないようにしていたことは今でも記憶に残っています。

したがって、大学受験を控えている後輩の皆は、くれぐれも体調管理には気をつけて、大学へ提出する書類等はミスの確認を行い、しっかりと揃えて出すようにしましょう。

東北医科薬科大学 薬学部 薬学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
五橋中出身

3年間の学習内容を繰り返し復習し 基礎を定着させることが大事です

■チーム医療を専門的に学び 病棟薬剤師になりたい

将来薬剤師になりたいと思っていたので、最初は国公立大学を目指していました。しかし、私の希望していた国立大学の薬学部は、入学して3年の時に4年制に進むか又は6年制に進むか、つまり薬剤師の国家試験の受験資格が貰えるかが決まるということでした。その事を考えた時に、6年制に確実に入りたいと思い、6年制の学科がある私立大学に第一志望を変更しました。そして、東北医科薬科大学薬学部薬学科はチーム医療に関するカリキュラムが整っており、病棟薬剤師として医療現場で活躍したいと考えていた私にとって最適な大学であると思い、さらにオープンキャンパスでは充実した設備や雰囲気が高く、国家試験の合格率の高さなどから、この大学を第一志望にしました。

■自作の単語帳やノートは 私の努力の証です

この受験で大事なことは、「繰り返し」だと感じました。公募推薦の受験科目は化学、英語、面接で、特に化学の配点が高かったため、化学を重点的に勉強しました。3年の初めの頃は1, 2年の時に習った内容が定着していませんでした。なので一通り勉強し直してノートにまとめてから「セミナー」を解くようにしました。ノートにまとめることで、「なんとなく分かっていたもの」が自分の言葉で説明するので「確実に分かったもの」となり、脳に定着させることが出来たのだと思います。また、「セミナー」は何度も繰り返し解きました。色々な問題集を何度も解くのではなく、一冊の問題集を何度も解き完璧にすることで、苦手な問題をなくしていったり、基礎の定着に繋がったのだと思います。さらに、英語の方でも英単語や文法などを単語帳にまとめて、電車や時間の合間に見て、繰り返すことも心がけました。そのおかげで少しずつ成績も伸びてくるようになりました。何十個もの単語帳や何冊ものノートは、今では私の誇りです。

そして、入試の1カ月前位から、先生に過去問を解いて間違えた所や分からなかった所を一つ一つ丁寧に教えてくださったり、色々なアドバイスをしてくださったりなど、熱いご指導をいただいたおかげで、自信もつき、受験直前の模試では良い成績を取れるようになりました。このように私の受験に関わった先生方にとっても感謝しています。

今まで積み重ねてきた努力が最後は自分自身を支えると思います。最後まで自分を信じて頑張ってください。応援しています。

仙台赤門短期大学 看護学科に
公募制推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
多賀城中出身

今やるべきことを後回しにせず きちんと取り組むことが大切です

■準備不足による不合格を 教訓に対策を徹底しました

小さい頃から看護師を目指していて、とりあえず看護について学べる所に進学したいと考えていました、そこで、パンフレットを見たり学校説明会などに参加して、AO入試で仙台青葉短期大学看護学科を受けることに決めました。しかし、入試が近いのにも関わらず、入試科目である面接と小論文の練習を余りせずに受験しました。準備不足のため不合格となり、次に受ける大学を決めるか、また同じ大学を公募制入試で受けるかどうか迷っていた時に、担任の先生が、仙台赤門短期大学の人数制限公募の枠がまだあるということをお教えくださり、仙台赤門短期大学を受験することを決めました。前回の受験の時の準備不足の過ちを繰り返さないように、早めに面接と小論文の対策を始めました。面接練習は毎回違う先生に指導をしていただき、納得のいくまで練習しました。小論文対策では、毎日のように小論文を書き、放課後先生に添削してもらおうという繰り返しをしていました。受験当日は、今までやってきたことをここで出しきるという気持ちで臨み、不安はあったものの最後までやりきりました。合格発表までの一週間、心が落ちつかず不合格だったらどうしようというので頭がいっぱいでしたが、発表のとき、自分の受験番号があったときは、廊下で泣き崩れるくらいに嬉しかったです。

■行事や入試補助員などにも 積極的に取り組みました

大学受験を通して、高校生活3年間、授業に真面目に取り組むことや、定期考査の一つ一つの科目の勉強を怠らせずに、常に高得点を取って、評定を良くすることや、学校行事などに積極的に取り組むことが大切だと思いました。私は部活動で部長や、行事の実行委員、入試の補助員などの役職に就き、評定も足りていたので、面接など、受験する上で少しは楽に取り組みました。あの時やっておけば良かったと後悔しないためにも、今やること、やらなくてはいけないことはしっかり行うことが大切だと思いました。

2020 栄光への軌跡

2020年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



スポーツ推薦

明治大学、立教大学、中央大学、日本大学、
大東文化大学、亜細亜大学、東京国際大学、白鷗大学

明治大学 商学部 商学科に
スポーツ推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
新潟 木戸中出身

先輩方や仲間と過ごした部活動の日々で 多くを経験し人として成長できました

■キャリアサポートの授業等で 効率よく進路学習できました

私は高校3年間文武両道につとめました。部活動では男子サッカー部に所属し、夏のインターハイ、冬の全国高校サッカー選手権に出場し、全国ベスト8を目指し、日々練習に励みました。1年次は、様々な環境の変化で苦悩し、なかなか試合で活躍することができませんでしたが、先輩や仲間の支えによって乗り越えることができました。また、2, 3年次は練習や遠征などで先輩方と行動することも多くなり、その中で、自分に足りない技術や集団生活において必要な礼儀やあいさつを学ぶことができました。サッカーを通して選手としてだけでなく、人間として大きく成長できた3年間となりました。また、日常生活から仙台育英サッカー部としての自覚を持って行動することにより、責任感を強く持つようになりました。この経験は社会人になった時、必ず役に立つと思っています。

学業では、フレックスコースの魅力である学校設定科目やキャリアサポートを利用し、自分の進路選択について深く考えました。学校設定科目やキャリアサポートの授業は週に2時間しかありませんが、毎時間しっかりと集中して取り組むことで、短い時間でも進路について深く学習することができました。

■仙台育英で身に付けた実力を 大学で存分に発揮したいです

仙台育英で得た経験を生かし、大学でもサッカー部に入部したいと考えています。私が進学する大学のサッカー部は、全国各地の強豪校出身ばかりで施設も充実しています。多くの選手が集まってくる恵まれた環境の中で、自分の実力を存分に発揮したいと考えています。また、新たな仲間と協力し合い大学日本一になりたいという気持ちが多くあり、その夢を達成するために仙台育英で身に付けた能力を大学で発揮したいと思っています。

私が大学に進学できたのは、私一人の力だけでなく担任の先生をはじめ多くの先生方の支えがあったからだと思います。仙台育英の代表の一人という自覚を持ち大学4年間精一杯勉学に努めたいと思います。

立教大学 経営学部 経営学科に
スポーツ推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
埼玉 戸田中出身

仙台育英の先生方から教えていただいた 感謝の気持ちを胸に大学でも努力します

■進学後も陸上を続けるために 推薦受験を目指していました

私は立教大学に進学することになりました。部活動を通してスポーツ推薦という形で大学側から声をかけていただきました。

私は陸上競技部長距離に在籍しており、大学へは陸上競技で進みたいと考えていたため、日々の練習において、大学でも続けるためには何らかの結果を出さねばと思い努力しました。また、チーム内の役職として副キャプテンを任せていただいたため、チーム内の目標であった全国高校駅伝を達成するため、チームが組織として円滑に機能するように努めました。

具体的には、練習面においては、一つ一つのメニューの意味をしっかりと考え、どのように行えば一番効果が出せるのかを意識して取り組みました。2年時は故障が多かったのですが、その中で復帰した時に少しでも役立つ事は何か、どうすれば防止できるかなどを考えて行いました。

副キャプテンとしては、後輩への指導にあたり、必要ならば厳しくはしつつも、一方的ではなく対話をする事を心がけ、心理的に負担とならないよう意識し、キャプテンの一步後ろで、または横に並んで補佐していくようにしました。

そういったことへの成果もあり、3年時はシーズン中故障せず、大学の方からも声をかけていただき、走ることはできませんでしたが、チームとして目標であった全国高校駅伝優勝を成し遂げることができました。

■高校で学んだことを大学でも 大いに生かしていきたいです

こうして高校生活を通して学び、取り組んだことは、大学に入っても、同じように箱根駅伝を目指す上で必ず生きてくることだと思います。また、高校の先生方から教わった感謝の気持ちというものも大学でスポーツを行う上で大切だと思いますし、これからの人生においてもとても重要なことだと感じています。様々な事があるかもしれませんがめげずに頑張ることが大切です。

中央大学 商学部 商業・貿易学科に
スポーツ推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
秀光中等教育学校出身

何事もやり切るという信念を引き続き 大学でも持ち続けていきます

■仲間と本音で話し合い

チーム全体で成長できました

私はスポーツ推薦で大学進学を志望しました。志望した理由は勉学では1年次から専攻分野に関する体験は大学卒業後と自分の夢に近づくと思ったからです。部活動では硬式野球部でレベルの高い所でやれるということで、更なるレベルアップを目指して磨いて行きたいと思いました。高校での部活動では毎日が順風満帆ではなく壁に当たることもあるが、学年でのミーティングがチームも自分自身も成長することができたと思います。今自分が思うチーム状況やこれからどうしていくかをしっかりと意見を言い合えることで協調性を学んで行けたと思います。本音で仲間と言い合えることで素直に受け入れられる気持ちになり、これから新しい環境に入ること、また新しい仲間に出会えることで大切にしていき、高校生活で学んだことを生かしていきたいと思っています。高校での生活をしっかりとやってきたことを信じて、大学生生活も工夫してやり切ることを貫きたいです。私の中で3年間で貫いた信念はやり切ることです。この信念を持っていれば大学でも曲げずにやっていけると信じています。

■目標を見失うことのないよう

明確な未来像を持ちましょう

私は高校生活で勉学にもやれることはたくさんあったと感じています。休み時間や移動の時間など有効に作れる時間はあったと思います。もっとやれることはたくさんあったと感じたので、時間の使い方を有効にしていきたいです。大学では自分の将来にどうやって近づいて行けるかをしっかり考え、選択して行くべきです。たくさん資料を見て調べることで大学で何を学べるのか選択肢が増えてくると思います。大学進学をするには、具体的な目標を持って計画を立てて行かないと行けないと思います。だから中途半端な気持ちでは目標を失ってしまうと思います。しっかりと工夫して未来像を考えておくべきです。

以上のことから、高校生活で学んだことを生かして大学でも出会いを大切に、やり切る力を付けてやっていきたいと考えます。

日本大学 経済学部 経済学科に
スポーツ推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
東京 浅川中出身

進路で悩んでいた時に支えてくれた 仲間の存在は人生の財産になりました

■プロ野球選手という夢に 近づける大学を選びました

私が、日本大学に進学する理由としては私の夢が叶いやすいという所に魅力を感じたからです。私の夢はプロ野球選手です。日本大学は歴史と伝統のある大学で多くのプロ野球選手を輩出しています。野球のレベルもとても高く、レギュラー争いがとても大変になるので、引退してからも日々練習をしています。仙台育英に入学して多くの方々と関わる機会が増え、多くの知識を得ることができました。大学では、これまでとは違く多くの時間が自分で考える自主性が増えてくると思うので、高校で得たことを生かして夢を実現させたいです。

■仙台育英で得た自信を胸に 必ず夢を叶えてみせます！

私は、仙台育英に入学して本当に良かったと思います。私の人生においてとても大きな財産となりました。そう思えたのはやはり仲間の存在がとても大きく、信頼深い関係というのは本当に一生忘れることのないと思います。私が進路のことで悩んでいた時も仲間に支えられ、こういった進路選択をすることができました。本当に仲間には感謝してもしきれません。

これからは、本当にこれまで以上にすべてにおいてレベルが上がりますが、仙台育英で学んだことを生かし、自分に自信を持って何事にも挑戦して行きたいと思います。私がここまで来れたのは、毎日バットを振り、これまでやってきたという自信を持っていたからであり、最高のプレーをするためには自分に自信を持つことだと感じたからです。私は、まだまだ力が無いのでもっともっと練習が必要ですが、一つだけ言えるのは、やはり自分に自信を持つことだと思います。私は、日々成長していき必ず夢を叶えます。みなさんも夢に向かって進んでください。応援しています。

大東文化大学 国際関係学部 国際関係学科に
スポーツ推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
埼玉 新座第五中出身

大学では今まで応援して下さった方々に 恩返しできる走りを見せたいと思います

■今までお世話になった複数の 陸上関係者の出身大学でした

私は元々陸上の長距離を続けるために仙台育英に入学をし、監督、コーチや地域の方々のおかげもあり少しずつ力をつけていくことができました。高校の合宿でよく大東文化大学に行くことがあり、大学の監督から大東文化大学に来て欲しいというお話をいただきました。大東文化大学とは今まで多く関わることもあり、中学校の校長先生や教師の先生などの出身校であったり、高校の陸上競技部の監督とコーチの出身校でもあるので、とても繋がりのある大学でありました。それも大学を決めた一つの理由ではありますが、もう一つ理由があります。それは私は警察を目指しており、大東文化大学は公務員に力を入れている学校でもあるので大東文化大学に決めました。

■進学への意識が高まると共に タイムも伸びていきました

大学に進むことにあたって陸上では大学生として練習をしていかなければいけないので、いっそう力が入り陸上でのタイムも伸びていきました。私は2年生まで駅伝メンバーに入ることも難しい選手であったのですが、3年生になり大学生になる自覚であったり最上級生としての自覚が出てきて、12月に行われた全国高校駅伝のメンバーに入ることができ、4区の区間4位、チームとしては優勝することができました。それも大学への意識があったからだと思います。

大学では、将来の夢を叶えるために勉強をしっかりしていき、幼い頃から目標や憧れであった大学駅伝でメンバーとして走れるように頑張っていきたいと思います。

そして、たくさんの応援して下さった方々に少しでも恩返しができるような走りを見せていけるように頑張っていきたいです。

亜細亜大学 経済学部 経済学科に
スポーツ推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
東京 八王子第一中出身

スポーツ推薦は内申点が重要なので 授業態度や成績を常に意識していました

■入学時からスポーツ推薦での
進学が目標でした

高校3年間は陸上競技部に所属し練習してきました。大学の入学試験では一次選考では実技試験、面接、小論文の試験だったので実技試験に向けては週6日間の部活で朝から走り込んで対策しました。面接に向けてはインターネットで面接の受け方を調べて礼儀などを覚えました。小論文に向けては3年の4月学校設定科目で小論文の授業を受け対策しました。その結果一次試験に合格することができました。2ヶ月後に最終試験の二次選考があり、そこでは面接と小論文の試験があったので、一次試験の面接、小論文で大学の方から教えていただいた注意点や改善点を直し対策しました。二次試験では一次試験に比べ面接での質問量は増え、小論文での問題の難易度が上がり難しかったがなんとか合格することができました。また、スポーツ推薦では出願するときに内申点が足りないと出願できないので入学時からスポーツ推薦での大学進学を目指していた私は、1年生の時から授業態度やテストの点数を取れるように勉強し、高い内申点を取れるように頑張りました。

スポーツ推薦以外の入試についてはよく分かりませんが、学校での授業態度が良く家でもしっかり勉強しておけば大丈夫だと思うので頑張ってください。

東京国際大学 人間社会学部 人間スポーツ学科に
スポーツ推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
秀光中等教育学校出身

仙台育英で学んだことを誇りに 信念を持って大学生活を送ります

■野球の実力を試す意味で スポーツ推薦に挑みました

私は将来スポーツトレーナーや体育の先生になるという夢を実現させるために大学へ進学することを決めました。また、小学3年から高校3年まで続けてきた野球を高いレベルでもプレーしたいと思ったので、自分に適している大学を選択して色々な事を調べてオープンキャンパスや野球のセレクションなどに参加して埼玉県の東京国際大学をスポーツ推薦で受験し、合格することができました。私がなぜスポーツ推薦で受験をしたかというところ小学3年から続けてきた野球の中で今までの経験と自分の野球の実力を試すという意味があったからです。結果、野球部のセレクションを受けてスポーツ推薦をいただくことができました。セレクションを受けたことによって自らのモチベーションも上がり向上心が生まれました。仙台育英で培った技術を活かすことができました。

■カリキュラムや施設を十分に 調べ進路を決定しました

大学に進学するにあたって中途半端な気持ちではなく信念を持って準備していかないといけないと思いました。また一つ大人へと近づくのでしっかりとした自覚のある生活を送っていきたいと思います。学校生活では多くの資格や学びを得られるように積極的に授業を受けていきたいと思います。部活動では、初心に戻り何事にも信念を持っていきたいと思います。また、仙台育英で学んだことや知識を他に発信していくと共に自分にはなかったものや欠けているものを吸収していきたいと思います。

大学を決めるにあたって私は将来の夢に必要な資格や学びがある大学を優先しました。オープンキャンパスなどに積極的に参加し大学のカリキュラムや施設を知った上で決めた方が正しい選択をすることができると思いました。どの大学を選ぶにしても自らが後悔しない選択をしてほしいと思います。

仙台育英で3年間学んだことを大学で活かしていき、仙台育英で良かったと誇れるように大学生活を送っていきたいと思います。

東京国際大学 人間社会学部 スポーツ科学科に
スポーツ推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
古川南中出身

人とのつながりや目標達成までの過程が いかに大切かを3年間で学びました

■長所を伸ばすことを目的に 野球の練習に励みました

私は東京国際大学にスポーツ推薦で入学することができました。その中で私は毎日の練習で自分の長所を伸ばすことを考えて練習に取り組んできました。短所をなくす練習も大切だと思うのですが、私は周りより自分の得意なものを伸ばすことによって指導者や大学の先生方の目に留まりやすいと思い、そのような考えで取り組んできました。具体的なものは、ボールを遠くに飛ばすことが得意だった私はどのように振ったら周りより飛ばすことができるのか、強く速い打球が飛ぶのかなどを考えていました。毎日の練習の中で昨日より飛ぶ日、逆に昨日より飛ばない日などもありました。なぜ飛んだのか、なぜ飛ばなかったのかを自分で考えたり分からなかったら自分からコーチの方に聞きに行き指導していただいたりもしました。

■スポーツで学んだことを 次世代に伝えていきたい

大学進学を志望した理由は、スポーツのしゅみや大切なことを学びたいと考え、その環境が整っている大学で学びたいと思ったからです。小学生の頃から野球を続けてきてスポーツを通して学んだことがたくさんあり、それを次世代の人達に伝えて行きたいと考えました。私は大学は学びたいことを徹底的に学べる場所に良さがあると思っています。私の行く大学では私の将来なりたいことに対して必要なカリキュラムが備わっていると思い選びました。スポーツの理論や仕組みをしっかりと学び、大学生活をよりよいものに行きたいです。

私にとっての高校生活は今後の人生において必要なことをたくさん学ばせてもらった3年間となりました。特に部活動でのチームメイトとの横のつながりが大切だということ、目標を達成することよりもそこに行くまでの過程が大切なのだということ。これは社会に出てからも人とのつながり、仕事では達成するまでの日々の積み重ねにつながって来ると思いました。3年間高校で学んだことを糧とし、大学や社会など今後の自分の進路に対してのエネルギーとして行きたいと思います。

白鷗大学 経営学部 経営学科に
スポーツ推薦で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
秀光中等教育学校出身

短期目標を掲げ達成を目指すことを 繰り返しながら成長できました

■何事も強い意志を持って 乗り越えてきました

私が大学進学を目指した理由は、高いレベルで野球をし、仲間と切磋琢磨して長く野球を続けたいと思ったからです。そして、人として尊敬できる先輩が白鷗大学に進学したことと、調べてみた時に多くの先輩方が社会人野球やプロ野球に進んでいることを知り、白鷗大学に入りたいという思いを強くしました。

そのため私が意識してきたことがあります。それは目標設定の仕方です。私は最終的にたどり着きたい目標の他に、1週間位努力すれば達成できる目標などと細かく目標を立ててきました。それをすることによって達成できた時の嬉しさを味わうことができ、次も頑張ろうと思えるようになります。また、達成することができなくても、すぐに反省をすれば何が足りなかったのかを考えることができ次に生かすことができます。明確な目標があれば一日一日が充実し成長の速度も上がると思うので、部活に限らず試してみても良いと思います。

もう一つは、我慢することです。人はずっと成長しているということはないと思います。ですが、どんなに辛いことがあっても自分の意志を曲げずに乗り越えた先に大きな成功が待っているということを信じてやり切りましょう。

■進路を決めたら計画を立て 我慢強く取り組みましょう

私はこの二つを主に意識して3年間やってきた結果、最後の年は硬式野球部の主将をやらせてもらい、夏の甲子園、国体へと出場することができ、とても充実した部活動にすることができたのと同時に勉強面でもしっかりとした成績を残すことができました。

みなさんも、進路を早い段階から考えて、どのレベルに挑みたいと思うかは人それぞれだと思うので、決めたらそこへ受かるにはどの位の量をいつまでに勉強するのか、しっかりと計画を立て、そこに向かって我慢強くやり切って自分の進路を達成できるようにしましょう。

2020 栄光への軌跡

2020年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



AO 入試

弘前大学、福島大学、横浜市立大学、宮城大学、
津田塾大学、東北学院大学、東北福祉大学、
東北工業大学、東北文化学園大学、仙台青葉学院短期…

弘前大学 医学部 医学科に

AO 入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒

五橋中出身

ライバルたちにどこで差をつけるかで 勝負は決まります

■コミュニケーション能力が試される

ワークショップを重視しました

私が受験した弘前大学医学部の AO 入試は、センター試験の得点も関わるのでセンター対策に全力を注ぎました。センター対策に集中しすぎないように、日頃から復習するのも大事です。特に、数Ⅲの積分は解く感覚を忘れないように日頃から数問でも計算問題に触れることを心がけました。

弘前大学医学部医学科の AO II 入試は、学力の他に、即時的な理解力・思考力・表現力のほか、コミュニケーション能力も試されます。私は、この中で特に差がつくのはコミュニケーション能力が見られるワークショップだと感じました。受験生は医学部を目指す人ばかりなので他ではなかなか差がつきにくく、人間性が関わってくるここが勝負どころだと考えたのです。ライバルたちに対抗するには、その場で提示される話し合うテーマについていかに冷静に、論理的な思考ができるかです。また、自分の意見を主張するだけでなく、他の受験生の発言もきちんと聞くことも大事にしました。

■模試は自分のレベルを確認し、

勉強法を見直すためのもの

大学入試への勉強にあたって大切なのは、自分の可能性を見切らないこと。模試の結果に落ち込み、志望大学を下げるのは簡単です。でもそれに一喜一憂するのは間違っています。模試の本来の目的は、ライバルたちの中で今の自分のレベルを確認し、勉強法を見直したり、伸びの具合を見ることです。

最後になりますが、志望大学を決めるときは、行ける大学を選ぶのではなく、行きたい大学を選んでください。その際は、そこで何をしたいか、将来はどんな職業に就きたいかを考えてみるのもいいでしょう。また、オープンキャンパスに参加して大学の雰囲気を知るのも有効だと思います。

勉強はやればやっただけ伸びます。最後まで諦めず、自分の秘める可能性を信じて頑張ってください！

福島大学 理工学群 共生システム理工学類に
AO 入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
福島 喜多方第二中出身

色々なことに挑戦し失敗もしましたが 高校生活の全てが今は良い思い出です

■将来地元で就職することを 見据えて進路を決めました

1年生の時から、福島県内の大学に進学しようと心に決めていました。私が福島県出身であり、将来は地元で就職したいと考えていたからです。仙台育英では理系選択でしたが、大学では文理どちらも学びたいと考え、文理の枠を超えて興味のある講義を受講できる福島大学を志望大学として選びました。

福島大学のAO入試は、一次が書類審査で二次が筆記試験とポスター発表です。書類審査は調査書と志望理由書などから評価されるので、私は毎日学校に行き、真面目に生活することを心がけました。二次の筆記試験対策としては、過去問を繰り返し勉強しました。この筆記試験の問題の大半は基礎的な問題なので、普段の授業をしっかり聞いていれば大丈夫だと思います。最後に、ポスター発表対策です。私はこの準備には時間が掛かると考え、夏休み前から取り組みましたが、結局出願期間中まで時間を使いました。まず始めにパワーポイントでポスターの下書きを作り、担任の先生と何度も話し合いを重ね、専用の機械で印刷し、ポスターを作りました。その後、友達や先生の協力の下で発表練習を行い、本番に向けて準備しました。

■周りの人達の支えを大切に 成功を掴み取ってください

これらの経験から、二つのことを学びました。一つは早めに準備することの大切さです。もし私が準備を始めるのがもう少し遅ければ、絶対に出願できなかったと思います。これからAOや推薦を狙っているならば、準備は1ヵ月以上取るべきだと思います。二つ目は、周りの協力のありがたさです。幸運なことに私は人に恵まれ、先生や友達、家族の大きな支えと応援がありました。正直、AO対策に取り組んでいた3ヵ月の間は、伝えたいことを上手にポスターにまとめられない苛立ちや次々に合格していく友達に対する焦り、不合格だったらどうしよう、という不安感で心が押し潰されそうでした。そんな私を励まし、支え、寄り添ってくれた人たちへの感謝は言葉では言い表せません。皆さんにも、支えてくれる人はいるかと思えます。その人たちの支えを大切に、己の成功を掴みとってください。

最後にこの仙台育英に入学してから、多くのことに挑戦しました。1年生の時はハワイ研修に行き、2年では部活の部長を務め、3年の秋にAO入試に挑戦しました。その中で、たくさんの失敗をして、たくさんの後悔をして、たくさんの苦しみを経験しました。しかしその思い出全てが、今となってはいい思い出です。仙台育英に来てよかったと、心から思います。これを読む皆さんも、仙台育英ではぜひ多くのことに「挑戦」してみてください。たくさんの人と関わり、有意義な日々を過ごしてください。みなさんが実りある3年間を過ごせるように応援しています。

横浜市立大学 国際教養学部 国際教養学科に
AO・IB 入試で合格

令和2年3月 外国語コース卒
佐沼中出身

やる気がでないと感じた時は 「勉強」について考えてみてください

■勉強する意味を考えた時から 向き合い方が変わりました

「何故、私は勉強をしなければならないのか」という素朴な疑問を抱いた時から私の勉強に対する認識は変わりました。それまで、勉強は義務であり、人間として生きる上で背負った責任であると考えていました。しかし、先述したような疑問を抱き、勉強の意義や勉強と将来の関係性について考察することにより、今までのような受け身の学習ではなく、自主的な学びを開始することが出来ました。もし、勉強への意欲が低くなってしまったときには、今一度「勉強」について自分なりに考えてみると、あなたなりの糸口が見つかると思います。

■IB 試験対策と受験対策の 両立はとても大変です

私は、IB 入試と AO 入試で第一志望の大学に合格することが出来ました。ですが、合格するために、特別なことは行っていません。私は、入学時から国際教養学部に入りたいと考えていたため、1年次から積極的に国際教養学部がある大学のオープンキャンパスに参加していました。TOK (IB の科目) 的に言うと「直感」を重要視する私としては、実際に学内の雰囲気を経験することは、大学生活を継続するために重要だと思います。また、IB クラスに所属している生徒は、IB 試験対策と受験対策の両立は、時期によっては大変だと思いますので、早めに試験対策を行っておくと良いと思います。そして、大学受験及び大学での学びにおいては、思考力やプレゼンテーションスキルなどの実践スキルももちろん重要ですが、それらのスキルを十分に発揮するためには、膨大な知識量が必要となります。その為、疑問に感じたことは、関連する論文やニュースを調べてすぐに読むようにしていました。初めのうちは読み慣れないかもしれませんが、慣れてくると日常の一部になりますので、皆さんもぜひ試してみてください。最後になりましたが、大学受験においては、明確な意志を持つことが重要だと思います。皆さんがベストを尽くせるように、応援しています。

宮城大学 看護学群 看護学類に
AO 入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
宮城教育大学附属中出身

「絶対に合格する」という強い気持ちで 目の前のことに全力で取り組みました

■学習室での自習を習慣にし 定期テストに備えていました

私は宮城大学を第一志望にしていたため、少しでもチャンスを増やしたいと思い AO 入試を受験しました。

仙台育英で過ごした3年間は常に目の前のことに全力で取り組んだ日々でした。普段は年4回の定期テストで良い点数を取ることを目標に放課後に学習室で自習をすることを習慣にしてきました。学習室では周囲の人も集中して机に向かっているため、良い刺激を受けました。AO入試では評定も見られるため、定期テストに1年生のときから全力で取り組んできて良かったと思っています。AO入試を受験すると決めてからは、先生方に自己推薦文の添削や面接練習をお願いしたり宮城大学を志望している人で集まり、グループディスカッションの練習をしたりしました。AO入試の対策をしている間は一般入試の勉強が思うようにできず、不安になることもありましたが、“絶対に合格する”という強い気持ちを持って、目の前のことに全力で取り組みました。

■先輩方の体験を見聞きして 大いに参考になりました

私は部活動や生徒会活動をしておらず、検定等も受けていなかったため、自己PRが弱いと感じていました。しかし、高校を通じて申し込んだ「ふれあい看護体験」や宮城大学の「高大連携講座」に参加していたことが自分の強みになりました。他にも、在卒懇で卒業生の先輩方のお話を聞いたこと、先輩方が書いてくださっていた入試振り返りレポートを読めたことは入試を受ける上で大変参考になりました。

仙台育英には、高い志を持った仲間、熱心に指導してくださる先生方、そして素晴らしい学習環境が整っています。何度も諦めそうになりましたが諦めずに受験し、合格することができて本当に良かったと思っています。家族をはじめとして、支えてくださった全ての方に感謝しています。ありがとうございました！

宮城大学 食産業学群 食資源開発学類に

AO 入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒

寺岡中出身

準備と積極性がいかに大切なのかを AO 入試を通して学ぶことができました

■想定外の AO 入試受験に

検定の取得が役立ちました

私が宮城大学の AO 入試を受けて学んだことが2つあります。1つは準備をすることが大切であることです。私は今年の夏休みまでずっと一般で受けるつもりでした。しかし AO 入試や推薦入試を受けるかもしれないと思い、英検や数検を取得しようと考えました。私は評定は決して高くありませんでした。そこで3年生の時英検と数検を取得しました。どちらも2級を受験し合格しましたが、当時は AO 入試や推薦入試は万一の場合と考えていたので、資格も念のため取っておくぐらいの気持ちでした。しかし3年の夏休みの三者面談で担任の先生から宮城大学の AO 入試を受けてみないかと提案されたので受けることにしました。その時役に立ったのが英検や数検の勉強や取り組みの体験です。私はこの体験をベースとして自己推薦文を書きました。私はこのことからどんな事でも取り組みば無駄にならないんだと思いました。

■課外活動に積極的に取り組み

色々なことを学びました

2つ目は、どんな物事に対しても積極的に取り組むことの大切さです。特別進学コースでは「サイエンス・コ・ラボ」という秀光との共同講座があります。実際に大学教授が来て下さり、大学で行っている実験をというものです。ここで行う実験は、高校で行うものとしてはレベルが違い、非常に難しい本格的な実験ばかりでした。私はここで積極的に、大学生の方々の話を聞き、自分から実験を手伝いました。また探究講座も私を大きく成長させてくれました。私はこの活動で班長になり、活動を進めました。班全員の意見をまとめるのは大変でしたが、全員の意見を調整し、テーマを決め、順調に活動を進めていくことが出来ました。この活動から学んだことは、リーダーとしての役割です。リーダーとして、一つの目的に向かってチームをまとめるためには、他人の意見を尊重し、極力みんなの理想に近づけていく事、また他人と協調しつつも自分の意見をしっかり持つことが重要であることを学びました。このことから色々な事に取り組みば、色々な事が学べるということが分かりました。

最後にこれを読んでいる人は「準備すること」そして「物事に積極的に取り組むこと」この2つを意識して行動してみると良いと思います。これを読んで参考にしてみようと思ってもらえれば幸いです。

津田塾大学 総合政策学部 総合政策学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 外国語コース卒
矢本第一中出身

限られた時間で一つひとつのことを 改善し着実に前に進むよう心がけました

■将来は世界で誰かの役に立つ 仕事に就きたいです

私が津田塾大学総合政策学部を目指した理由は、法学、経済学、女性学などの多角的分野から政策学を学べる環境が充実していたからです。幼い頃からボランティアなどを行っており、英語も好きだったので将来は世界で誰かのために働きたいと考えていました。IBのCASでウガンダの女の子の支援を行った時、ある問題に向けた解決策を考え、それを行動に移すことの重要性を実感し、政策学に興味をもちました。津田塾大学では、英語で交渉力を身につけられる講義やデータサイエンスなどの授業が多く展開されているので、将来の目標を実現できる最高の環境が整った大学だと思っています。

■小論文対策は課題解決策の 引き出しを増やしました

AO入試での挑戦はリスクがありましたが、準備を整え、挑むことができました。IBとの両立で限られた時間しかなかったのが大変でしたが、朝のHR前の時間や放課後の時間を利用して、先生方に面接練習や小論文の添削をして頂きました。自宅でも復習を重ね、着実に前に進めるよう一つひとつのことを改善していきました。最後までサポートして下さった先生方にはとても感謝しています。

小論文対策としては、先生方からの添削に加え、公務員試験の問題を参考にしたりして、課題に対する解決策の引き出しを増やしました。知識が増えることで、小論文にも面接にも役立ちました。

部活動では、仙台育英獅子太鼓部に所属し、3年生の文化祭まで活動していました。高校1年次にミクロネシア連邦に渡り、演奏を披露してきました。国を越えて、音楽や文化を理解し合う重要性を学ぶことができ、とても貴重な体験になりました。

明治学院大学 法学部 消費情報環境法学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
秋田 由利中出身

部活動と勉強の両立はとても大変ですが 努力することに大きな意味があります

■先生方の教科アドバイスが とても役立ちました

高2の冬から大学進学を本格的に考え始めました。部活中心の生活を送る忙しい中でも、朝の30分や、寝る前の30分など、コツコツと勉強を積み重ねてきました。しかし、周りの受験生と比べると差を感じました。特に、英語の単語・熟語・文法です。私は、このような基礎知識をもっとやっておけばよかったと後悔しました。なので2年生のうちにやれば、他の受験生に置いて行かれることもなく、逆にリードすることができます。

次に頑張ったのは過去問の分析です。何から勉強したらいいかわからない人は、まず過去問の復習をすれば合格に大きく近づくと思います。また、わからないことや少しでも疑問に思ったことは、何でも担任の先生や教科担当の先生方に聞くことも大事です。実際に聞いてみると、答えだけじゃなくアドバイスまでしてくれるので、積極的に聞いた方が良くと思います。

■指定校推薦以外の受験手段も 頭に入れておきましょう

本校では、指定校推薦がとても充実しているので、指定校推薦を使うのは良いと思います。私も初めは指定校推薦をとるのが目標でした。しかし、指定校推薦がとれなくなりAO入試での合格を目指すようになりました。私の場合は、指定校推薦のことを頭に入れつつAO入試に向けての面接練習をしたり、基礎力アップのためにコツコツと勉強をしてきました。なので、指定校推薦での合格を目指している人は、AO入試や一般受験なども頭に入れながら、受験勉強に取り組めば良いと思います。

私は、部活動と勉強の両立がとても大変でした。しかし、どちらかを怠ってしまうと、中途半端な結果で終わってしまいます。両立を達成できると自分にとって大きな自信にもなります。なので、両立を頑張ることは、一番大変な受験方法だとは思いますが、大きな意味があると思います。がんばってください。

東京農業大学 生命科学部 分子微生物学科に

AO 入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒

富沢中出身

高校生活を通して好きなことを見つけ 精一杯取り組みれば結果はついてきます

■微生物への関心が高まり

生物の勉強に明け暮れました

私はAO入試で大学に合格することができました。私がAO入試で合格できた理由には強い思いがあったからかもしれません。私は高校2年生の頃から生物の授業が好きでした。細胞レベルの話から自然環境や生態系へと広がる生物学。中でも私は細胞内共生説という説にとっても心がひかれました。目には見ることのできない世界に興味をわき、私は微生物について研究したいと思うようになりました。私が仙台育英に入っていなければ、気付かなかったかもしれません。このような思いを抱いていたので、私は高校2年生のときは生物の勉強ばかりをしていました。そこから高校3年生になり、受験について考えるようになりました。

■AO入試では志望理由の

具体性や独創性が重要です

私は、はじめは一般入試で行こうと考えていましたが、AO入試があることを知り、チャンスを増やすためにもAO入試を受けようと考えました。私にはAO入試に2回のチャンスがありました。それでもAO入試は決して簡単なものではありませんでした。AO入試を受ける人は皆、その学校を第一志望としている人たちで、生物が好きな人、そして将来についてある程度考えている人でした。私は1回目のAO入試で不合格になりました。AO入試には、他の人にはないような独創性や内容の具体性が必要です。いくら「大学に行きたい」と思っても、具体的な目標や計画がなければ入る事はできないのだと実感しました。そこから1ヵ月後、私は2回目のAO入試を受けに行きました。私が出発するまで考えていたことは、「微生物が好きだ」ということでした。どんなに良いことを言っても、それが自分の内から出てくるものでなければ、その後には何も続かず、自分の本当に伝えたいことからずれてしまいます。たとえ、それが現実とはかけ離れていても、自分の中に核となる思いがあれば、乗り越えることができます。

私は、高校2年生の頃に生物ばかりの勉強をしていたことに後悔はありません。私は、高校生活の3年間は自分の好きなものを見つけることが重要だと考えています。自分の興味があるものを見つけ、それを精いっぱいやってみようとする。そうすれば、結果が付いてくるのだと思います。AO入試は、自分の思いを伝えることのできる良い機会です。一般入試を受けるだけでは気付かないことに気付くことができます。

東海大学 国際文化学部 地域創造学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
秀光中等教育学校出身

何かに熱中することで毎日が充実し 将来の道も自ずと拓けていきます

■小学生の頃から今までずっと 野球に熱中してきました

私の高校生活は「高校野球」に熱中した3年間でした。私は人生において一番大切なことは、何かに熱中することだと思います。何かに熱中するからこそ、充実感のある人生が送れることができ、その後の人生の方向性へと繋がっていくからと考えるからです。なので、この作文を読んでいる人には何かに熱中してほしいと強く思います。

周りの友達ゲームなどで遊んでいましたが、私は野球が大好きだったので、公園でひたすらボールとバットを使って遊んでいました。そんな私は、野球に熱中していたおかげで私立中学の強豪野球部からの話を受けることができました。この話も今思えば野球に熱中していたからだと思います。その後も仙台育英に進学し、野球に熱中し続けたおかげで大学へもスポーツ優秀者型AO入試で進学できました。私は小学生の頃から現在までずっと野球に熱中してきたのです。今までの自分を見つめ返すと野球に熱中していたから人生の道が開かれていたのだなと思いました。私はこれからも野球に熱中して行きたいと思います。そして将来は野球に携わる職に就きたいと考えています。何かに熱中することは将来の道を開くことだと信じているので、これからも野球に熱中して行きたいと考えています。

以上の経験から、私は人生において一番大切なことは何かに熱中することだと強く考えています。なのでこの作文を読んでいる人は、熱中することを見つけて熱中し続けてほしいです。そうすることによって、充実感のある日々を送れて、その後の人生の方向性が決まってくると思います。

帝京大学 経済学部 経営学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
青森 平賀西中出身

進路決定につながることもあるので オープンキャンパスに参加しましょう

■大学に進学して学びたい事が 講義体験で見つかりました

私は、夏休みに入ってもどこの大学に行くか決めておらずあせっていました。その時、6月に先輩達が来て自分達の大学までの体験を聞いたのを思い出して、とりあえずどこでもいいからオープンキャンパスに行こうと思いました。一応、志望学科は決めていたので、いろんな大学の資料を集めていました。その大学の中から自分のレベルに合いそうなところの大学のオープンキャンパスに行きました。そこで東京に行ってみたいというもあり、東京の帝京大学のオープンキャンパスに行きました。そこで受けた体験授業でスポーツと経営についての関わりなどを知って、それまでなんの夢もなかったのですが、スポーツと経営について学んで、スポーツを盛り上げたいと思いました。他にも大学のキャンパスツアーなどを通して大学の雰囲気や、設備なども見てここがいいと思い、行くことを決めました。今、どこの大学に行くか迷っている人もとりあえずいろんな大学の資料をとって気になったところのオープンキャンパスに行くといいと思います。

■面接では緊張することなく 笑顔でやりとりできました

次に、受験方法などを調べました。私の志望学科は指定校推薦がなかったのでAO入試で行くことになりました。私の学部の倍率は約4倍あったので勉強を始めました。AO入試は面接が大事なので先生に頼んで過去の面接内容を調べてもらったり、先生と面接練習をしました。また、志望理由書もあり、それが一番苦労しました。志望理由書は一度書いてオープンキャンパスに持っていくと、大学の先生がアドバイスしてくれるので助かりました。書くといいことは将来の夢や目標を書いて、そのためにこの学校で何を学びたいかを書くといいです。面接については、私の場合は緊張もしていなかったので笑顔で会話することができました。また、AO入試の場合自己PRが大事なので自分の長所を話せるようにするといいです。志望理由書と面接の他に筆記試験もあるので勉強も必要です。オープンキャンパスにはぜひ行くことをお勧めします。

桜美林大学 ビジネスマネジメント学群に
AO 入試で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
秀光中等教育学校出身

受験では「この大学に入るんだ」という 強い意志が何よりも大切です

■大学説明会で直接話を聞き 入学後イメージできました

私は4月に桜美林大学の大学説明会に参加しました。そこでじっくりと説明の内容を聞くと、自分の学びたいことややりたいことが叶えられると思いました。それですぐ受験しようと決めました。それまでは実際に話を聞くことで、何ができて、どこが良いのか、ということが明確になりました。私は将来、会社経営者か空港で働くグランドスタッフになりたいと思っています。そのため大学では留学も視野に入れていました。その両方の志望を実現できるのが桜美林大学ビジネスマネジメント学群だったのです。そこで、AO入試での受験に決め、すぐに8月末の出願に向け、5月から自己推薦書の作成に入りました。パンフレットやホームページ、大学のAO準備セミナーなどに参加し、3ヶ月弱くらいの期間で必要書類を作成しました。作成する上で、大学側がどんな人を求めているのか、その人材に自分がどれだけ合っているのか、どのくらい桜美林大学に入りたいのか、という点を重要視して作成しました。その結果一次審査に合格することができました。

■面接では大学への熱意を 明確に伝えましょう

そこからは、毎日面接対策に励みました。はじめに基本的なマナーや言葉遣いなどから勉強し始めました。ひとまずそれができるようになり始めてから、さらに予想される質問とその答えを紙に書き出し、その答え方を練習した上で先生方に模擬面接をしていただきました。最も大切にしていたことは、自分の考えをあいまいにしないこと、自分がどれだけ桜美林大学に入りたいと思っているのかを伝えるということです。入学後に生かしていきたいという思いをできるだけ伝えるようにしました。その練習の結果、無事、桜美林大学に合格することができました。

私は、前もって入念な準備をすることが合格へ繋がるということが分かりました。受験はしっかり準備した者の勝ちだと思います。そして何より、この大学に入るんだ、という強い信念が大切だとつくづく感じたのでした。

洗足学園音楽大学 音楽学部 音楽学科声優アニメソングコースに
AO 入試で合格

令和2年3月 外国語コース卒
中国出身

合格通知書を手にした瞬間に今までの 努力が無駄ではなかったと実感しました

■入学して日本語スキル強化の 必要性に気付かされました

小さい頃から声優になることに憧れていました。これは、どうしてこの大学に進学したいかの理由です。私は中国にいる間、ずっと日本のアニメを見ていて、日本の声優文化に深い興味を持っています。それから、声優になることを目標にして、中国国内で本格的な声優になりました。しかし、私の目標はこれだけではない、日本で声優になることが一生の目標です。そのために、私は日本に来て高校生活を始めました。

この大学に合格するために、私はずっと日本語のレベルを強化しています。このように積み重なって、私は日本語の交流能力に自信を持って、この大学のAO入試を申し込みました。その間、私は一時も努力を諦めずに、日本語、セリフ、演技を練習してきました。真の勉強法はありません。努力だけは裏切らないです。

私は合格しました。合格通知書もらった時、私の気持ちは言葉で表すことができません。ただ、黙って見えています。心から「どうやら無駄ではないよね」と思いました。

「人事を尽くして天命を待つ」皆さん、努力しましょう。

城西国際大学 国際人文学部 国際交流学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
南小泉中出身

面接は練習すればするほど自信になり 緊張しても体が勝手に動いてくれます

■通訳案内士という夢に

近づける進路を選びました

3学年に上がり、将来の夢として通訳案内士を目指していたので、国際コミュニケーションを学ぶことができる大学を探し始めました。城西国際大学に合格することを目標に受験まで学業はもちろん他のことにも力を入れました。

一つはボランティア活動です。仙台七夕前夜祭のボランティアや、地域のゴミ拾いボランティアなど、インターネットで検索し参加しました。参加した人が受け取ることができる活動証明証は、受験の際大学側に、自分の自ら進んで社会事業に無償で参加するボランティア精神を、たった1つの紙でアピールできます。それが自己アピールになり、イメージアップにもつながります。

二つ目は受験前の面接練習です。私はAO入試で小論文と面接が試験内容でした。9月1日が受験本番で、クラスで一番早かったです。そのため友達から受験の面接ではどのような質問をされるか、何を注意すればいいかなどの体験談を聞くことができませんでした。不安でいっぱいだったので、大学のパンフレットを隅々まで見たり、将来の夢について調べ、具体的な文章でまとめました。面接練習は礼儀作法だけを行いました。

■面接室に入った瞬間に

覚悟を決めて挑みました

そして受験当日、小論文は問題が決まっていたため、練習通りにきちんと書くことができました。昼食をはさみ、いよいよ不安だらけの面接、緊張で身体が震えましたが、面接室に入った瞬間、「もうここから逃げることもなんか出来ないんだ」と自覚し、すーっと緊張がやわらぎました。ハキハキと大きな声で、相手の目を見ることだけを意識し、ありのままに話をすることができました。終了してすぐは、うまく話せたか自信がなく、不合格を覚悟していましたが、1週間後の合格発表で私は志望大学に合格することができました。

今の私が大学受験について思うことは、大事なのは受験当日よりも、それまでの準備の積み重ねだと感じました。緊張しないということは不可能に近いです。そんな危機的状況になっても、事前の練習をしっかりとっておけば、体が勝手に動いてくれます。練習をした分だけ自然に自信へとつながります。これから大学受験という壁にぶつかる人は、あきらめず努力した分だけ合格に近づきます。頑張ってください!!

中央学院大学 商学部 商学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
秀光中等教育学校出身

大学ではきちんと目標を設定し 社会に出る準備をしていきたいです

■誰にも負けなくらい練習し 結果を出し合格できました

私が大学に進学しようと決めた理由は、11年間野球をやってきて、野球を職業として考えようと思ったからです。大学では勉強の面で教員免許を取り、野球ができなくなっても指導者になりたいと考えました。

私が高校で、大学でも野球を継続するために努力したことは、誰よりも練習することと誰にも負けなためにどうするかについて考えて高校を過ごしていました。PDCA サイクルをしっかりと考え、目標と目的について決めてから練習することによって無駄のない時間を過ごすことができました。常に誰にも負けないということを考えて生活をし、結果も出すことができたので、6月には大学からの誘いもあり大学を決めることができました。

■もっと時間を上手く使い 勉強しておくべきでした

私にとっての大学は、高校よりも自立することができ、社会人になるための準備、選択をすることができる場所だと思っています。なぜなら、大学に進む人は、それぞれの将来の目標、目的を達成するために入学する人が多いと思うので個人でしっかりとした目標を持っていないといけないところだと思います。また、私は大学で一人暮らしをするので、社会人になるために必要なところを多く学べる場所でもあると思います。

私にとっての高校生活は、もっとできたと思う3年間でした。なぜなら、3年間で怪我が多くて野球をすることができない月があり、満足にすることができませんでした。また、勉学の面でももう少し良い点数を取ることができたと思います。部活動の面で時間を上手く使うことはできたが、勉学の面では時間を効率良く使えていなかったと思います。

私は、このようにもっとより良いものにできたと思っているので、後輩達には進路のことをしっかり考えて残りの高校生活を過ごして欲しいと思っています。

帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
古川東中出身

大学でもスポーツを続けるのであれば 勉強する習慣をつけておきましょう

■熱心かつ親身な指導ができる 保健体育の教諭を目指します

大学進学を目指した理由は、将来保健体育の教諭とスポーツトレーナーの資格を取得し、保健体育の教諭になるという目標があるからです。中学校の頃の先生に憧れて保健体育の教諭を目指そうと決めました。その先生は何事にも熱く、分からないことがあったら最後まで教えてくれる先生です。私は将来その先生のようになりたいと思いました。

保健体育の教諭とスポーツトレーナーになるための勉強ができる大学を調べたところ、帝京平成大学は2つ同時に資格を取ることができ、就職率が高いところから帝京平成大学なら夢の実現ができると思い志望するに至りました。

私は高校3年間サッカー部に所属していました。入学当初はフィジカルが弱く相手にすぐ負けてしまいましたが、自分の決めた目標に向かい練習に取り組みました。その結果、2年生では選抜メンバーとして公式戦に出ることが多くなり、3年生では皇后杯の県大会で優勝することができました。そこで私は努力し続けることの大切さを学びました。

勉強面では、期末テストなどで赤点を取らないようにテスト前にはしっかり勉強してきました。単位を落とすと大学入試に響いてくるので勉強することは大事だと思います。

■将来の夢に近づけるような 志望大を見つけましょう

私はAO入試で受けました。内容は面接と国語のテストでした。面接重視だったのでたくさん練習してきました。色々な先生とやることで質問も違うのでとても身につきました。入試では練習の成果を生かすことができ、スムーズに答えることができました。

私にとって大学とは将来の夢を叶えることができる場所だと思います。勉強も大事ですが、私はサッカー部にも入るので文武両道できるようにしたいです。文武両道はとても大変だと思うけど部活だけでできて勉強ができなくては大学へ入ったとしても、ついていけないと思うので、今のうちにしっかり勉強し、大学に入った時のことを考えることが大事だと思います。

大学のことで迷うとは思いますが、少しでも将来の夢に近づけるところに行った方がいいと思います。後悔のないように大学入試がんばってください。

日本ウェルネススポーツ大学 スポーツプロモーション学部 スポーツプロモーション学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
秀光中等教育学校出身

仙台育英での3年間で学んだことは すべてが一生の財産になりました

■海外の人達に野球の魅力を 広めていきたいです

私はAO入試で大学進学を志望しました。この大学を志望した理由は主に二つあります。一つ目は外国語を学べることです。将来海外で野球というスポーツの良さを多くの人に伝えて広めていきたいと考えているからです。二つ目は私自身が野球選手として少しでも上のレベルで野球をするために一番合っている大学だと感じたからです。私は、高校ではあまり個人としての結果を残すことができなかつたので、大学では結果を残せるように最後までやり切つて後悔の残らないように選手として長く続けていけるように更なるレベルアップを目指していきたいと思いました。

■申込日を確認しておらず 大変な思いをしました

次に私が大学に合格するためにとつた対策と後悔したことを一つずつ紹介します。一つ目は自分の申し込み日をしっかり理解して、前もつて準備を進めておくことが大切だということです。私はまだ大丈夫と思つて、あまり申し込み日を理解していなかつたため直前になつて急いで準備をすることになり先生方にとつても迷惑をかけてしまいました。自分の時間をけづつて夜遅くまでやらないといけなくなつてしまつたのでとつても後悔しています。そうならないためには、申し込み日の1ヶ月前には準備を始めて計画的に進めていくことが大切だと思います。合格するためにした対策は、試験内容がプレゼンテーションと面接があつたのでプレゼンテーションを多く練習したことです。面接は話すのが好きな人や得意な人は言葉遣いや礼儀を確認するのと、質問に対する答えを考へて練習すると大丈夫だと思います。もちろん、大学にもよりますが自分が苦手なところを重点的にやつていくことが大事だと私は思います。プレゼンテーションは全部覚えようとするのではなく、大事なところを話す順番だけを頭に入れて、相手がわかりやすいように話すことが大切です。本番では緊張して話すスピードが速くなつてしまうので、落ち着いて話す練習をするといひと思います。

仙台育英での3年間で学んだことは一生の財産になると思うので、大学でも学んだことを生かして頑張りたいと思います。

東京国際工科専門職大学 工科学部 情報工学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 情報科学コース卒
佐沼中出身

志望大を早めに決め大学が求める人材に 3年間かけて近づいていきましょう

■語学研修や英語の成績が 強みになりました

東京国際工科専門職大学では情報関連を学習するため、MOSの資格や情報処理検定を取得するなどの資格での自己アピールを目指しました。また、部活動にも所属し3年間練習に励みました。たとえ結果が出なくても所属したことが有利に働く時もあると思います。

学習面では、定期テストでは評定平均値をできるだけ高く保ち、3年生の時や行きたい大学が決まっていなくても、評定が高ければ高いほど選べる大学の道が広がると思います。なので、テストの点数を上げ評定をさらに高くした方が良いと思います。

私は3年生の夏休みまで別の大学への進学を目指していましたが、思ったほど点数が取れず、3年生の10月に進路を変更しました。進路を変更しても、3年間の評定平均値が高い方だったことからAO入試で出願することができました。大学が英語の学習にも力を入れていたことで、2年生の時にシンガポールへ語学研修に行ったことが有利に働きました。元々、英語への興味があり勉強にも力を入れていたことで大学へ合格することができました。

■小学生の頃まで遡り自分と 向き合い目標を見つけました

特定の大学が決まっていなくても自分の好きなことや興味があることへの挑戦をたくさんしていれば、AO入試での書類と面接でとても良いアピール材料になります。また、高校3年間だけでなく、小学校や中学校で感じた出来事も活用し、自分の夢や目標を大まかに説明できれば面接での良い影響を与えます。

3年生までに、何か自分の自信になる出来事や大学が求めるアドミッションポリシーに合う人間に近づくことが一番大事であり、大学側がどんな人材を求めているのかを、いち早く詳しく知ることが大学へ合格する近道だと思います。

山梨学院大学 スポーツ科学部 スポーツ科学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
富山 高志野中出身

何か一つ本気で頑張れることを見つけて 学生生活を有意義に過ごしましょう

■陸上競技とコーチングの スキルを伸ばしたいです

私が山梨学院大学を目指した理由は2つあります。

1つ目は、山梨学院大学に入学し、陸上競技を続け、箱根駅伝に出場し活躍して実業団に入り、将来は日本代表として国際大会に出場したいと思っています。そのために、強い大学に入り強い選手と競い合い自身の競技力向上を目指したいと思ったからです。また、現山梨学院大学の長距離ブロックの監督の指導方針が私自身に合うと思い選びました。2つ目は、私は、将来の職業としてトレーニング指導者とアシスタントコーチになり、選手の育成をしたいと思っています。そのために、山梨学院大学のスポーツ科学科でトレーニング指導者とアシスタントコーチの資格を取得したいと思っています。また、山梨学院大学スポーツ科学部スポーツ科学科は学部が建設されてから3年目です。そのため、どの大学の学部より最先端の設備が整っています。また、教授の中にも日本代表のコーチをされている方もおられます。尊敬できる教授、そして最先端の設備の中で学びたいと思いました。

■目標に向かい少しずつでも 努力を続けていきましょう

私からアドバイスしたい事は、まず自分自身が熱中出来る事や本気で頑張れる事を見つける事です。また、この二つが出来なかったとしても何か目標を持つことが大切だと思います。私自身も高校3年間は部活動に熱中した日々でした。ただ、私自身は不完全燃焼で部活動が終了したと思っています。不完全燃焼のまま陸上競技を辞めると思うと一生後悔すると思いました。だからこそ陸上の長距離で名門の山梨学院大学に進学して、箱根駅伝に出場し区間賞を取りたいという目標が出来ました。この目標を叶えるために私は大学生活を陸上競技に費やしたいと思っています。一般の大学生とは違い、かなり限定的な自由しかありません。それでも私は、目標を達成するために自由が限定的になっても苦には思いません。みなさんも何か目標を立て、それに向かって少しずつでもいいので努力をしていってください。

関西大学 外国語学部 外国語学科英語専攻に
AO 入試で合格

令和2年3月 外国語コース卒
角田中出身

面接や小論文は常に本番を意識して 練習することでさらに効果が上がります

■ IB の授業で常に考える 姿勢が身に付きました

関西大学外国語学部外国語学科を志望したきっかけは、自分自身が学びたい分野、教授、立地が自身の理想と合致していたからです。私は、指定校推薦を目指して英検や TOEFL に積極的に挑戦しましたが、残念ながら条件に達することができず、AO 入試に挑戦することになりました。私は、高校1年次にカナダ留学を経験したため、英語学習に対する熱意を持ちながらテストに挑んでいました。特に、文系の学部を志望していたので、国語の学習も視野に入れながら計画を立てて学習しました。高校2年次からは、国際バカロレアを受講することによって、常に考えながら生活し、様々な分野に関する知識を獲得しました。家庭学習では英語の文法などを重点的に学習し、普通クラスに遅れをとらないように努力しました。毎日課題をこなし、更に家庭学習をするとすると、精神的にも辛いと感じることがありましたが、諦めない精神を持つことで成し遂げることができました。

■得意教科を伸ばすことが 成功につながると思います

私は、大学入試3ヶ月程前から準備を開始しました。3ヶ月間という短い期間の中で自分を追い詰めることで、高いモチベーションを得ることができました。面接練習は毎日行い、自分自身の不足している点を見出すことができました。英語での面接の対策では、様々な角度から質問をされても全て応答できるように練習しました。毎日何度も練習して、試験に対する意識を高めました。小論文では、自身が志望する学部が外国語系だったため、国際関係のトピックで練習し、構成や言語的な部分に不具合がないかを意識しながら練習しました。常に本番を見据えることで、より効果的な試験対策を行うことができました。大学を選ぶにあたって、自分の将来の目標を達成できるかどうかをよく考えることで、本当に行って学びたい学校を見つけることができると思います。特に自分の得意教科を更に伸ばすことで、大学合格への道を開くことができると思います。

近畿大学 国際学部 国際学科グローバル専攻に
AO 入試で合格

令和2年3月 外国語コース卒
成田中出身

語学研修の経験や留学生との交流など 恵まれた環境を最大限に生かしましょう

■帰国後に経験を生かせるよう 進学後は早く留学したいです

私は、大学を探す際に早期留学が可能であるということをひとつの条件にしました。なぜなら、仙台育英の外国語コースで1年次という早期にハワイへ語学研修に行ったとき「早く行って良かった」と思えることがあったからです。まず、一日の大半を英語に触れる生活をしたことで、帰国後もこの日本語は英語ならどのように表現するだろうか、と英語で考える癖がつかえました。また、実際にハワイを訪れ、ハワイが抱える問題を目の当たりにし、国際問題の解決ができるよう学びたいと思いました。早期に問題に気づき、帰国後は自分自身で資料を読み、理解を深めることができました。このような経験を通して、私は世界の実情について十分に勉強でき、かつ帰国後の時間を最大限に生かすため早期留学が可能な大学を探しました。それらが可能な大学が、近畿大学でした。

■第二外国語は普段から使い 実力を付けていきました

AO入試のときに感じたことは、何か他の受験者と異なった特技や経験、資格が大事だということです。私は、前述したようにハワイで語学研修の経験があったことや、第二外国語として韓国語の資格を持っていたことが、合格に少なからず影響したのではないかと考えています。韓国語は、初め、勉強方法が確立できず苦労しましたが、韓国人の友人がいたので実際に韓国語を使うことで、文法や単語を覚えられました。実際に使用していくという方法を始めたのは、2年生の冬休み頃と遅かったのですが、それでも今では政治などの難しい話でなければある程度会話できるようになりました。私は自分に適した学習方法を見つけること、そして自分がおかれている環境を最大限に生かすことが大事だと思います。

東北芸術工科大学 デザイン工学部 コミュニティデザイン学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
富沢中出身

何を学びたいかを突き詰めて決定すれば 後悔しない進路選択ができるはずです

■復興への思いを先生に伝え この大学を勧められました

私が大学進学を目指したきっかけは、東日本大震災で甚大な被害を受けた地域の復興に携わりたいと目標があったからです。

震災直後は、何もなくなってしまった沿岸部の状況を目の当たりにし、将来は建築家になり、被災した地域を再生したいと考えていました。しかし、震災から時が経過し、ハード面の復興が進んでいく中で地域コミュニティの再生などソフト面の復興が遅れていると感じ、建築ではない別な面から復興に携わりたいと思うようになりました。

東北芸術工科大学のコミュニティデザイン学科のオープンキャンパスに参加した際、自身の漠然とした目標を大学の先生に伝えたところ、「この学科ならあなたの学びたいことが学べるはずだ」と言われたことが、この大学を志望した一番の理由です。また、先輩方と連絡先を交換し、アドバイスをたくさんいただいたことも大きな理由の一つです。

■勉強や部活に一生懸命励んだ 充実した高校生活でした

私は AO 入試で合格しましたが、指定校推薦や一般入試など様々な選択肢に対応できるよう、勉強はもとより部活動にも真剣に取り組みました。特に勉強に関しては、集中できるよう最後まで学校に残り、疑問点は執務室に行って先生方に質問したり、友人に教えてもらったりしながら、解消に努めました。

また私は、AO 入試で出願すると決めたのが遅かったこともあり、自己推薦書の作成に苦労しましたが、先生方の熱意のあるご指導により、志望理由が自分の中でしっかりとまとまり、本番も自身を持って臨むことができました。

仙台育英の3年間は、勉強、部活に一生懸命取り組み、素晴らしい先生方、友人にも恵まれ、充実したものでした。進路の選択は難しくとも悩みましたが、大学のネームバリューではなく、何を学びたいかを突き詰め、志望大学を選択すればきっと後悔しないと思います。受験に緊張はつきものですが、落ち着いて頑張ってください。

東北芸術工科大学 デザイン工学部 企画構想学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 情報科学コース卒
柳生中出身

しっかり予定を立てて時間を確保し 「量より質」を意識して勉強しました

■センター試験と推薦入試の 対策を並行して行いました

私は夏まで陸上競技部に所属し、勉強をあまりしてきませんでした。受験勉強を本格的に始めたのは高校3年生の夏でした。しっかりと予定を立て、だらだら勉強するのではなく、質の良い勉強時間の確保を意識しました。AO入試ということもあり、面接練習なども同時に行い、AO入試とセンター試験に向けて勉強を続けていました。

東北芸術工科大学に出願するにあたり一番頑張ったことはエントリーシートの記入です。8月から9月の間、先生の協力のもと沢山の対策を立ててきました。1ヶ月前はなかなか上手くいくことはなかったものの、最終的にはしっかりと受け答えもできるようになりました。1ヶ月の間、焦らず基本的なことからしていったので、合格することができたのだと思います。

また、センター試験の勉強も並行して行ってきました。私が選択した現代文は最初のうちは難しかったものの、1ヶ月勉強したら高い点数を取ることができ、センター試験にも対応することができました。私はこのような体験をしたことにより自信ができました。皆さんも量より質を意識して勉強してください。

東北学院大学 文学部 英文学科に
AO 入試で合格

令和 2 年 3 月 英進進学コース卒
柳生中出身

通学時間は勉強に集中して過ごすなど 定期試験に力を入れ評定を維持しました

■ 米国生活の経験を生かし 英語を深く学びたいです

東北学院大学をめざしたきっかけは、アメリカに住んでいたことがあり、大学に入っても英語をより深く学びたいと思ったからです。

大学に合格するために必要なのは評定だと思ったので、勉強に力を入れました。中間テストや期末テストでは良い点を取るためにテストの 1 週間前はテスト勉強をしました。紙やノートなどにひたすら覚えたい言葉や単語を書いて覚えました。また、英語などの文を覚えなければいけないものなどは実際に声を出したことにより、覚えることができました。私はバスで学校に通学していたのですが、朝早く起きて、バスに乗ってから学校に着くまでの 1 時間半をずっと勉強に使っていました。覚えられなかったことでもテストの日になって思い出させることが多かったので、バスの中での勉強はおすすめです。

AO 入試で受験するため、面接練習にも力を入れました。面接練習ではまず初めに面接で聞かれることを予想してその対応で何を言えばいいかを考えることにしました。先生から頂いた面接練習プリントを参考にして、そのプリントに書けることをできるだけ多く書きました。次に私は先生方をお願いして面接練習をさせていただきました。その時私は入室の仕方や予想外のことを聞かれた時の対処法などが分からなかったので、先生に教えていただきました。このような練習を何回か続けた結果、私は AO 入試当日は緊張することなく、リラックスした気持ちで面接試験を受けることができました。

これから大学受験を迎える後輩のみなさんは日々の生活が大切になってくると思うので、気を引き締めて頑張ってください。東北学院大学を受験する方は一次試験が重要になってくると思うので、エントリーシートに書けることはできるだけ多く書いて、そこから質問を考えるといいと思います。大学に合格できるよう頑張ってください。

東北学院大学 文学部 英文学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
柳生中出身

「絶対に合格する」という強い気持ちを最後まで持ち続けたのが合格の要因です

■英語を深く学べると考え

この大学を志望しました

私は、中学校の頃に英語に興味を持ち始め、今後も英語を深く学んでいきたいと思いました。この学科は英語の運用能力を高めるカリキュラムが豊富であり、留学制度も充実しています。また、私の興味がある発音やコミュニケーションについても学ぶことができるため、英語を深く学びたいという目標を達成できると思い、この大学を目指すようになりました。

合格を実現させるために、3年間は勉強を中心に頑張ってきました。大学合格を目指すためにはどの入試方法であれ、評定が重要となってきます。私の場合、1年生の頃から大学進学を視野に入れていたので、定期考査に向けて学習を続けてきました。その甲斐があり3年間で高い評定を維持することができました。

■夢を追い続け合格まで

全力で頑張りました！

私はAO入試で合格しました。AO入試対策として面接練習と小論文に力を入れてきました。東北学院大学のAO入試では始めにエントリーシートを書く必要があります。実際の面接もエントリーシートをもとに聞かれるため、より丁寧に書かないといけません。私は夏休みから作成し続けてきました。担任の先生に指導していただいたお陰で完成度の高いエントリーシートを作り上げることができました。完成したエントリーシートをもとに面接練習に取り組みました。面接は複数の先生方と何度も練習しました。最初は質問されることに対して言葉が詰まってしまう絶望しました。ですが、何度も繰り返し練習することで自分の思いを伝えることができるようになりました。AO入試は自分の志望大学に対する思いを伝えることがとても重要になってくるので、学びたいことや将来の夢などについて自分の言葉でアピールできるようにしておくといいと思います。小論文については過去問を繰り返し解きました。私は本番直前まで納得のいく文章が書けず悩み続けていました。小論文は何度も書き続けて書き方を定着させることが大切です。小論文は自分の考えを述べる問題なので、様々な問題を解いて慣れていってください。また、先生方に添削してもらい納得がいくまで書き続けることをオススメします。

私はたくさんの友人や先輩方、先生方に支えられ、志望大学合格という夢を実現させることができました。入試本番までたくさん苦しい思いをしましたが、最後まで諦めず「絶対に合格する」という強い気持ちを持ち続けたことが合格に繋がったと確信しています。自分の夢を追い続け、最後まで全力で取り組んでいってほしいと思います。

東北学院大学 経済学部 経済学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
成田中出身

面接やグループディスカッションでの 積極的な姿勢が合格できた要因です

■グローバルに働ける仕事に 就くのが将来の目標です

大学をめざした理由は将来の職業の幅が広まるからで、私の夢である海外営業の仕事や外資系スタッフといった国際交流関係の職業に就ける可能性が高まると思ったからです。推薦での受験は、親や先生から一般入試より合格する確率が高いのと準備がしやすいと聞いたので決めました。推薦入試合格のために努力したことは書類調査があるため、できるだけ学校を休まないようにしたのと、成績を落とさないように授業をしっかり聞きひたすらノートを取るようにし、テスト勉強を一週間前からするように心がけました。さらに入試対策には放課後に残って先生にお願いして面接練習の相手をしてもらったり、私の場合グループディスカッションも試験の対象だったので、数人の友達を集めて練習に付き合ってもらいました。定期考査対策はとにかく夜更かしをしないことです。1週間くらい前から地道に勉強することをお勧めします。小論文対策は過去問を先生からもらって解いたり、学校で渡されたテキストを一から読み直したり、ユーチューブなどの動画配信サイトで上げられている小論文の対策動画を見るといいと思います。勉強時間は平日が1時間程度で土日が2時間でテスト前は4時間です。教科の振り分け方としては得意教科は後回しにして苦手な教科を優先的に勉強しました。長期休暇期間中は頭が鈍らないように今まで授業で習ったところを教科書等を読んだり、書き写したりしていました。

■国際交流が活発なところに 魅力を感じ志望しました

志望大学を絞り込むにあたって、まず学部学科を検討しました。得意な英語を生かせる英文学科にするか、将来の仕事の幅が広がる経済学部にするか迷いました。そこで国際交流が活発な東北学院大学が目に入りました。結果、英語が生かせつつ留学もでき、経済学の勉強もできる東北学院大学経済学部経済学科を受験することにしました。私自身受験に成功した一番の要因は本番の面接やグループディスカッションで明るく積極的に話したことだと考えます。諦めずにひたすら練習した成果が出ました。私に続く後輩たちも何事も諦めずに自分が正しいと思う道を進んでほしいです。

東北学院大学 教養学部 情報科学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 情報科学コース卒
仙台第二中出身

東北学院大学の AO 入試においては 一次試験に全力を尽くしましょう

■情報科学と天文学の両方を 学べる大学を探しました

宮城県の就職に有利なことと、勉強したいと思っていた情報科学科の自然科学専攻があるため、両方学べるのが宮城県にこの大学だけなので志望しました。高校1年からオープンキャンパスに参加し、情報を集めました。

高校生活では勉強だけでなく部活と資格取得も頑張りました。勉強面では3年間の評定が5か4を取り、生活面ではインターアクト部に入部し、委員会にも参加しました。また、情報処理検定やMOSなどの情報系の資格を取得しました。

入試では、一次試験に願書を基にした面接30分がありました。いくつかの質問が書かれた願書が重要で夏休み中でも学校に行き、内容を先生に添削してもらいました。面接では、質問に臨機応変に回答できるように経験やポイントを押さえて練習しました。願書の質問を一通り聞かれますが、志望動機、高校での活動、大学でしたいことなど明確で的確に喋れるように努力しました。そのために教授やカリキュラムなどの大学のことや学びたい学問の本を読んで幅広く対策しました。

■小論文の過去問を毎日解き 先生に添削して頂きました

一次試験の結果はA～Dの判定でC以上でないと二次試験に進めません。志願者の殆どがCをもらいます。しかし、Cをもらおうと二次試験で厳しく見られるので、A、Bをもらうのは難しいですが二次試験を有利に進めることができます。

二次試験では、小論文と面接がありました。小論文はオープンキャンパスで過去問5年分をもらい、ほぼ毎日1～2つ書きました。それを先生に見せ、添削をしてもらいながら練習しました。面接は、大学入学までの過ごし方などを質問され、Cの人は10分ですが私は一次試験でBの結果だったので5分ほどで早く終わりました。

東北学院大学のAO入試は、一次試験では高校での活動と大学での目的意識、二次試験では一次試験の結果と小論文が重要です。特に一次試験の結果と小論文が重要だと思いました。A、Bをもらえるように頑張ってください。

東北学院大学 教養学部 情報科学科に

AO 入試で合格

令和2年3月 情報科学コース卒

五橋中出身

当日は「絶対合格できる」と強く思い これまでの全てを出し切りました

■入学時に立てた3つの目標を

すべて実現しました

仙台育英には、「逆転の育英」とあるようにこの3年間何事においても常に努力を欠かさずに行ってきました。なぜなら、私は高校受験に失敗し二次募集を受け、この仙台育英に入学したからです。この時、「テストで学年順位20番以内を目指す」「部活動では東北大会出場」「外部のボランティア活動では仙台市会長をする」という3つの目標を立てました。

学習面では、先生の話聞き、プログラミングや創作演習といった実技教科では、プログラム言語を打ち、エラーや間違ったところは積極的に聞きました。座学では、提出物をきちんと出しテストに出る大事な場所をメモを取るようになっていました。そのおかげでテストでは前日に振り返ることができ、テストの点数も良かった。あまりテストは振り返らず、それよりも気が済むまでノートに問題を何回も解き徹底的に対策プリントを覚えて本番に臨んでいました。そのおかげで3年間テストで20番以内をキープすることができました。

部活動では卓球部の部長を務めました。同級生や頼りになる後輩の支えがあったおかげです。後輩は自分の代より多かったのも、どうやったらチームをまとめられるか、チームに貢献できるかを考えて行動していました。最後の大会では団体ベスト4でした。目標には届きませんでしたが、この結果をくれた後輩や今までお世話になった顧問の先生には感謝しかありません。

ボランティア活動は、目標だった仙台市会長を高2の時に務めました。1年間は予想以上に大変でした。毎月1回行う定例会の準備や研修会の用意など準備することが多く、学校や部活動との両立が大変でしたが何とか1年間やり抜くことができました。その活動の中で、何回も話し合うことにより信頼できる大切な仲間ができました。

■尊敬される教師を目指し

大学でも頑張ります

この3つの経験から、私は人に尊敬されるような教師になりたいと思いました。また、情報科学コースで学んだプログラミング技術を生かしたいと思い、両方学べる東北学院大学教養学部情報科学科を受験しました。

今までやってきた甲斐があり人と話すことは苦手ではなかったのも、面接ではきちんと自分がしてきた活動を試験監督の先生に話すことができました。合格通知が来るまでは、受験が終わっても受かっている自信がありませんでした。だからこそ、後輩の皆さんは受験当日は「絶対受かるんだ！受かって当たり前！」と強く思い、今までやってきたこと全てを出し切れるように頑張ってください。

東北学院大学 教養学部 地域構想学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
多賀城第二中出身

大学合格は簡単なことではないので 覚悟を決めてしっかり勉強しましょう

■悩んだ時は素直に先生方に
相談することが大事です

東北学院大学の地域構想学科の試験にはプレゼンテーションがありました。その内容は30分程の面接と資料発表がありました。大変だったと思うことは、発表の内容の資料集めです。なかなか良い資料を集めることが難しく、時間がかかりました。しかし、そのような時に、担任の先生や大学の係の先生などが手伝ってくださいました。困ったときは素直に先生を頼りにするのも大事だということも学びました。

また、大変だと思ったことは面接対策と小論文対策です。面接では様々な問題を想定して、それに対する答えをもっておくことがとても重要だと感じました。その問題に対するキーワードなどを覚えていれば緊張で忘れることはないと思います。あと、小論文はひたすら書いて感覚をつかむしかないと思います。大学に入るということは、とても難しく、そんな簡単なものではないと思います。なので、それなりに覚悟を決め、勉強をたくさんしなければいけません。そのことを肝に銘じて勉強を頑張ってください。

東北福祉大学 総合福祉学部 福祉行政学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
八乙女中出身

読書などで語彙力を伸ばすことは 面接や小論文に大いに役立ちます

■基礎が身についていたので

進路の選択肢を広げることができました

私は高校2年生の時に、両親から大学を目指してみてもどうかと言われました。その時私は漠然とこれ以上勉強してどうするのだろうという思いでいました。しかし高校3年間で学べなかったこともあるため、目標としている消防士になるためには大学に行ったほうが良いのではないかと考えが変わり始めました。3年生になり進路について真面目に考えなくてはと思い始め、東北学院大学や東北福祉大学、専門学校についても調べました。この時中学、高校で身につけた基礎学力のおかげで多くの選択肢を得ることができました。結局その中から東北福祉大学を選び2回ほどオープンキャンパスに足を運び、東北福祉大学についての情報を集めました。このときにより多くの情報を集めたことで高校に提出する自己推薦文や、大学に提出する志望理由書等にも書けることが増えるため、説得力のある文章を書くことができます。そのため大学について知ることは受験のためには最も重要であると言えます。

■読書や文章を書くことにより

語彙力の向上に励みました

行きたい大学が決まったら受験に向けての対策を始めました。しかし東北福祉大学の福祉行政学科は文系であったため、日頃文章を読むことや文章を書く機会を増やして語彙力を上げておく必要がありました。これは本を読むことや小論文の練習を行うことで補えるため、暇があれば本を読むことから実践して欲しいと思います。使える言葉が多ければ面接の時にも役に立つと私は考えています。また、私は検定等の資格は全く持っていませんでしたができることなら取得しておいたほうが良いと思います。

私自身、受験に成功した一番の要因は基礎学力の向上と、読書等によってボキャブラリーを増やしたことだと考えています。前述の通り東北福祉大学に限らず志望理由書や面接は多くの大学が採用している試験であるため、言葉を多く使えるほど戦いやすくなります。

最後に、大事なものは直前の頑張りではなく日々の積み重ねです。東北福祉大学でお待ちしています。頑張ってください。

東北福祉大学 健康科学部 保健看護学科に
特別推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
しらかし台中出身

定期テストを頑張って評定を維持しつつ 早くから入試対策を始めましょう

■入試対策に取り掛かるのが
遅れたのでとても大変でした

私は東北福祉大学に特別推薦（同窓生等推薦）で合格しました。私が受験において最も重視していたことは高校3年間の成績です。3年間の評定をオール5にキープし、情報処理検定3級や英検2級を取得しました。学業だけでなく部活動にも力を入れてきました。私は軟式野球に所属し、2年生の秋季大会で県大会優勝することができました。

同級生等推薦の試験内容は小論文と面接でした。小論文は抽象的なテーマ型（今回は『防災教育』について君の考えを述べなさい。）です。授業でも小論文を書く機会がありますが、大学によって形式が異なるので過去問などを使って対策をしていかないと本番で書くのは難しいです。私は小論文が苦手かつ取り掛かりが遅かったのでかなり焦りました。最後にまとめて記載しますが、小論文は量をこなすことが大切です。書いていくうちにだんだんとコツを掴めます。

面接は受験生一人、面接官二人の個人面接でした。質問内容は特に変わった質問もなく、対策した中からも同じ質問が来ました。こちらも取り掛かりが遅かったために、本番前ぎりぎりまで志望理由を考え直すなど切羽詰まった状態でした。

■資格検定やボランティアは
自己PRの武器になります

このように私は、直前になって慌てて対策をしたために皆さんの参考にはなりませんし、このようになってほしくないため最後にアドバイスとしてまとめておきます。一つでも参考になるものがあれば幸いです。

高校生活

1. 無遅刻無欠席無早退を心がけてください。
2. 評定は書類審査に影響します。定期テストは手を抜かずに頑張りましょう。
3. 資格取得やボランティア活動などに取り組み、自分の武器を増やしましょう。

受験

1. 小論文、面接共に早めの対策をしましょう。
2. 小論文はとりあえず自分なりに書いてみるのが大切です。内容や書き方は先生方に添削してもらい、徐々に身に付けていきましょう。
3. 面接は、前もって定番の質問内容に自分の言葉で答えられるように考えて言えるようにしておきましょう（暗記はNG）。

東北福祉大学 健康科学部 リハビリテーション学科作業療法学専攻に
AO 入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒
利府西中出身

受験準備でくじけそうになっても 合格への思いを見失いませんでした

■作業療法士に関する知識を 3年間で蓄えていきました

高校1年生の時点で将来就きたい職業を作業療法士に決定していました。そのため、リハビリテーションや作業療法士についての書籍を読むなどして、高校在学中にじっくりと知識を蓄えていくことができました。しかし私は、自分自身の高校生活の送り方を少しだけ悔やんでいます。それは、高校1年生の頃から進学する大学を考えていなかったというところです。その結果私は、高校3年生になってから急ぎょ大学の情報を集め始めることになりました。この時私が感じたことは、目標を定めたのならば、そこに到達するために早く行動することが大切だということです。具体的には、やりたいことが決定している場合、なるべく早く大学等を絞り込むことが必要です。その点で、仙台育英では、高校1年生から大学や専門学校の情報を得る機会がたくさんあるため、上手に活用することをお勧めします。また、入試方法も種類がいくつもあるため、自分だけではなく、家族の方とも相談することが大切です。これらを早い段階で行うほど、より納得のいく決断ができるのではないかと思います。

東北福祉大学の、国家試験の現役での合格率の高さや設備の良さが志望校決定の大きな理由です。私は、理想の作業療法士になるために、必ず東北福祉大学に入学する必要があると考えました。そこで、高校1年生から蓄えてきたリハビリテーションについての知識や、それによって見えた具体的な自分自身の将来像を伝えるべく、AO入試を受験することを決断しました。

■最善の選択ができるよう 毎日を大切に過ごしましょう

リハビリテーション学科のAO入試では、英語と生物基礎の学科試験、面接、グループディスカッション、レポート課題と、やらなければならないことがたくさんあります。合格するには、これら全てに全力投球することが必要だと私は考えます。そのためには、将来やりたいことや大学へ入学したいという確固たる意志を持ち続けることが大切です。勉強や入試の準備をしている際、何度もくじけそうになりましたが、私はそれらを見失わなかったことで、やり切ることができたのではないかと感じます。

また、大学入試は初めてのことばかりで戸惑うことも多いかと思います。その際は、躊躇することなく、学校や塾の先生方、両親に相談したり確認したりすることが大切です。自分自身にとって最善の選択ができるよう、一日一日を大切に過ごしてください。お互いそれぞれに頑張りましょう。

東北福祉大学 総合マネジメント学部 産業福祉マネジメント学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
岩沼中出身

努力すれば必ず結果がついてくる！ 何かに全力で取り組みましょう

■辛い時も逃げることなく サッカーに打ちこみました

私が高校3年間で特に力を入れて頑張ったことは、部活動です。私は女子サッカー部に所属していました。小学生の頃からサッカーをしていて、中学生では全国大会出場を果たすなど充実したサッカー人生を送っていました。高校では、厳しい練習など辛い日々が続き、初めてサッカーを辞めたいと思ったこともありました。しかし、私は一度やると決めたことから逃げるのは嫌だったので、最後までやり切ろうと心に決めました。毎朝4時半に起き、朝練習に取り組むなど、自分なりに努力をし、少しでもレベルが上がるよう努めました。その結果、1年生から先発メンバーに入ったり、3年次では、国民体育大会の宮城県代表選手に選出され、高いレベルの中でプレーをすることができました。なお、勉強では部活動をしていたので少ない時間ではありましたが、復習をして文武両道に励みました。テストでは、クラス順位5位以内に入るようにしていました。

■文武両道を貫いたことで 合格できたと思っています

私は、高校生活で文武両道を心がけてきました。そのおかげで今の進路へ進めることができるのだと思っています。後輩の中にはまだ進路を決めていない人が大半だと思います。私自身、3年生になってから進路を決めたので焦って決める必要はないと思います。しかし、1, 2年次での生活や成績が大きく関わってきます。まだ実感は湧かないと思いますが、後悔してからでは遅いので、部活動をやっている人は最後までやり切り、していない人も勉強はある程度しておいた方が良いでしょう。さらに、何事にも努力をすれば必ず結果はついてくると私は信じているので、何か夢中に取り組めるものを見つけ、高校生活をより良いものにしてほしいと思います。

東北工業大学 ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 情報科学コース卒
山形 小国中出身

情報科学コースで取得できる資格検定は 進学や就職でとても有利になります

■最初に家族に相談せず進路の 決定が遅れてしまいました

2年生の時の冬までは専門学校を希望していたのですが、3年生になってから大学進学を目指すようになりました。その後、大学を決めるにあたって私の反省点は、親との話し合いが少なかったことです。私は志望大学を決め、担任の先生と話し合いを進めていました。しかし、親と話し合っていないため、反対され急遽志望大学を変えることになりました。色々な大学の推薦入試の出願期間が過ぎていく中、東北工業大学を AOVA 入試で受けることに決めました。

私が受けたのは、AOVA 入試の中でも活動記録重視型といって、部活動や生徒会、ボランティアなど、高校生活でどのような活動をしたかを見る入試です。私は、3年間陸上部に所属していて、東北大会やインターハイに出場した経験もあったため、この入試体系を選びました。これを受けるにあたって、高校生活でやってよかったことは、部活動は勿論ですが、資格取得です。情報科学コースでは多くの資格を取得できるため、入学当初から積極的に勉強して、情報処理検定や MOS などの資格を取得することができました。特に情報科学コースで取れる資格は進学だけでなく就職にも有利なので、取れる時にできるだけ多く取っておくことをおすすめします。

■後悔しないように勉強は きちんとしておきましょう

活動記録重視型には、活動記録を見る他にも、小論文と面接があります。私は小論文対策は受験日の2ヶ月前から始めました。最初は一週間に1~2回でしたが、受験日が近くなるにつれて2日に1回のペースで書いていました。小論文は、まずは書くことです。私も最初はほぼ白紙に近い状態でしたが、自分で何を言っているのか分からなくても、まずは文字数を埋め、そこから一つ一つ直していきました。最初から完璧に書ける人などいないので、小論文は書きまくることが書けるようになるコツです。小論文も面接も対策は早ければ早いほど良いです。私は小論文は早めに対策ができたのですが、面接対策は遅れてしまい、試験当日も上手く話すことができませんでした。なので、対策は早めに開始した方がいいと思います。そして、面接練習をするときは、毎回違う先生に担当してもらうことで、当日緊張してもしっかり答えられると思います。

最後に、私が高校生活でやって本当によかったことは勉強です。評定を高い値で維持し続けることで大学を選ぶ時に基準評定を気にすることなく選ぶことができました。指定校などの推薦入試は基準評定があるのが殆どで、小論文のように巻き返すことができないので絶対に勉強だけはしておきましょう。

東北工業大学 ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
東華中出身

一人ひとりが諦めることなく練習に励み 夏の甲子園出場を実現させました

■最高学年としてチームを作る 大変さを実感しました

私は高校3年間でたくさんのことを学び、これからの人生に生かしていきたいと考えました。まず、私は3年間硬式野球部に所属しており、仲間と最後の夏まで協力して練習などに取り組んでいました。まず1年生から2年生になって大きく変わったことは新チームとなり一番上の学年として全員でチームを作っていくことが大変だと感じました。新チームになると慣れていないことが増えたり、メンバーに入りたいという意識などが多くなり、自分だけの考えが増えたりすることもありましたが、一人一人の変わろうとする気持ちや変わらせたいという気持ちが増えてきて良くなって行くことができました。

■日々のミーティングでは皆で 達成目標を振り返りました

自分達の代はあまり力がない学年と言ってもらっていて、他の高校ともあまり同等ではないと感じていたので、自分達で練習の組み立てや練習内容をしっかり決め、その日の目標などを話し合っ、その目標を意識して日々練習をしていました。目標の中でも気持ち的な目標や野球の技術的な目標を考えてやっていました。帰りの選手だけのミーティングでその日の目標について振り返って、次に生かそうと全員で話し合いました。練習の中でも時間の配分などにも気を配って詳しく決めて練習をしていました。練習試合など試合を行った後は、試合ミーティングというミーティングで試合で出た反省を一つ一つ細かく原因などから話し合っ、チームのレベルアップをできるようにしていました。夏の大会の前もたくさんの試合を重ねてメンバー選考をしていただきました。メンバー選考の中でも一人一人が最後の夏まで諦めず試合や練習に取り組んで、最後の夏は甲子園に行かせていただき全員でたくさんの経験をさせていただいたのでとても良かったと思います。これからの人生でも生かして行きたいと思いました。

東北文化学園大学 医療福祉学部 リハビリテーション学科作業療法学専攻に
AO 入試で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
桃生中出身

1年生のうちから高い評定を保つことが 推薦入試では本当に大切です

■毎日必ず机に向かうことを 習慣にしていました

大学入学を目指した理由は作業療法士になるために必要な資格を取りたいと思ったからです。

私は自分を一番アピールできる AO 入試で大学受験を行いました。私が受験した大学の場合は自己推薦文とプレゼンテーションでした。プレゼンテーションの資料を作る事や、どう分かりやすく伝えるかなど考えるのを6日でやらなければなかったのが大変でしたが、先生方のアドバイスや面接練習などを手伝っていただけたのでとても助かりました。

日常生活で心掛けていたことは、一日少しでも机に向かうということです。覚えたと思っていても二日ほどで忘れてしまうことが殆どだと思っています。そのため忘れてしまう前に思い出すという事が大切だと思います。最初は20分から初め、慣れてきたら30分、40分と時間を増やしていき一日90分を目指してやっていました。なぜ90分かというと、大学の授業が90分だからです。高校では先生方が要点を分かりやすくまとめてくれていますが、大学では集中して90分間出来るようにすると思います。

■早めに進路を決定し 評定の基準を意識しましょう

大学入学に高校の評定がとても大切で一定以上ないと不利になってしまうので、今のうちからどこに入りたいのか決めて、評定を見ておいた方が良いです。今は関係ないと思って勉強せず評定を低く取ってしまうと2年、3年と、とても大変なるか、もしくは手が届かなくなってしまうので、今のうちから高めの評定を取っておいてください。大切なので2回言いますが、私は AO 入試での受験はとても大変だったので、作業療法士になりたくてこの大学に入りたいという人は1年生と2年生のうちから早めに準備をして頑張ってください。

東北文化学園大学 科学技術学部 知能情報システム学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
利府中出身

家と学校で面接練習の内容を変えるなど 時間を有効に使うことを心がけました

■将来は AI 関連の技術開発に 貢献していきたい

大学を目指したきっかけは、これからの社会では AI 技術などの情報技術が発展し、それに伴って技術を開発できる人が必要になると思ったからです。東北文化学園大学科学技術学部知能情報システム学科で、コンピュータの基礎から学びたいと思って進学を決めました。AO 入試では、面接と自己表現のプレゼンテーションがありました。面接練習では過去の先輩たちのまとめてくれたものを見て応答を考えたり、オープンキャンパスで先生に質問したりして自分なりに、面接で聞かれそうなものをまとめて、先生と練習しました。

■プレゼンテーション重視と 聞いて念入りに準備しました

私が一番気をつけたことは、本番までの時間をどう割り当てるか、有効に時間を使うということに気をつけて本番練習をしました。私は、夏休みが終わってすぐに本番だったので夏休みをうまく利用することができました。自分一人で、できる練習は家で練習し、面接やプレゼンの内容をみてもらいに、夏休み中に学校に行き、時間の空いている先生に指導をお願いしました。練習時間は、毎日面接練習を1～2時間して、プレゼンを3時間くらいしました。オープンキャンパスの時、AO 入試の先生に入試に向けて何を練習すべきかを質問したところ、「面接も大事だけどプレゼンを重要視している」と教えてくださったので、面接よりもプレゼンにたくさん時間をかけました。大学受験の準備も大事だと思いますが、テストなどもあるので「教科の練習も1日何時間やる」とか自分の中で決めて、高校生活も一緒に両立させるのも難しいと思います。私は、普段の授業で自分の得意な分野は、その授業の時間に内容を覚えて、家に帰った後に苦手教科を集中して時間をかけて勉強しました。

私は、進路を決めたのは3年生になってからでした。それまで、自分はどこがいいんだろうと、ずっと悩んでいて担任の先生によく相談に乗っていただいていたので、3年間色々なことを学ぶことができました。今悩んでいる人も、あせらずに頑張ってください。

仙台白百合女子大学 人間学部 グローバル・スタディーズ学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 外国語コース卒
浦戸中出身

日本伝統文化の授業など仙台育英での 貴重な体験は入試で大いに役立ちました

■アジア圏の友人ができて 言語に興味を持ちました

自分の学校生活を振り返ると、仙台育英は一人ひとりのチャンスが非常に多い学校だと思いました。私は外国語コースに所属していますが、クラスには、中国人や韓国人の留学生がいて、英語以外の言語を学ぶ機会がたくさんありました。授業では、英語学習が中心でしたが、第二外国語として韓国語も履修しました。韓国人の先生が韓国語を教えてくれ、休み時間には中国人の友達と話すことで、他の国の言語だけでなく、異文化を知りました。そうやって3年間学んでいくうちに、自分の視野が広がり、将来の目標もできました。高校に入学したときは、英語を学習したいとしか思っていませんでしたが、様々な国籍の友達ができ、他の言語への理解を深めたいと思いました。大学でも、韓国語や中国語などのアジアの言語に重点を置いて勉強したいと思い、慎重に大学を選びました。そして仙台白百合女子大学に合格しました。私が合格できたのは、仙台育英の素晴らしい学習環境のおかげだと感じています。私は部活動は茶道部に所属していましたが、校内に立派な茶室があります。それだけでなく、茶道の資格のある先生方が教えてくださるのでとても本格的な茶道を高校で習うことができました。また、茶道や華道も授業の科目にあるので、他の高校では決して学べないようなことが仙台育英では体験することができます。クラスは勉強熱心な友達ばかりで、自分も頑張ろうという気持ちにいつもなりました。友達や環境に恵まれたと心から思います。仙台育英で出会えた友達や思い出は私にとって、かけがえのないものです。

■仙台育英は生徒思いの 先生方ばかりでした

受験方法はAO入試を選択しました。AO入試は、面接や小論文、プレゼンテーションで受験します。しかし、準備しなければいけない書類が多く、私一人の力では合格できなかったと感じます。特に仙台育英の先生方は生徒思いの先生ばかりでした。先生は忙しいにもかかわらず、私たち生徒の自己推薦書を何度も何度も添削してくれ、面接練習では的確なアドバイスをしてくださいました。夏休み中に学校へ行ったときも、クラスメートが自己推薦書を仕上げている、多くの先生方が仕事をしていました。それを見て、私は何事にも本気で取り組まなければいけないなと気持ちを入れ替えました。受験に追われて大変なのは自分だけでなく、先生方はそれ以上にもっと大変なのだと感じ、努力をすることができました。私が今回受験に合格できたのは、先生方の協力があってからです。これから大学に入って一生懸命学び、社会に出たときに胸を張れるよう、努力をし続けたいと思います。

仙台育英で出会った友達を大切に、学んだことを大学でも生かしたいです。仙台育英だったからこそできた体験があり、それが大学入試で大いに役立ちました。私が仙台育英で過ごした3年間は楽しくも学びのある高校生活でした。3年間本当にありがとうございました。

仙台白百合女子大学 人間学部 グローバル・スタディーズ学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
高砂中出身

メリハリをつけて受験対策をすることで 集中力がアップし効率が上がりました

■大学ではボランティア活動や 海外研修に参加したい

私は、将来外資系の就業に就きたいと思い、この学科を志望しました。また、海外実習を盛んに行っていることや、ボランティア活動で研修ができることも選んだ理由の一つです。さらに少人数で授業を受けられるということにも魅力を感じました。

私は、書道部に所属していたため、まとまった勉強時間を取れてはいませんでした。土日も合宿なので、平日1時間程度勉強ができればよいと考えていたため、あまり模試のテストが良くなかったと自分で思います。定期テストでは習ったところがたくさん出ていたため、模試のテストよりは格段に良かったとは思いましたが、3年生になり推薦入試かAO入試で迷っていました。しかし、模試で一発勝負ということは分かっていたのに、普通にテスト勉強をして、重点的に分からないところをやることをしていなかったため、残念ながら結果に結び付きませんでした。そのことから、AO入試で受けようと決心しました。その入試の内容には、私の苦手なプレゼンテーションや小論文であったため、対策を進めなければならないと思い焦りました。

■部活動や修学旅行など 沢山の思い出ができました

さらに、入試前後では、まだ部活との両立をしていたため、まとまった時間は取れてはいませんでしたが、先生にプレゼンの原案を添削をしていただき、家に帰ってパソコンで修正を繰り返しました。ある程度出来上がったなら友達とも練習をしたりしました。私はあまり集中力がない方だったこともあり、休憩中には飲み物を飲んで休み休みしていました。その後練習をすると集中力が回復しました。入試当日は、小論文、プレゼンテーション、面接を一日にやるのは大変でしたが、前日はゆっくりできたため、自分の力を発揮することもできました。高校3年間で私はたくさんのかたを学べたと思っています。部活との両立や修学旅行で初の海外での研修、その他、精神面を鍛えることもできました。この3年間はいい思い出になりました。

尚絅学院大学 心理・教育学群 子ども学類に
AO 入試で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
台原中出身

受験は時間との勝負なので直前に 後悔しないよう有意義に過ごしましょう

■志望大の教育方針を理解し 専門知識を増やしましょう

大学をめざしたきっかけは、社会に出る前に大学で4年間沢山のことを学びたいと考えたからです。私はAO入試で受験しました。AO入試をめざしたのはどの入試形式よりも早く決まるからです。AO入試合格のために心がけたことは、小論文です。書き方の基本から色々な先生に教わりました。私がめざすのは保育系の大学なので、小論文を自分が進む道である保育を中心に書けるようにしました。そのおかげでAO入試の本番では私が練習した通りの保育系の題が中心に出たので本番に焦ることなく、練習通りに書き進めることができました。ですので、小論文を書く場合は幅広い分野で練習するのも大切ですが、自分の目指している大学のアドミッションポリシーなどをしっかりと理解して、その分野を中心に練習することがとても大切だと思いました。それからAO入試は面接の試験もあるので挨拶などの細かいところから練習していきました。

■先生との面接練習の時間を 有効に活用しました

私はどちらかというと小論文よりも面接の方が苦手だったので、面接の方に時間をかけました。面接が苦手な分、ほぼ毎日先生方から個別で指導していただきました。ただ、仙台育英の生徒はAO入試を受ける人が比較的多く、面接指導の予約が殺到していたため、長時間は面接練習することが難しいこともありました。ですので、先生に質問などをして短い練習時間を大切に使いました。先生に質問した分、細かい動作や発言のミスや癖などに気付くことができました。また、質問したことで分からないところなどを自分で確認することができたので、本番でもあまり緊張することなく面接を受けることができました。緊張に弱いタイプの人にはしっかりと準備をすることが大切だと思います。最後に、受験は時間との勝負なので時間を有意義に使って悔いの残らないように頑張ってください。

尚絅学院大学 健康栄養学群 健康栄養学類に
特別推薦で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
福島 行健中出身

小論文は慣れることが一番なので どんどん書いて文章力を磨きましょう

■面接練習への取り組みで

志望動機が明確になりました

私は将来管理栄養士として食から様々な人を支えたいという夢のため、大学進学を決めました。

受験した内容は面接と小論文でした。面接は約15分間、小論文は資料系の問題から読み取り1時間以内で完成させるということでした。学校で、面接、小論文の練習はもちろんですが、特に面接練習は自宅でも行いました。なぜなら、身内や家族のほうが色々な方向から質問をしてくるからです。大学の進学先を選ぶ際など、様々な面で一番に相談するのは両親だと思います。学校の先生方ともたくさん練習して慣れることはもちろん大切で、私自身とても助けられました。でも家族は、トリッキーな質問に加え、その大学に決めた一番の理由魅力などの確認や、伝えたい思いを親身になって考えてくれます。私自身も母と練習し、そのことから大学に対する思いを再認識することができたり、母から入学を決めるにあたっての疑問を解消することができたりとためになりました。

■様々なテーマについて

沢山小論文を書きました

また、小論文練習が一番は慣れです。どんな問題が来ても、まとまりがあるものを書き切る対応力を身につけることが大切です。私自身も、日々600字程度の量を時間を設けて書くなどの方法で、たくさん練習しては添削してもらったの繰り返しでした。本番では1時間で800字程度、問題を読み取り、一番に問われている問題に対する自分の意見、考えをふまえて書ききることができました。しかし、これはたくさん作品を書き練習したおかげで、問題がしっかりと見え600字の練習で時間が余るようになるくらいに書けるようになったからだと思います。様々な分野や作品から自分の意見を引き出し、課題点を取り入れながら書き進め、まとめる力を高めていくことで形ある小論文を書くことができると思います。

自分自身、夏休みも週3の頻度で学校に通い、昼休み・放課後も利用して、面接練習、小論文練習ともに行いました。頑張った分だけそれだけの力を身につけることができるので最後まで折れずに頑張ってください。

仙台大学 体育学部 体育学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
高砂中出身

将来やりたいことや挑戦したいことを 焦ることなくじっくり探しましょう

■わからないところは積極的に

先生や友達に聞くようにしました

私が大学進学をめざした理由は中学2年生の時に体育教師になりたいと思ったからです。私はAO入試だったので、受験内容は個人面接、グループディスカッションでした。個人面接では他の大学とは違い教室に3人の面接官がおり、一人の面接官と約5分程度の面接を行いました。また、グループディスカッションでは出された問題に対して6人で話し合い発表するというものでした。私は受験までに自己推薦文とエントリーシート、面接練習などをしました。自己推薦文は、なぜこの大学に行きたいのか、大学に入り何を学びたいのかを重点的に書くようにしました。また、私は面接練習に力をいれてきました。面接練習では回数を重ね本番ではスムーズに答えることができました。部活動では私は副部長だったので、チームの皆に声をかけたり、キャプテンのサポートをするのを心がけ部活動に取り組みました。部活動を引退してからは勉強に力を入れました。私は勉強が苦手だったので先生や友達に積極的に聞くようにし、朝の時間や放課後の時間などを利用して勉強を教えてもらったりしていました。大学では評定が大事なので分からないところは分からないままにせず、先生や友達に聞くことが大事です。

■推薦入試ではしっかりと

事前の準備をしましょう

高校生活は中学校の頃よりも時が経つのがとても早いです。将来の夢やなりたい職業が決まっている人は1年生から自分が気になっている大学を調べたり、積極的にオープンキャンパスに参加することが大事です。大学進学は受験だけではなく、事前に準備できる場所は準備することも大事なので、しっかり準備しておきましょう。高校に入って将来の夢などが決まっている人は多くありません。高校に入って決める人がほとんどです。焦らずに自分がしたいこと、やってみたいことを探すことが大事なので頑張ってください。充実した高校生活3年間を送れるように願っています。

聖和学園短期大学 キャリア開発総合学科に

AO 入試で合格

令和2年3月 情報科学コース卒

東華中出身

書類は先生と一緒に確認してから 万全の体制で提出しましょう

■高校で習得した PC スキルを

大学でさらに磨きたいです

大学進学を目指した理由は、情報科学コースに入学して以来、毎日のように使っているパソコンについて高校では学べなかったことを学びたいと思ったからです。

私が高校3年間で取得した資格は、情報処理検定2級、3級、MOSのExcel、Power Pointを取りました。情報処理検定は授業で検定の対策ができるので、特別に残って勉強をしたりはしませんでした。1、2年生で情報処理の授業があり、少人数での授業体制になっているので質問しやすいと感じました。MOSも授業中に行う受験対策で合格することができました。

■面接の返答例は文ではなく

イメージで覚えました

3年生になってから努力したことは、1、2年生からの成績キープとテスト勉強、大学受験に向けての面接練習です。学年が上がるごとに難しくなる勉強についていくのは大変だったけど、自主学習と空き時間を有効に使って勉強に励みました。すると自然に勉強時間が増え、学力キープにつながりました。面接練習は本番当日の2週間ほど前から始めました。担当の先生と昼休みに約35分を2、3日おきに行いました。私の場合は、事前に大学で面談を行った後に受験でした。面談で「自己アピールをお願いします」と面接で必ず聞くとされていたので、自己アピールを中心に面接練習を進めていきました。何度も練習すると自分の苦手な質問がどこなのか分かるようになります。なのでその苦手な質問を克服できるように練習の仕方を変えながら、どんな質問が来ても臨機応変にきちんと答えられるよう準備をしました。私は、本番で9つの質問に答えました。その中でも自分が想像していなかった質問が来て少し戸惑いました。でもきちんと面接練習をしていたので落ち着いて受け答えができました。この経験から面接練習は少しでも行った方が良いです。また面接での答えを文章で覚えるのではなく、1つのシーンとして覚えると良いです。文章だと緊張で忘れてしまうことがあるかもしれません。でも、1つのシーン、絵として覚えると忘れにくいし、覚えやすいのでとてもオススメです！

最後に、大学に提出する資料も高校に提出する資料も、どちらも先生と必ずチェックすることが大切です。全部あっているからと言ってチェックせずに提出は絶対ダメです。先生とのコミュニケーションをとって書類に不備がないか確認することを忘れずにしっかりと行ってください。

少しでも今後受験する方々の役に立てばうれしいです。

東北生活文化大短期大学部 生活文化学科食物栄養学専攻に
AO 入試で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
山形 東根第三中出身

進路実現をサポートして下さる先生方に 感謝の気持ちを持って生活しましょう

■高校での日々の過ごし方が 大学生活にも反映されます

私は、栄養士になるために必要な知識、技術を学びたいと考えています。理由は、小学校2年生の頃から今までサッカーをしていた中で、どんな食べ物をどの位食べたらパフォーマンスが上がり、どのような効果が得られるかを気にすることが増えました。その度に、インターネットで調べたりニュースや料理番組などから情報を得たりなど、食事に気を遣っていたことがきっかけで、栄養士を目指すようになり、東北生活文化大短期大学部生活文化学科食物栄養学専攻へ入学したいと考えました。

私は、部活動だけでなく勉強にも力を入れてきました。部活動では、女子サッカー部に所属し、落ち込んでいる仲間を励ましたり、率先して用具の片付けをしたりすることで、思いやりの精神が身につき、人間性を磨くことができましたと感じています。また、勉強面では、日々の学習に熱心に取り組み、テストでは高得点を取れるように努力しました。学習評価を上げるためには、提出物を期限を守ったり、わからない問題を自ら聞きにいったりと復習にも力を入れたりすることによって上がると思います。高校での3年間によって大学での生活も変わると思います。

■寮生活中であれば自分から 家族に進路を相談しましょう

進路を決めるにあたって、しっかり自分の意思を持つことが大切だと思います。部活動や勉強で時間がなく進路のことを深く考えずにいました。まだ時間があるし明日考えようと思っているうちに時間はあっという間に過ぎてしまいました。私は寮生活のため、親となかなか話すこともなく、後々になって焦ってしまったので、寮生活をしている人は、進路のことはしっかりと親と連絡を取って相談した方がいいと思います。

私は、AO入試を受験しました。なぜAO入試にしたかという、自分をアピールするのに一番適している入試方法だと感じたからです。私が受験する短大は、面接と書類審査だったので、面接練習に力を入れました。夏休みの最後の方が受験日だったので、毎日のように夏休み中は学校に通いました、先生方は時間を削ってまで面接練習や自己推薦文の添削に時間を使ってくださいました。これから進路のことで先生方には沢山お世話になると思うので感謝の気持ちを忘れずに生活してください。そして、進路で悩んでいる人も決まっている人も、まだ何も考えていない人も後悔しないような進路選択ができるように頑張ってください。

仙台青葉学院短期大学 ビジネスキャリア学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 技能開発コース卒
南小泉中出身

1年次から自分と素直に向き合い 強い意志を持って過ごしました

■銀行員になるための資格を 大学でも取得したい

私が仙台青葉学院短期大学ビジネスキャリア学科の進学を目指した理由は、二つあります。

一つ目は多くの資格について勉強をしたかったからです。私は高校生になって資格をたくさん取るために技能開発コースに入学しました。在学中には情報処理検定や電卓検定などを取得しました。就職した時に役立つような資格にチャレンジし、合格することを目標としてきました。しかし、資格を取るために放課後や休み時間に担当の先生に教えていただいたのですが、あと少しのところまで不合格になってしまうこともありました。進学先では、この経験を生かし多くの検定にチャレンジし、一発合格できるよう努力していきたいと考えています。

二つ目は、将来銀行員になりたいと思っているからです。加えて、私自身大事にしてきた部分があります。それは自分に素直になることです。自分の考えや気持ちに対して素直に向き合い、その考えを実践できるように1年生の時から心がけてきました。その事を実践してきたからこそ進学する決断ができ、もう一段ステップアップをしようと決断することに繋がりました。

■アルバイトで視野が広がり 受験でも役に立ちました

私は、勉強も大事だけど、友達と遊んだり部活をしたり、アルバイトをすることも大切にしてほしいと思っています。なぜなら、高校生の時にしか感じられない楽しさも社会経験も必要だと思うからです。アルバイトでの経験や学んだことを生かし、入試などでアピールすることも出来ます。私は、アルバイトをしていたことで人間関係の輪が広がり、進路に役立てることができました。アルバイト先の先輩達からは、私達とは違った目線での考えを学べます。同学年からは同じ受験生として一緒に成長することができました。周りのペースに流されずに、焦らず自分なりのペースで面接練習や準備に取り組み、頑張ってください！

仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科理学療法学専攻に
AO 入試で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
石巻中出身

友人達との時間や部活動など高校生活を 有意義に過ごすことができました

■分からない所は質問して

苦手科目の克服に努めました

大学を受験しようと思った理由は、自分が学びたいことについて基礎的なことから専門的なことまで学びたいと思ったからです。

私は AO 入試で大学を受験しました。AO 入試で合格するためには、成績はもちろん平常点も大切です。評定を下げないようにテスト勉強や学校を休まないなど普段の生活も気をつけました。テスト勉強では自分の苦手な教科を重点的に勉強し、分からない所は友達や先生に積極的に聞くようにしました。また、面接練習にも力を入れました。面接ノートを作り、質問とその答えをまとめました。質問に答えるとき、書いたものをそのまま覚えてしまうのではなくキーワードを覚えて文章が暗記っぽくならないようにしました。姿勢や態度、間違った言葉も使わないように心がけました。面接では限られた時間でどれだけ自分をアピールできるかが大切だと思うので面接官の顔を見て大きな声で志望動機などを伝えるようにしました。面接練習は 1, 2 回で終わらせるのではなく、いろんな先生と練習した方が自信に繋がると思います。

■部活動で身に付いた忍耐力が

受験対策にも役立ちました

私は 3 年間陸上競技部で頑張ってきました。陸上を通して忍耐力を身につけることができたおかげでテストの勉強や面接練習にも集中して取り組みました。部活をしている人は面接をするときの一つの武器になると思います。忙しい毎日でしたが、クラスの友達との時間や部活動のおかげで充実した高校生活をおくることができました。

これから大学受験をする後輩の皆さんは、普段の生活を大切にすることが合格に繋がると思うので勉強や部活どちらも頑張してほしいです。仙台青葉学院短期大学を受ける人はそれぞれの学科ですることとは違うと思うので小論文の過去問を解いたり面接で聞かれそうなことをまとめたり、自分のできることをしっかり準備しておいた方が良いと思います。頑張ってください。

仙台青葉学院短期大学 栄養学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
高崎中出身

努力を重ねて自信に満ちた状態で 受験に臨むことが合格に繋がります

■スポーツ栄養士という夢に 近づくために進学しました

私は、幼い頃からスポーツが好きだったのでスポーツに携わる仕事がしたいと思っていたのと、部活動の経験から栄養に興味を持ったので、スポーツ栄養士を目指そうと思いました。スポーツ栄養学に力を入れている短期大学を見つけ、AO入試で受験することを決めたのは3年生の夏休みでした。その短期大学のAO入試は、面接と調査書のみだったのと、合格すれば早い時期に進路が決まるというのが決め手でした。

1年生の頃から推薦での進学を考えていました。テスト期間は毎日図書館で勉強し、部活動と両立しながら成績上位を維持し続け、授業中の態度や提出物の期限を守るなどし、ほぼオール5の調査書を送ることができました。

■部活動の実績があったので 調査書には自信がありました

また、チアリーディング部に所属し、1年生の時に選抜チームに選ばれなかった挫折の経験を生かし、誰よりも努力を重ねて、2年生の時に選抜チームに選ばれることができました。仲間と切磋琢磨しながらチームが成長していき2年連続で全国大会に出場することができました。このことから、調査書には自信がありました。面接練習では、先生に注意された部分をメモし、改善を重ね練習するたびに自信がついてきました。

私は高校生活を楽しみながらも、1年生の頃から進学を意識し、誰よりも自信を持って良いコンディションで受験に臨むことができました。大学受験で一番大切なことは、自分に自信がつくまで努力することだと思います。自信で満ち溢れた自分で受験に臨めば結果はついてくると思います。文武両道は簡単なことではありませんでしたが、それをやり遂げ乗り越えたことは、大きな自信に繋がりました。

以上のことを踏まえ、これからの学校生活に生かしてほしいと思います。

仙台青葉学院短期大学 栄養学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 フレックスコース卒
向洋中出身

仙台育英での経験や多くの出会いが 私を合格に導いてくれました

■部活動では全国大会に出場し 一生の宝物になりました

短期大学を選んだ理由は、早く就職し親を安心させたいと思ったからです。指定校推薦ではなくAO入試を選んだのは早く決められるからです。AO入試で合格するために頑張ったことは、できるだけ高い評定を取ることです。決められた評定よりも上の評定を取れるように、テストはもちろん提出物や授業態度などに気を付けて学校生活を送りました。また、遅刻や欠席がないように心がけました。

部活では、全国大会に出場することができました。この経験は一生の宝物になりました。また、面接での話題になるため様々なことに挑戦し、良い結果を残せるように頑張っていました。

また、検定にもたくさん取得できるように頑張りました。1年生から検定を取るために勉強し、二つの検定を取得することができました。検定は調査書にも書けるのでとても有利になると思います。

■面接練習の成果を本番で 存分に発揮できました

私は、AO入試で受けたので面接がありました。私は、人見知りで面接は苦手分野でした。それを克服するために聞かれそうな事をすべてノートに書きました。また、色々な先生に毎日のように面接練習を頼み、少しずつ上手になっていきました。初めは恥ずかしさがあり、なかなか力を発揮できませんでしたが、少しずつ慣れることができました。入試本番は緊張で頭が真っ白になったり、声は震えたりで大変でしたが、練習でやってきた事以上の力が発揮できました。

仙台育英では、様々な人と関わることで、そして部活動でも本当に充実した貴重な経験をすることができ、先生方も毎日面接練習に付き合ってくれたなど様々な魅力があります。仙台育英に入っていなければ合格することが出来なかったと思います。

仙台青葉学院短期大学 歯科衛生学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 英進進学コース卒
川崎中出身

勉強だけではなく良い授業態度を 心掛けるだけでも合格に近づけます

■ 1年から評定平均値を意識し AO入試を受験できました

私が大学合格のために心がけたことは評定平均値と出席日数です。

私は1年生の頃から進学希望ではありましたが、なかなか進路を決めることができず、結局、最終的な志望大学を決めたのは3年生になってからでした。私は進学するという目標があったため、1年生の頃から評定平均値を意識しながら勉強に励みました。苦手教科があり、良い点数が取れるか不安な時は、日頃の授業態度や提出物を忘れずに提出するなど平常点を意識して生活していました。

1年生の頃からコツコツ努力をしてきたおかげで受験条件の評定平均値を超えることができ、AO I期で受験することができました。

■ 歯科衛生士になるために 日々勉学に励んでいきます

私が受験したAO入試は、エントリーシートで合格した受験者が、二次審査の個人面接を受けられます。私は面接での自己PRで、欠席せず毎日学校に行き、皆勤賞であることをアピールしました。面接官の方に、出席日数は大学入学後も大切なので自分は毎日休まず勉学に励むことができることを強調しました。

私は一番面接に力を入れました。担任の先生だけでなく、他の色々な先生と面接練習をするとたくさんアドバイスをもらうことができ、質問の聞き方も先生によって違うので、本番でどのような形で面接が行われても臨機応変に対応することができます。

後輩のみなさんに伝えたいことは、1年生の頃からコツコツ努力をすれば、志望大学合格に繋がるということです。勉強だけではなく、日頃の授業態度や提出物を心がけるだけでも変わると思います。

私は春から夢である、歯科衛生士になるために日々勉学に励みたいと思っています。後輩のみなさんも志望大学合格に向けて頑張ってもらいたいと思います。

仙台青葉学院短期大学 観光ビジネス学科に
AO 入試で合格

令和2年3月 技能開発コース卒
大郷中出身

高校生活を通して自分自身が変わり 将来への心構えができました

■専門分野の勉強を始めるため
早く合格したいと考えました

私が仙台青葉学院短期大学観光ビジネス学科をめざした理由は二つあります。まず一つ目は、私は将来、ツアープランナーや添乗員になることが夢であり、また、その職業で必要である国内旅行業務取扱者と総合旅行業務取扱者の資格取得に向けての勉強が大いにできると思ったからです。二つ目は、私はゆくゆくは旅行会社を立ち上げることが夢で、その時に必要になる経営学やマーケティングが学べられることに強く関心を持ったからです。

私が AO 入試をめざした理由は、AO 入試は一般の入試と違って早く入学が決まることができて、早く観光分野の学習に取り組むことができるからです。また、私は少しでも役に立てればいいと考え、ビジネス実務接遇検定の資格を取得しました。この検定は、添乗員となってお客様と接する機会が多くなりお客様一人一人に適切なおもてなしをする時に役立てていきたいと思います。

私が仙台育英でテストの時に実践してきた学習法を二つ紹介します。まず一つ目は、苦手な教科に関しては対策プリントを何度もコピーして解いて、教科書を何度も見返します。二つ目は、得意な教科は時間をあまりかけずに勉強することです。

私にとって高校生活とは自分を変える場所であり、また、資格を取得できる場所でした。

NIC International College in Japan に

AO 入試で合格

令和2年3月 特別進学コース卒

亘理中出身

推薦合格後は新しい挑戦や進学準備など 入学までの時間を大切に過ごしましょう

■やりたいことが見つかったら

まずは行動してみましょう

私は高校3年生になってもはっきりとした志望大学がありませんでした。他の大学と比べたら行きたいと思うけれど、ここに行きたいという気持ちがありませんでした。しかし、ゴールデンウィークに大学の説明会を聞いたとき、ここだと強く感じる大学に出会いました。その大学の初めの入試が5月末にあったので、志望を決めてから受験まで1ヶ月もありませんでしたが、受験すると決心したので変えることはしませんでした。自分のやりたいことが見つかったのならば、迷うより先に行動してみることも大事だと思いました。受験が終わった後は、早く進路を決めたいから志望を変えて受験したと周りの人々に思われなくなかったのが、今まで以上に勉強しようと心に決めました。私は将来の夢を持っていて、今努力しないで夢が叶わなかったら必ず後悔すると思ったので、受験後も勉強を続けることができました。将来の夢の存在は大きく、具体的に決まっていなときよりも決まった後の方が、勉強に対する高い意識が持てました。

■合格後はボランティア活動に

参加し視野を広げました

加えて、私が進学する大学の先輩からのアドバイスで、空いた時間にボランティア活動に参加するようになりました。ボランティアに参加することで、今まで関わることのなかった人々から話を聞いたり、活動を通して社会について考えるようになって視野が広がったと感じます。学校では学べない社会のことを知ることは、勉強と同じくらい重要だと思いました。ボランティアを始めて、時間を有意義に過ごしているなという充実感を得るようになりました。自由な時間が多く、将来についてあれこれ考える時期にボランティアに参加するのはとても身のためになると思います。高校生活が終わっても、ずっと勉強は続きます。終わったからといって何もせず時間を過ごすより、今まで経験したことがないことにチャレンジしたり、大学での勉強に関わることを調べてみたりして自由な時間を大切に過ごし、新しい生活に備えてこれからも勉強を続けようと思います。